

自立した女と男を
人間らしい生活を
差別のない社会を
育み 創り出す

新しい家庭科

ふく

ウ イ

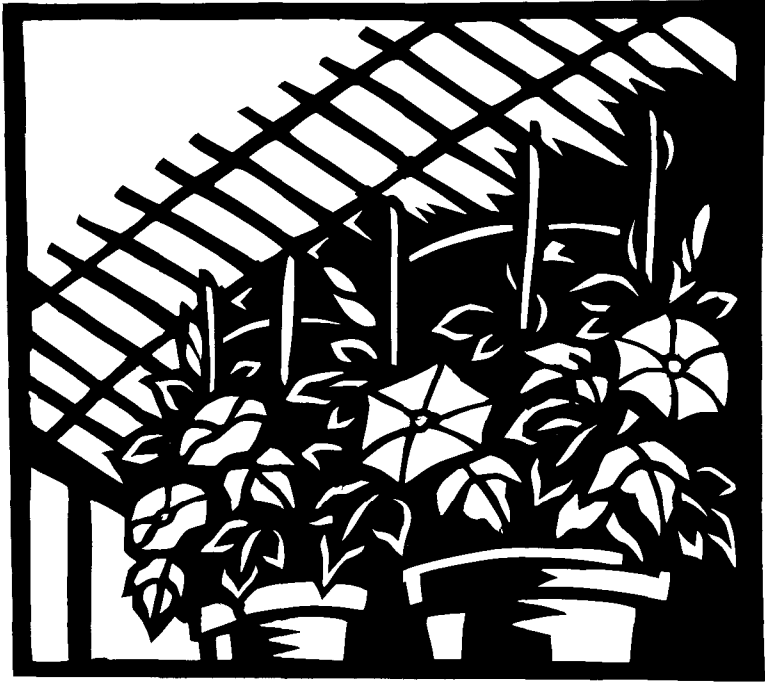
なぜ、
家庭科に
コンピ
ュー
ター



1988 7



四季のうた



朝顔

きり絵と文 金子静枝

夏の朝、早起きしてパッチリと咲いた朝顔に出会うと、一日気持よく過ごせそうな気がする。



都市の底・子ども

夕暮れ近い日ざしに

歩くわたしの影がどんだんのびる

わたしはわたしの影をふんで歩く

と　とまった車のかげから　ふいに少女が一人あらわれ

わたしをかすめて駆けていってしまふ

次には母親にもつれそうにまつわりついた子が

大通りへ駆け出し　またもどってきて

また母親にまつわりついて話している

こんどは　道に自転車をとめて　自転車にもたれて

荷台にまんが本をおいて読みふけている子

子どもは顔をあげてじいっとわたしを見る

子どもはまた本を読む

きょうは一匹ずつの海底の魚みたいな子どもたちだ

都市の底で

子どもたちがみんな上手に自分の居場所をみつけているので

わたしも左足　右足

自分で自分を追いかけて　影踏みおに

ちよっぴり自分の居場所をみつけてみる

羽生 槇子



新しい家庭科



特集 なぜ、家庭科にコンピューター

インタビュー ● 三宅なほみさん (インタビュアー 西内みなみ) ————— 4

◎ アンケート なぜ、家庭科にコンピューター
——家庭科の先生100人に聞きました 12

情報 家庭科教師とコンピューター ————— 18
——新潟高教組の調査から——

家庭科とコンピューター
——「家庭科の先生100人に聞きました」を見て—— ● 木村温美 20

コンピューターを導入する前に ● 飯田 朗 24

家庭科とコンピューターの相性 ● 福田 健 28

私とコンピューター、そして家庭科教育 ● 西内みなみ 34

発言

アメリカとスウェーデンの家庭科におけるコンピューターの使用
● 永島利明 37

家庭科とコンピューター ——永島氏の指摘に応えて—— ● 石川由紀 40

○レポート

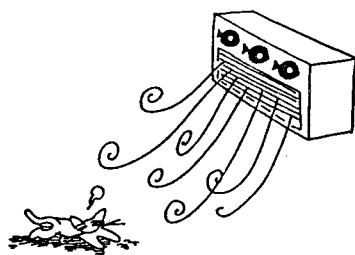
✓ 申し立てせずにはいられなかった ——蕨山高校における男女差別——
● 福地絵子 44

新しい家庭科を創るために

小学校では / 「早くみそ汁 食べたいな」 ——六年生の「みそ作り」——
● 岩瀬志津子 48

中学校では / 住居—生活のしかたと住まい方 (一年共学)
● 常陸れい 53

高等学校では / 性別役割分担を見直す ● 浅井由利子 58



連載

○四季のうた 金子静枝 ●ひと クレートン・ナフさん 36

巻頭詩 / 都市の底・子ども	羽生楨子	1
海の輝く日 / 早春のはがきから	佐藤通雅	64
今、子どもたちの世界は / 「娘の買い物」	塚越敏雄	66
経済の目 / 新型間接税と家計	福島澄香	68
ダブル・ポケット / ⑨アンとロッドの場合 その4	國信潤子	70
歴史の窓 / ハングル(한글)への思い その1	岡百合子	73
ワンポイント 近代日本女子教育史 / 敗戦と教育民主化	秋枝蕭子	74
KNOW HOW 共学家庭科 / 子育て その2	湯沢静江	75
女、そして男 / 女子大学というものの存在	田川建三	76
不思議の国ニッポン / 歴史を知ること	クレートン・ナフ	77
ひよっこクラブの探検家 / 町中がひよっこの遊び場	佐多和子	78
何を血迷っているのか / 連れていかれるぞ	井田朋子	79
はなにっき / ねむ おくのはそ道	藤尾知子	80
よそおい	内山裕子	81
波 / 家庭科にコンピューターを入れる前に	半田たつ子	82

○今月の読書から 84 ○Weになんでも言おう なんでも聞こう 86
 ○Weの読者会だより 87 ○わたくしからあなたに 88 ○泉 90
 ○イキイキぐるうぶ 91 ○十字路 92 ○あんでな 94 ○編集室からあなたに 89



Interview

三宅 なほみさん

“「コンピューターは要らない」という立場は

ある意味で正しいと思います”

インタビュー・西内みなみ

一九四九年東京生まれ。
カリフォルニア大学サ
ンディエゴ校心理学部
Ph.D. 青山学院女子短期
大学助教授。教育心理学
の領域で、コンピューター
の教育への利用に取り
組み、自ら短大のゼミで
実践している。主著『教
室にマイコンをもちこむ
前に』『教育とコンピュ
ーター』（新曜社）他。
小学3年の男のお子さん
がある。和光市在住。

渋谷駅から歩いて二十分、春の花々で彩
られた青山学院大学キャンパス、その奥に
ある短期大学内の研究室にうかがう。

ソフトな語り口とこちらをリラックスさ
せてくださる雰囲気、難しいコンピュ
ーターの話にたちまち引き込まれてしまっ
た。こ壺的になりがちな研究者同士をつな
いで、より開かれた話し合いの場と研究内
容を生みだすと共に、そこから御自分の研
究成果をより充実・発展させている。そう
いった三宅さんの研究姿勢とお人柄とが一致
していて、とても魅力的だなと思う。

同席してくださった芦谷さんとは、学校
や社会の男女差別の問題にも話は広がった。

——今回の教課審の最終答申で、家庭科については、予断を許されないのですが、とにかくにも男女共学になるであろうことと、コンピュータの導入ということが大きな動きだと思っています。

そこで、「コンピュータと教育」について研究されている三宅なほみさんに、家庭科とコンピュータの問題について、いっしょに考えていただきたいとお訪ねしました。

また、現場の教師の立場から率直な意見・質問を直接していただくために、現在都立高校で家庭科を教えておられる芦谷薫さんにも出席していただきました。

家庭科の中にコンピュータが入って、おもしろ

いことの起こる可能性

三宅 Weもずいぶん読ませていただいて、その読ませていただいた範囲では、家庭科の先生方が「今、なぜ家庭科にコンピュータなんだ」とおっしゃる気持ちはよくわかりました。ここではとりあえず、家庭科についてなんにもわからな

いものが、好き勝手なことを言うと思って聞いていただければいいんですが……。

家庭科って、もしかするとコンピュータによって、一番おもしろくしやすい教科じゃないかなって気がしてきたんで

すね。いま、文字の読み書きにしろ計算にしろ、どうしてそういうことを学ばなければならないのかということをも、生徒自身がわかるような形で教えなければならぬ。そのためには教科の内容や教え方の全面的な見直しをやらなければならない。できているという考え方が、いろんな所で少しずつできてきていると思います。

そういう動きの中で、家庭科の中にコンピュータが入っておもしろいことの起こる可能性はものすごくある。けど、たぶんそれは、今までの教科書に出てくるような家庭科の中でではないし、もしかしたら、このWeで考えていращる方向を、もっと過激にしたような家庭科の中でのことも知れないという気がするんですね。

——例えばどんなふうですか。

三宅 家庭科ってね、あまり勝手なことを言うとおこられるかも知れませんが、人が上手に生きていくために必要な、食べるとか、着るとか、他人とかかわるとかいうことや、やり方を、いわばムキダシで直接考えていくための教科ですよ。そのためには、今の私たちをとり巻いている現実の世の中のいろんな情報やいろんな人の考え方を、集めたり整理したり吟味したりしていかなくてはならない。これを教室を拠点にして本気ではじめるとしたら、情報収集や情報整理の道具として、コンピュータがずい分活躍できる場があると思

うんですよ。

アメリカの家庭科にあたる授業の中で、こんなこともできるのかとびっくりしたことがあるんです。男と女が生きていくのは、どういうことなのかということを、高校生が真面目にやっていました。あれは、好みではなくてくじ引きだったと思うんですが（笑）、男女で二人ずつのペアを組むんですね。それで、まずそのカップルで二十年位生活するとしたら何が起るのか、どこに勤めて、いくらかせいで、家事はどう分担してとか、具体的にシナリオを作らせるんです。その上で、予定外の子どもができたとか片方がクビになったとかそれぞれのカップルで決めた「人生の危機」についてね、二人でとことん議論させるっていうことをしてたんですね。

それを発表させてそういう中から、経済的に自立しているとはどういうことかとか、食べるとか着るといふことはどういふことかというのを考えさせて、最終的にはみんなが考える中で学んだことをレポートするというものでした。

こういう中から、男も女も「自立して生きる」ためには何を知らなくてはならないか、何ができなくてはならないかが生徒たちには見えてくるようですね。それと、正しい判断ができるためには他の人の考え方を知る必要があるとか、人間が生きていく上ではどう他の人と関わっていくのかというところが、ものすごく大切なことなんだという話がでてくるわけ

です。

ひとつの可能性としての「パソコン通信」

三宅 この話とコンピュターがどこでつながっていくのかといえますと、我田引水でびつくりなさるのかも知れませんが、こういうことにはパソコン通信が相当威力を発揮するんです。生き方とかそういう日常的なことについていろいろ議論ができるためには、いろいろ違った意見がたくさんあった方がいいでしょう？ ところが、あるひとつの文化圏の中で話し合うと、案外同じような結論に達してしまうんですね。そういうとき、パソコンの国際通信がつかえたりすると、案外簡単に異文化の人から違ったものの見方が引き出せたりします。

例えば「就職後どのくらい勤め続けるか」という問題は、短大生の身近な問題です。そこで学生はアンケートを取るために、選択肢を考えるんですね。「すぐ辞める・結婚したら辞める・最初の子どもが産まれたら辞める」、他に「子どもが生まれたら一旦辞めるけれども再就職する」とか、「いや絶対辞めない」、そして最後にまあ一応「その他」というのを作って、このぐらいの範囲でなら物事がおさまるだろうと思うわけです。そして結婚したら辞める人が一番多くて、再就職したいという人も少しいるだろうぐらいの予測をたて

て、アンケートをとってみると、結果が予想どおりになってしまふんですね。

これだけですと、「ああそうなんだ。やっぱり結婚したり、子どもを産んだときに家庭に入るもんなんだ」となってしまうんですけど、パソコン通信が使えると、アメリカの学生に聞いてみるなんていうこともできます。これは、もちろん手

紙でもできるんですけども、パソコン通信の方が、一度にたくさんの人に聞けたりという利点もあって、ずっとやりやすいわけです。

そういうことを実際しますと、何人ものアメリカの学生がさっきの選択肢は選ばずに最後の「その他」というところに「飽きるまで続ける」と書いてたりするんですね。それでびっくりして、これは一体何なんだろうと話し合っていると、どうも「仕事」ということについての認識が違ふんだというところにいきつきま

す。日本の学生は、自分がどういう生きかたをしたいからということで、選びとるものとして仕事を見ていなかったということに気づきはじめるんですね。コンピュター通信を使うと、そういう答えかたの違いとその背景にある認識の違いが比較的「安易に」、安く簡単に手に入ります。

これは、教師が「アメリカ人はこういうように考えるのですよ」と言うのとは、まったく違うインパクトがあるようです。教えるべき情報を持っていて、それを、ある意味で切売りしていくのが教師の商売だ、と思っている方がもしあるとしたら、その方には通信は向きません。いろんなところの情報が入ってきて、しかもどっかの誰かが書くわけですから、正しいとは限らない。「飽きるまで続ける」と言った学生にしても、こういうふうに書けば日本の学生が「仕事」について考えるだろうと思つて書いたわけではないですよ。

そういう雑情報が入ってきては困るという教育のしかたが今もあるわけですよ。教科書が選定されていて、指導書があつて、初任者研修のように、ベテランの先生についていけばいい授業ができるんだという発想だと、たぶん、ネットとかコンピュターというのは使いきれないだろうと思います。

でも、家庭科が、これからちよつと後を歩いてくる子どもたちといっしょにものを考えていつて、どうしたらもう少し暮らしやすくなるのかしらみたいなことを考えていい教科で



三宅さん(左)と芦谷さん(右)

あるとしたら、いろんな情報が入って来たほうがおもしろいと思うんです。そういうことを生徒といっしょにやりたいというような方には、コンピュータが家庭科の部屋に一台あるということは悪いことじゃないと思います。

家庭科の教師にとって、コンピュータは？

荻谷 パソコン通信をする場合には、かなり費用がかかるんですよね。

三宅 今、私の短大で、学生といっしょにパソコン通信を使ったゼミでは、月に一万円か二万円ぐらいかかります。

荻谷 そんなに学校は出さないでしょうね。

アメリカの授業では先ほど三宅さんがおっしゃられたような形でコンピュータを使っているんですか？

三宅 ベイシックを教えていたり、高校の数学で、放物線の係数を変えて描くところなるみたいなことをやっているところが、まだまだ多いと思います。

ただそういうものにしか使えないと考えて、コンピュータというのは何かを計算するためのものだから、家庭科に入ってくるとしたら栄養計算だとか献立だけだというように、限ってしまうことはないだろうと思います。

プログラマーが要請されているからとか、ワープロを打てたほうが就職に有利だからとかで、ワープロを教えたり、プ

ログラミングを教えるのだと考えるほうがいいですね。

例えば、現場でワープロを指導するのに、指導項目として「1、起動、2、書式設定……」が出てくるなんてことは、ほとんど信じられない気がします。これを指導の目標にするということ自体があつてはいけないと思うんです。こんなことは、マニュアルを壁に一枚はつておけば、済むことですし、ワープロが打てたから就職に有利だとしても家庭科でやる必要はない。

——しかし、学校現場でコンピュータが使われているという実践報告では、例えば献立の栄養計算でデータを打ち込むと栄養バランスがわかるとか、あるいは家計簿を作成するとかが多いですね。そして報告の最後には、必ずと言っていいほど、非常に生徒が興味・関心をもつて意欲的に取り組んでよかったとまとめてあったりするわけです。

中には、生徒獲得のための目玉商品として「情報処理教育」に学校をあげて取り組んでいるような地域もあります。

荻谷 ほんとにその程度なんですね。

それに、毎時間毎時間の準備や、これまで家庭科の教師が積上げてきたなかで、これだけは教えたいという内容だけでも時間数が足りないのに、その上研修だなんだとかりだされて、絶対時間がまったく足りないんです。予算もない時間もない、こちらに受入態勢もないところに物だけが降りてきた

という感じなんですよね。

もつときちんとしたプログラムとか研究がなされた上で、学校現場が納得したかたちであればいいのですが、違うんですよね。「やれっ」と言われて、やったらそんなことしか出てこない。

パソコンを学校現場で使うにあたって、三宅さんの言われたようなダイナミックなことができるというところまで発想がなかなかないかの中では、コンピュータは家庭科に必要なんじゃないかと思うんです。

三宅 出発点として「コンピュータは要らない」という立場はある意味で正しいと思います。今、御自分がなさることの中で、要らないのでしたら要らないものを無理して使うことはないですよ。それでも、私たちのような研究者という立場にいる者として申し上げられると思うことは、一口に「今やっていることの中では要らない」と言っても、その中にムダな機械的な作業があれば、そのところはコンピュータを入れて省力化できるかも知れない。本当に先生方がなさりたいことでも手間とか時間とかその他のいろんな理由で今まだできないこと、すぐくやりにくいことがあるとすれば、それを可能にするような方向にコンピュータが役にたつかも知れませんが、って言うことぐらいなんです。

荻谷 ただ、私も含めて家庭科の教師自身が、コンピュータ

ターの可能性について、あまりにも知らな過ぎることはあると思います。

三宅 そういうことを先生方に簡単に見て取っていただけるようなかたちで、研究をしていかなければと思いますね。

道具としてのコンピュータ

——三宅さんのお書きになったものを読ませていただくと、コンピュータは道具であることを強調されていますね。

三宅 はい。道具だからこそ私達がどういうときにどういうふうに使ったら、その道具が威力を発揮するのかということを考えていきたいですね。生徒が本気でとりくめる課題が設定でき、その中で生徒と先生がいっしょにやるのにやっぱりコンピュータがあつたほうが便利だねと言いながらやるなら、そこでコンピュータの役に立ち方も限界もわかってくるはずですよ。ある程度の使い方というのはそういう中で自然に覚えるものだと思うのです。

道具であればこそ、なんのために使うのかということを生方が、相当本気になって考えてくだらないと、その道具は生きないでしょう。

ただ、気になるのは、道具には使い方があるんだから、それを教えておけば、この道具はどこでどう使つたらいいかというのは子どもが勝手に考えろという発想なんです。例えば

様々な包丁の使い方をひとつひとつ習ったって、おさしみを切らない人にはさしみ包丁は必要ないわけでしょう。使い方のみ習っても、切るっていう作業はそもそもどういう作業なのかということはわからないと思うんです。使い方だけを教えてもしようがない気がしますね。

荻谷 いずれ情報化社会になると、各家庭にコンピュータシステムの末端が入ってきて、その時にコンピュータを単純に経験しているとか、触ったことがあるとか、慣れているばいばいんじゃないかという発想がある。そんな気がしますよね。

三宅 学校に置いとけば慣れるだろうというのもおかしな話ですよ。それに、機械は機械で使い易くなってくれないければいけないはずなんです。坂村さんたちが提起しているようなTRONの考え方も、例えばカメラのように、押せば誰でも写せるようになったから、何を撮りたいということに集中してカメラが使えるようになった。コンピュータだってそういうふうになるべきだということなんです。これをつきつめていくと、操作手順だけを教えるコンピュータ・リテラシー教育なんて矛盾した話になっちゃう。

荻谷 先ほどおっしゃったような、こんな事例があるとか、こんなダイナミックな、そしてこれでなければできないような事例があつて、こんな展開もできるんだよ、ということが

あるから、だから学校に一台ぐらいあったほうがいいよ、という感じで入ってくるならまだしも、全然違うんですよ。「各学校に一クラス分は入れたい」という。それでいて、じや何をやるのかというと、みんな右往左往していて、コンピュータに対して恐怖感を持っている人に対しては「大丈夫今の子は一人ぐらいできる子がいるから」と。こういう感じなんです。これではなんのために入れるの、ということになるんですよ。だから、学校は企業の受け皿でしかないのかという気がしますよね。

三宅 ですから、そのようにして入ってくるのに対して二つの対処の仕方があると思うんですね。全面的に反対して、とにかく入れないでくれと。現場のいろんな細かなことを考えたらろくなことが起こらないから、「要らない」という立場をとって、「きちんと態勢が整った上でないと入れません」と先生方がおっしゃるのか。

あるいは、教室まで持ってきて置いていくなら、例えばパソコン通信を使って、一年に一回でもいいやりとりができれば、家庭科の授業の中である種のインパクトの起こる可能性は非常にあると思うんですね。四十台の中のたった一台が十二か月の中でたった一回であっても、入っていないければその可能性はないわけですから、置いていくなら置いていかれたなりのやり方もあるんじゃないかと思います。

どれだけ本気のを、

コンピューターに入れられるのが、重要

三宅 栄養計算にしても、家計簿作成にしても何の役にも立たないとは思いません。ただ、かなりいろんなデータを入れて、ただ数字を書き並べただけではわからないことが、わかるようになるのか、そこまでやらないとおもしろくないだろうと思います。

教師が一方的に話すという授業に対して、生徒自身が現実の社会で集めてきたデータを打ち込んで、それをいろいろ組み合わせて、同時に動かしてシミュレーションしながら話し合うということも一つの可能性としてあります。ただその場合でも、コンピューターの中に入れるものが、パソコン通信にしろ、ワープロにしろ、シミュレーションをやるにしても、子どもたち自身が本気になれるものだったり、それこそ手足を使って集めてきた、これは正しいと思っている知識であつたりしなければだめだという気はすごくしています。

コンピューターは打ち込めば動くし、いうことをきくから、最初は目新しさも手伝っておもしろいですよ。でも、そのおもしろさは、いづれなくなります。そのときになに出すのかという準備が必要だ、という気がほんとうにします。

こちらが本気のを入れれば本気の役にたつだろうけれども、まあ「一時間でやるならばこの程度のもので入れれば、その程度の動きかしかない、そういう意味で道具なんです。どれだけのをコンピューターに入れるのかということのほうが重要であつて、それは先生と子どもがどれだけいっしょに動き、考えていける環境をつくっていけるかということだと思っています。

仮に、私が家庭科にコンピューターを入れなければならない立場であるとして、現場では、ある先生方はこれでワープロの使い方でも教えましようかと言っていて、そうでない先生方は「ふん」と横を向いてしまつて使わない。ではどうするのかと聞かれたら、たぶん私だったら最初に、現場の家庭科の先生方が家庭科で何を教えたいのかを調べるだろうと思います。どういうテーマについて、何を教えていけたら家庭科の授業だと思っていraftしやるのかと。そして、それをしていく中で「あつ、そのところはパソコンでやればもっとやりやすいし、おもしろくなる、もしかしたらもう少しその先のこともできます」という提案ができるように努力する。そういう作業が、今、必要ではないかと思えますね。

アンケート なぜ、家庭科にコンピュータ

家庭科の先生100人に聞きました

「中学の技術・家庭科で「情報基礎」を、高校の家庭科で「情報処理」を」教課審の答申に、あなたは首をかしげませんでしたか？

Weは、各都道府県から中・高ほぼお一人ずつ計100人の家庭科の先生で読者の方にご意見をうかがいました。学年の変わり目のお忙しい中から、次の方が回答して下さいました。

〈中学校〉 15名

山形―中村和子 宮城―芳賀つか子 新潟―上石喜代子 埼玉―磯部幸江 神奈川―小野マチ子 長野―倉科幸子 愛知―中根好江 福井―田原ふじ子 三重―樋口真利子 和歌山―佐藤久美子 大阪―森陽子 岡山―森本好江 長崎―渡辺晔美 佐賀―原田史子 大分―梅木禮子

〈高等学校〉 27名

秋田―菅原輝子 岩手―阿部和子 山形―渡部美恵子 福島―二瓶和子 新潟―高橋素子 栃木―江連房子 埼玉―石川尚子 柴田栄子 千葉―中山雪江 東京―芦谷薫 神奈川―柴田江身子 静岡―梶原公子 加藤千恵子 長野―湯沢静江 京都―唐津育子 奈良―勇井孝子 大阪―浅井由利子 兵庫―小林嘉子 西本和代 鳥取―森山寿美 山口―田中悦子 徳島―逢坂正子 高知―島本梨恵 長崎―中村美佐子 熊本―立山ちづ子 鹿児島―岩澤秀子 沖縄―大嶺麗子

おたずねしたことで、その答えは左の通りです。スペースの関係で、2・4・7の解答を省きます。数字は回答数、無答は数に入れないので合計は回答数を下回ります。

- | | | | |
|---|-----------|----|----|
| 1. あなたの家庭生活にコンピュータが入り込んでいますか | はい | 9 | 10 |
| 2. 「はい」の方に、それはなんですか | (略) | 5 | 6 |
| 3. あなたの学校にコンピュータが入り込んでいますか | はい | 9 | 25 |
| 4. 「はい」の方に、それはなんですか | (略) | 5 | 1 |
| 5. あなたの都道府県市町村では、教育委員会主催、家庭科教師対象の「情報基礎」情報処理に関する講習会が開かれましたか | はい | 11 | 6 |
| 6. 「はい」の方に、あなたは参加されましたか | はい | 3 | 6 |
| 7. 「はい」の方に、それはどんな講習会でしたか | (略) | 2 | 12 |
| 8. 家庭科の中に今コンピュータを取り入れているのは、栄養計算、献立作製、パターン作製、デザイン、家計簿の記入、編目計算などのソフトを授業に使っている例が多いようです。あなたはもう取り入れていますか | はい | 0 | 3 |
| 9. これからは「読み・書き・ソロバン」から「読み・書き・コンピュータ」の時代だという人がいます。家庭科の中にコンピュータを取り入れることは必要でしょうか | 必要 | 2 | 6 |
| | 必要ない | 10 | 19 |
| | どちらともいえない | 2 | 3 |

10. 次は、新潟県の高教組、家庭一般共学推進委員会が行った調査結果（18～19頁参照）から、コンピューターに関する部分を取り出したものです。ご一読の上あなたの感想をお寄せ下さい。

〈中学校〉

家庭科にコンピューターは必要

。（必ずしも、という感もある）。体とともにノウミソも固くなって来た昨今、新しいことにどんどん挑戦するのは大変です。新しいことも大切ですが、日本古来のものを守ること大切じゃないかと思えます。昔をなつかしむのは、老化の現象でしょうが、手先が使えない子を見て、嘆いているのも時代おくれなのではないでしょうか。

（樋口）

必要ない

。正直言って、全くよくわかりません。夫が仕事であれこれ使っていますので、教えてもらおうと思えばすぐなのですが、はたしてコンピューターをすなおに受け入れていいのか、学習不足のため答を出せずにいます。ただ一つ言えるのは、今の人間（教師）は、事務処理が早くできる人が有能だと思われる風潮があり、とてもいやです。コンピューターを認めるということは、人間がもつ悩みやまどい、失敗を打ち消すことにつながりそうで心配です。でも、そんな本能からくるニオイをかきとるような心もとなない反対論ではなく、もっと堂々と理論として、数多の人とわたりあえるようなコンピューター否定論を身につけたい!! 学習したいです!!

（渡辺）

。家庭科の必要性の高まりから導入されたのではなく、内需拡大を

図る企業側の考えであると思う。それに中学校時代は、基本的な考えや生き方・技術を教えるのであって、情報基礎まで広げる必要はないと考えます。

（佐藤）

。アンケートでは、家庭科にコンピューターを拒否する人が5(1)で65%あるが、(2)でウが42・6%あって、あいまいさを感じる。講習会の参加にも複雑な意識が見えかくれるが、教師として、or個人的にコンピューターに興味をもち、必要性を感じることと、家庭科教育は、きちんと区別してほしいと思う。私自身は、技・家の共学をしている中で、技術科の先生が積極的であることに、どうしようもできず困っている。技術に情報基礎が導入されるのであれば、早く技と家を分けたい。文部省の動きはもっと先に、高校家庭科に技・家を割りこませていて腹立たしく思う。（森）

。中学校では情報処理は技術科の分野となり講習は、技術の教員が対象となる。家庭科の教員が行う場合は免許外になるとか。ただでさえ時間が足りず、家庭科の内容が十分に学習できないのに、授業でコンピューターを使いたいとは思わない。5(1)(2)の3割に近い人が主流にならないように、家庭科とは何か、しっかりさせたいです。

（磯部）

。コンピューターの技術を習得したり、基礎を理解するのは大切、必要だと思うが、それは家庭科の中でなく、一つの教科または別枠でやった方がいいと思う。家庭科がようやく男女一緒にできる、世間も認めようとしている時に、コンピューターにふりまわされて、本来の共学がおかしくならないようにしたい。コンピューターにふりまわされない、本来の人間の生き方を考える教科として、内容を充実していきたい。

（中村和）

。学校教育の中でのコンピュータ利用は、ぜひ必要になってくると思うし、大切なことだと思う。しかし今、中学校の家庭科は時間数も少なくなってきたから、この中でコンピュータを使用することは反対。手を動かし、体を動かして体験すべき教材が多いのだから。

(田原)

どちらともいえぬ

2

。これからの生活では、コンピュータは欠かせない物となるのはよくわかりますが、家庭科で教えていかなければならないのかは疑問です。中学校は技術・家庭なので、技術領域で教えるのはいいのではないかと思います。しかし、現実問題としては、今の指導内容で手いっぱいの上、これ以上ふえるのはちょっと大変だと思います。

(中根)

。理論的なものは他教科で、家庭で利用できる部分を利用していく。ただ学校のもの機械がたかかったりするので、現在は具体的に利用するのは時期が早すぎると思う。

(倉科)

〈高等学校〉

必要

6

。これからの社会要請、家庭生活を考えると今の電気に等しい価値でコンピュータが生活の中に入ってくると思う。これを正しく使いこなす技能は、教育の中で必要と思う。私自身もってコンピュータについて知りたいと思っている。

(上石)

。コンピュータを使う能力を養うことも大切。何ごとにも丸ごと依存ではなく、自己の能力の中で、バランスをもつこと。日本人はすぐのめりこむような気がする。たとえば、ワープロに依存しすぎて、手で書くことを忘れたりしないように、ワープロの限界を

知れ！

(柴田江)

。栄養計算、家計処理、設計など、処理能力は活用に使おう。知らないより、知っている方がはるかにいいし、学校の備品を充分活用したい。

(小林)

。コンピュータを指導するのではなく、現実に入っているのだから、使うことができる指導をしている。必要or必要でないの選択ではない現実を迎えている。どう利用するかを考える段階と思う。

(阿部)

。時代が動いているので、否定ばかりはしておれないと思う。ただ、プログラムを組むのが大変なので、ここで使いたいと思う機能は、なかなか簡単には作り出せないようだ。自主編成で授業をし、生徒の状況を考えながら、生徒の体を動かさせながらの展開をしようとするとき、コンピュータはそれほどたくさん使うことにはなりそうにない。これまで、自主編成の本を発行させてきたが、自主編成のプログラム作成、ソフトの販売を考えることも必要だろうと思う。

(立山)

。本年度パソコン、ワープロが数十台導入される予定です。時代の要請で家庭科の授業への導入も必要となっています。

(逢坂)

必要ない

19

。私はコンピュータに関することに家庭科の時間をさくのは、一時間でももったいないと思う。コンピュータが家庭に普及するときは、学習や訓練の必要がいくらいに、誰でも使えるようになっていらずで、現在のようなキーボード方式では、まず家庭に普及はしないと思う。時代の要請として必要なら、家庭科以外のところでもやればよい。しかし、そもそも学校というところ

は、転移可能な基礎基本原則的なことを教えるところで、コンピューターの使い方のハウツーを学ばせて、どんな力を養おうというのか？ 専門学校で情報処理を学んでも、学んだことが役に立つのは三〇五年、あとは使いものにならないと聞く。

コンピューターに携っている人間がおかしくなっていくという現実が発生してきつつある今、「人間らしく生きること、より自然に近い生活こそ、豊かさの追求」の時代にあって、なぜ家庭科教師がコンピューター教育に加担していくのか。家庭科の本質の追求がいつもなされず、流されている結果であると思う。家庭科の中で、生徒の生き方をゆさぶり、ともに希望を語り合うような授業をつくらうともせず、経験もせず、自分の生き方の基本線も定まらず、大きな力の中に流されていく教師が多すぎる。

県の指導課に入るような人も、決して家庭科教育に見識があり、力のある人がなっていない。むしろ逆の状況ですらあると思う。家庭科を愛し、実践でその教育的価値を確認し、あるべき家庭科を求めて発言している人が、過激として排除されようとしている。家庭科は危機にある。

(柴田栄)

校内で教師が使うには便利かも知れないが、家庭科には必要ないと思う。なぜ少ない時間の中でしなければならぬかわからない。ただ「コンピューター」の文字が、家庭科の魅力づくりに役立つというものはあるのではないか……ナ。

(島本)

家庭科は「くらしに関する基本的な知識・技術」を学習する教科であって、いくら社会がコンピューターの時代になったからといって、崩れるものではない。現在の社会の教育だの子どもの生活だの、すべてがくるっってきているのは、家庭生活までも、コンピ

ューター式に愛情の外で行われるようになってきたことが大きな原因のように思える。時代の流れに逆らうわけにもいかないの、自分もこれから少し頭をつっこもうかと思っているが、それは暮らしの基礎、基準があつての上での話、高校生の家庭一般に取り入れるべきものとは思わない。

(中村美)

教育としては必要でない。道具としてはあつてもよい。本校にも、63年度よりコンピューター10台が導入される。期待していなかったが、たまたま希望設備の中に入れていたら、予算がついてしまったという感じ。部屋もなく、経験もない中で、どうしたらいいか模索中である。型紙づくりについては、すでに何年かの経験があるので、それを中心に栄養計算等に当分は使つてゆくつもりである。

(石川尚)

新潟の先生方が危惧しておられるのと同様に、家庭科教育の内容が、コンピューターでうすめられたり、まどわされたりする危険を察知します。栄養計算などについては、即効性はありそうですが、それがなければ指導できないのでは、順序が逆という思いです。

(湯沢)

家庭科に情報処理を導入することに対して積極的賛成者は3割位であり、またコンピューター講習会に参加した人の中で、意義を認め授業で使いたいと考えている人は1.5割というところを見て、家庭科教師自身は家庭科にコンピューター導入が必要と考える人は少ないのだと思った。しかし、現実には、必要か必要でないかの議論をぬきにして、「コンピューターを家庭科に導入するにはどう使うのか」ということが先行している。「家庭一般」男女共学になるのに当たり、家庭科教育の目標を家庭科教師として

どう考えるのか、共通認識を持つことが重要と思う。その上で、コンピュータの問題を考えたい。

(加藤)

コンピュータは使い方によっては便利なものに違いない。でもそれは、たいへんな集計のやり方、線の引き方などを熟知している人が利用してはじめて価値があるのだと思う。日本の教育は、とにかくなんでも公式にあてはめさせるだけで、どうしてそうなるのか、過程の思考を重要視しないといわれるが、ただ便利、速いというだけで、コンピュータを導入したところで、考える力は育たない。むしろ、何もないところから出発し、考えるのが家庭科であってほしい。

(高橋)

家庭科はいつの時代も、政府の政策にほんろうされてきました。コンピュータ導入も企業の金もうけに協力するためであり、その中身も、調理の実技検定等と同様に、小手先の内容です。日本の今の状況の中で、日々生活することや家族の意味について学び、考えることこそ、今の高校生に重要なことです。

(唐津)

新潟では $\frac{1}{4}$ の地位がコンピュータを家庭科に導入することに賛意があるようだが（この数値大きいと見るか小さいと見るかは意見が分かれると思う）、実際に講習会等に参加した動機は家庭科に関係なく、新しいもの新しい動きへの興味がかなり大きいと言えるデータだと思う。新しいことや動きに関して知りたいと思うのはあたり前だと思う。しかし、それが「家庭科に入りたい」と思うことは別次元のことで、最後にまとめられた意見の多くが、真剣にどんな教育をするのかという位置で考える教師が多くいることに、励まされる思いである。「コンピュータ入れなきや、家庭科は古いまま、新しくならない」というのはゴマカシ以

外何ものでもない。

(芦谷)

新潟では $\frac{1}{4}$ がコンピュータ積極派、2割位は反対派、残りの半数弱が疑問を抱き、ちゅうちょしているように受けとめられる。

私の周囲も大体こんなふうに分かれている。県では、家庭科への導入を図るため、コンピュータ委員を設け、ソフト開発をしている。これに疑問を抱かないグループ、また家庭科にコンピュータは不要とするグループも多いが、この人たちの大半は講習会に参加している（させられている）。一方で、年配の人や女子高の人は自分に関係ない、としている。アンケートを見る限り、賛成派の人でさえ、家庭科にコンピュータが必要な確固とした理由が見出せず、単に時代の要請としか答えていない。更にどちらともいえないという人が半数近いことを考えると、このままコンピュータを導入することに大変な無理を感じる。

(梶原)

家庭一般では、生活にかかわる基本理念、基礎知識・技術を教えるべきであると考えるので、コンピュータは、それ以後のことになる。家一の授業に取り入れることは、ますます人間教育を希薄にすると思う。

(勇井)

コンピュータを使わない（使えない）ということで時代にとり残されてしまいそうなコンプレックスを感じざるを得ない状況ですが、「手をかける」ということが、家事労働の本質（ひいては人間の）ではなかったか、と思ったりしています。

(森山)

この二年間は産休・育休でほとんど仕事から離れているため、コンピュータ導入ということが問題にされる時代なのかと驚いている。勤務校でも、本年度から校内講習会を開くなどするらしいが、家庭一般への導入がどのように必要なのかわからない。問8

の中の例などコンピュータでなくてもよいのではないかと思ったりする。現在のところ、現場で授業に取り入れるのは、設備の面からも難しい。どうも私は時代の波に乗りおけているようだ。当分私自身の勉強が必要だと思っている。

(田中悦)

。情報化社会になるのだから、操作を覚えて悪いことはないが、家庭科で授業としてとり入れるのはおかしい。家庭科は生活に根ざしたもので、人間教育と思われます。

(菅原)

。新潟の調査の不安や疑問のところに共感する意見がたくさんありました。ここ二年ほどの間に、学校の文書やテスト作成にワープロを使うことが日常的になり、ワープロを使えないと恥ずかしいような雰囲気になったのは確かです。でも、だからといって、なぜ情報処理を家庭科に入れるのか納得できません。特に家庭一般四単位ではもっと大切なことがたくさんあり、それでなくても時間が足りないと思っているのですから。どなたかの意見にあるように、家庭科の根幹にかかわることを、今こそ考えていかなければと思う。

(西本)

。アンケートの多数意見に賛成です。情報処理が家庭科に導入されることはおかしい。家庭科は常に、その時の社会情勢において内容がコロナと変えられてきました。現時点では、必修のための準備が、さらに具体的に必要だと思えます。

(中山)

。共学の授業内容にコンピュータを導入するのがよいのかどうか、揺れ動く先生方が伝わってくる。コンピュータについての理解は大切だと思うが、授業の中には必要ないと思う。少なくとも商業科の生徒においては、必要なと思う。

(二瓶)

。情報処理が家庭科に導入されつつあることに対しては、内需拡大

をはかる企業側の考えであり、それに振り回されるのはおかしいと批判しながらも、時代の要請なので、コンピュータの使い方がいろいろ知っておかないという気持ちが、新潟の調査から伝わってくる。

(岩澤)

。情報化社会になるのだから」という理由だけで導入したくない。生徒に「使わせたい」と思っても、ちよつと講習会に参加したぐらいでは無理なようだ。授業で使いたい分野といつても、特に必要だと思ふものがない。アンケートのデータ処理などに使ったら便利かもしれないが、コンピュータがはじき出す数字を重要視しすぎて、本質がみえにくくなることもあるかもしれない。使うとすれば、コンピュータにどんなことができるのか(得意なのか)、また、何ができないのかをよく知った上でだ。

(浅井)

どちらともいえない

3

。手段として取り入れてもよいかと。各々年四回位と思われるが、ここに問題多いです。情報教育にあまり力を入れ、偏りすぎるおそれあり。真の家庭科教育(男女とも)検討を何よりも早く定着させる方向へ努力すべきではないでしょうか。

(江連)

。(新潟のアンケートには)教師の心情がよく出ていると思う。いかに利用するか、いかに社会情勢に流されないかが、一番肝要と思う。

(渡部)

。計算機程度の手軽さになったら、誰でも自然に使うようになるでしょう。その時まで積極的に取り入れる気はなかったのだが、学校全体として情報処理は取り入れないといけないという方向なので、担当せざるを得ない状況になりつつある。自分の意志とは無関係にどんどん流されていくようで、こわいです。

(大嶺)

家庭科教師とコンピューター

◎新潟県高教組家一共学推進委員会による「家庭一般」男女共学に関するアンケート調査結果は、5月号で、その1部を紹介しましたが、“家庭科と情報処理との関係”の部分を掲載します。

(1)情報処理が家庭科に導入されようとしています、これについてどうお考えですか。(複数回答可)

- ア. 高度情報化社会になるのだからコンピューターの導入は良いことだ 29.0
- イ. 文部省が入れてきたのだから必要なだろう 0.6
- ウ. 家庭科の中に入れるのは、内需拡大を計る企業側の考えであり、それにふりまわされるのはおかしい 43.2
- エ. 共学家一の理念に反するので反対 22.2
- オ. その他 12.3
 - ・ 良いこととも思わぬが利用できるところはすればよい
 - ・ 家庭科に焦点をあてるのはおかしい
 - ・ 利用できない

(2)生徒に授業で使わせたいと思いますか

- ア. 使わせたい 26.5
- イ. 使わせたくない 21.0
- ウ. どちらともいえない 42.6
- エ. その他 8.6
 - ・ 効果のある分野で部分的に
 - ・ 現状ではムリ、教師の遊び
 - ・ ドンドン導入すべき
 - ・ 今後の生活に不可欠、家庭科としてもとり組まざるをえない
 - ・ 電算機と同じように使えるなら、将来べんりであれば
 - ・ 教師が必要に応じて
 - ・ 家政科等の専門分野で、基本的力をつけた後
 - ・ 将来社会はコンピューター化されるのか？ せめて家庭は対話がほしい。

(3)県教委主催のコンピューター講習会に参加されましたか

- ア. 参加した 29.0
(1回：41人 2回：4人 数回：1人)
- イ. 参加しない 40.7
- ウ. 機会があれば参加したい 25.3

(4)ア. の参加された方に伺います

①参加されてどうでしたか	
ア. 有意義だった, 授業で使いたい	15.3
イ. 使いこなせない	25.4
ウ. 使い方はわかったが授業では使えない	20.1
エ. 今後もやってほしい	35.6
オ. その他	3.4
②ア. の授業で使いたいと答えた方に伺います。どの部分で活用されると 思いますか	
被服一型紙, 配色, 製作順序, デザイン	
食物一栄養, 献立, 栄養計算, 診断	
住居一設計	
家庭経営一家計簿	
その他一指導成果のたしかめ	
③参加された理由は何ですか	
ア. 家庭科に導入されるから	2.0
イ. 時代の要請であろうし, コンピューターの使い方を知るため	94.0
ウ. おもしろ半分	4.1
エ. その他	0
(5)上記(3)のイ. 不参加の方に伺います。不参加の理由は何ですか	
ア. 参加を希望していたが, 日程が合わなかったり, 定員オーバーで	31.0
イ. 年齢的に今やってもしょうがない	11.3
ウ. 興味なし	9.9
家庭科で使う必要を感じず	33.8
オ. その他	14.1
・他の講習会に出た。自分で学習中	
・家一ではもっと別のことを学習したい	
・2, 3日で使えるようにならない	
・ただの興味だけではダメ	
・県教委の講習会開催意図が不明確である。(コンピューター専門学 校から要請でもあったのか?) 今やらなければならないことはもっと家 庭科の根幹にかかわることではないだろうか	
〈余白に記された意見〉……(要約)	
・県のコンピューター講習会は, 現場の機種と異なったり, 自由に使えな かったりで, 無駄になることが多い。	
・早く男女共学一の研究をしたい。コンピューターは他教科でやって	
・入門から始めるなら時間がかかりすぎる。導入の目的がはっきりしない。 ソフトのみ取り入れるなら, 時間は短縮しても, 理論的な根拠がおろそか になる。入力すればコンピューターが製図しても, 過程の学習が抜ける。	

家庭科とコンピュータ

「家庭科の先生100人に聞きました」を見て――

木村 温 美



はじめに

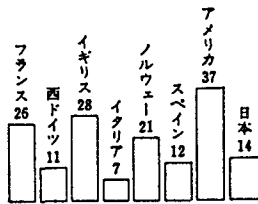
We誌が日本全国の各都道府県中学高校家庭科教師ほぼ一人ずつ、計一〇〇人を対象に、今年四月十日〆切でアンケート調査を実施した。動機は「なぜ家庭科にコンピュータ?」という、家庭科教師の素朴な声によるという。その集計結果は表(12頁参照)のとおりである。さらに新潟高校教職員組合が一九八七年一〇月、家庭科教師を対象に(二二三名対象で回収率六九・八%)行った「家庭一般男女共学に関するアンケート調査」のうち、「家庭科と情報処理との関係についての設問(1)～(6)」の集計結果を示して、それに対する感想を求め、それを「問9」に対する回答者の「家庭科にコンピュータは必要」と「必要でない」とした者とに分けて「問10」の感想文の全文が分類され添付されている。

以上が今回のアンケートのアウトラインであるが、特に「問10」に寄せられた感想文はなかなかの力作で、これらを全文掲載したらいきいきとした調査報告になると思われる。

一、調査結果と考察

(1) 調査方法について一言
対象について――先ず苦言を呈すのは申しわけないが、この種の調査では対象のきめ方が結果の有効性を規定するといっても過言ではない。そこで気になるのは全国から一〇〇人をどんな観点から選んだかが不明なことである。全くの無作為抽出なら一般性はより高く、もしWeの読者対象ならかなり意識の高い人が多いはずだとみて、それなりの解釈の仕方ができるからである。

図1 私は、コンピュータ
 かワープロを使ったこと
 がある。



(the Atlantic Institute for International Affairs 1985. 4)

西ドイツの科学教育研究所 (IPN) は、図1に示すように、各国民は、コンピュータの使用に比べて、ワープロの使用に比べて、低い割合で使っている。これは、ワープロの使用が、コンピュータの使用よりも普及していることを示している。また、図1のデータは、1985年の調査結果であり、現在の状況とは異なる可能性がある。この調査は、大西洋国際研究所 (the Atlantic Institute for International Affairs) が実施したものである。No. 344, (1986), p. 34

設問内容について——問1と3の「入りこんでいますか？」という言い方は、設問者のやや否定的な価値観がうかがえるから、回答者を誘導するおそれがある。すなわち「使っていますか？」のほうがよい。また問9では是非かと聞かれても「どのように使うとしたら」という条件なしには、正確な答えは引き出しにくい。葉書回答という制約もあるが、例えば問8の条件では？ という聞き方でもよい (問8の条件だったら、効果が見込まれるなら私は使つてよいと答えるだろう)。

以上のような問題点と制約を含んでいる、ということを知した上で、しかしながら全国から寄せられた第一線教師の声はコンピュータの波に対処する家庭科のあり方を改めて考えさせるものとして、投げられた貴重な一石であると思う。

(2) コンピューターの普及とその教育

問1〜4で家庭と学校におけるコンピュータの普及状況が問われていて、回答では急速な伸びがうかがわれる。というのは例えば図1の各国民コンピュータ使用経験調査では、三年前には日本は一四%でしかない。また諸外国の初等中等教育におけるコンピュータ教育の実態調査によれば、「イギリス・カナダ・フランス・アメリカでは、ほとんどの小・中・高校に、マイコンが少なくとも一台は入っている。カナダのアルバータ州やイギリスの中学校では平均一〇台以上、ほかの国でも、シンガポールの中学校には全部、スウェーデン・デンマーク・韓国・イスラエルの学校にもかなりの数のマイコンが導入されている。日本の小学校2%、中学校13%、高校81%の数字、特に小学校・中学校の現状は、これらの国々と比べるとまったく少ない」となっていたのに比べれば、母集団の相違やサンプルの違いを考慮に入れても、わが国においてここ数年の普及の速さがわかる。

それと同時に問5や新潟高教組の調査でもわかるように、文部省をはじめとする教育行政当局が、コンピュータの現職教育を進めている状況がある。しかしこの現職教育は、何も家庭科だけを狙いうちにしていない、ということである。現在、コンピュータに関する教職員研修は、その大半は全国にある情報処理教育センター及び類似機関によって行われている。一九八五年四月現在で44センターあり、講

座内容は多岐にわたり、常に定数の数倍に及ぶ申込者があ
る、という盛況ぶりである。

さらに一九八六年七月には、文部省及び通商産業省の共管
法人として、(財)コンピュータ教育開発センター(CEC)
が設立された。⁽³⁾この財産的基礎は主としてコンピュータメ
ーカー・ソフトウエアメーカー及び教材・教科書等関連業界
企業からの出資金に依り、組織としての役員は、教委・校長等
の教育関係団体代表者、学識経験者、コンピュータ及びソ
フトウエアメーカー、関係企業の団体等の各代表者となつて
いることに留意しておく必要がある。コンピュータ関係の
おしつけが多く、そして強まることが予想されるからである。

それにしても問5で、高校家庭科教師対象の「情報処理」
講習会開催率の高さは、全国高校長協会家庭部会の危惧が当
たった感がある。同部会は「情報処理」についての教育を行う
教科は家庭科のみに限定されているように受けとられる恐れ
がある」と教課審中間まとめに文句をつけていた。

(3) コンピューターの導入

問8の結果をみると、思ったとおりまだ教具としての使用
も少ない。問5と見比べると、講習を受けたからといってす
ぐ取り入れられるとは限らないことは、新潟高教組の調査結
果が説明してくれる。すなわち、受講者の15%だけが「授業
で使いたい」とし、「授業では使えない・使いこなせない」

が45%を占めている。そして参加理由の94%が、「時代の要
請と、コンピュータの使い方を知らため」であつて、直接
家庭科とは結びついていないのである。

問9は情報化社会の基礎的教養としてコンピュータの位
置づけを前文で述べながら、後文でいきなり一教科の内容と
してコンピュータの位置づけを問うているから、答えに困
る設問である。では「読み・書き」は家庭科に取り入れる必
要があるか? と問われたら、どんな答をどのように解釈で
きるのだろうか? と問い返したい気がする。

二、家庭科とコンピュータ

——まとめに代えて——

問10に寄せられた感想文は、それぞれに家庭科の方向やコ
ンピューターへの対処について、的確な見解が述べられてい
るので、それらを引用紹介することによってまとめに代え
たい。

(1) コンピュータリテラシーの必要と限界

「コンピュータの技術を習得したり、基礎を理解するのは
大切、必要だと思うが、それは家庭科の中でなく、一つの教
科または別枠でやった方がいいと思う。(中村和)」

「コンピュータが家庭に普及するときは、学習や訓練の必
要がないくらいに、誰でも使えるようになっていくはずで、

現在のようなキーボード方式では、まず家庭に普及はしないと思う。時代の要請として必要なら、家庭科以外のところであらばよい。(柴田栄)

コンピュータが社会の営みや生活のすべてに深くかわる時代に今の子ども達が生きるということは間違いない。それならよりよい人生や社会を可能にするようにコンピュータを働かせる力を子どもたちにつけてやる必要がある。しかし、コンピュータのハードもソフトもまだまだ目まぐるしく進歩し変化化するから、一般市民の基礎教養としてのコンピュータリテラシーは、学校では使いこなす能力よりも、“あらかじめ仕組まれたようにしか働かない、そして機械としての制約を持つ”コンピュータの効用と限界を、ただ知るだけでなく「感じ」として馴染むことが主眼であらう。

(2) 家庭科でやらねばならぬこと

「コンピュータに携っている人間がおかしくなっていくという現実が発生しつつある今、“人間らしく生きること、より自然に近い生活こそ豊かさの追求”の時代にあつて、なぜ家庭科教師がコンピュータ教育に加担していくのか。家庭科の本質の追求がいつもなされず、流されている結果であると思う。(柴田栄)」

「家庭科がようやく男女一緒にできる、世間も認めようとしている時に、コンピュータにふり回されて、本来の共学が

おかしくならないようにしたい。コンピュータにふり回されない、本来の人間の生き方を考える教科として、内容を充実していきたい。(中村和)」

「アンケートの多数意見に賛成です。情報処理が家庭科に導入されることはおかしい。家庭科は常に、その時の社会状況によって内容がコロコロと変えられてきました。現時点では、必修のための準備が、さらに具体的になされるべきだと思います。(中山)」

「新しいことや動きに関して知りたいと思うのはあたり前だと思う。しかし、それが“家庭科に入りたい”と思うことは別次元のことで、最後にまとめられた意見の多くが、真剣にどんな教育をするのかという位置で考える教師が多いことに、励まされる思いである。(芦谷)」

これ以上にどんな言葉もつけ加える必要はない、というのが私の結論である。

引用文献

- (1) 坂元昂・「諸外国におけるコンピュータ教育利用と我が国の教育」教育と情報No.344(1986)pp.2~3
- (2) 中沢興起・「情報処理に関する教職員研修の現状と今後の課題」・教育と情報No.334(1986)pp.8~13
- (3) 文部省初中局中学校教育課・「(財)コンピュータ教育開発センターの設立について」・教育と情報No.342(1986)pp.55~57
- (4) 「情報・新教育課程へ向けての提案」・We1987,5,p.75

(きむら・はるみ 福井大学)

コンピューターを導入する前に

飯 田 朗



◎なぜ、技術・家庭科でコンピューターを

「諸外国から、日本の学校へのコンピューターの導入率が低いという批判が強い」「ソフトウェア技術者が大量に不足しているので、早くから学校で教えてほしいという産業界の要望が強い」「中学校の理科や数学では教えることがいっぱい無理だから、とりあえず技術・家庭科でコンピューターを教えていただく」という主旨の発言が、昨年、文部省も後援するシンポジウムでありました。

教育課程審議会の「中間まとめ」を読んで、私は「なぜ、中学校で、それも技術・家庭科で」と疑問に思っていたので、この発言を聞いて、「なるほど」と思いました。

CAI (Computer Assisted Instruction) のソフトとして

開発されているものには、理科や数学が断然多いのです。また、CMI (Computer Managed Instruction) としては、成績処理や進路指導のソフトが多いのです。ですから、私のような疑問を持った方は多いと思います。

技術・家庭科の授業において、「どんな内容を」「どんな機種で」「どのように」教えるのが明確でないまま、コンピューター導入の計画が着々と進んでいる理由はそこにあつたのか、「なるほど」と思ったのでした。

私の現在の予想ですが、内容としてはコンピューター・リテラシー (Computer Literacy) 教育になりそうです。しかし、機種については、B・トロンの開発を待ってからになりそうです。

◎技術科室で

私は教師になって十一年間、主に技術科を教えてきました。小規模校ですので、一人の持ち時間数を均等化すると、どうしても他の教科を持つことになります。これまでに、英語・数学・社会を持った経験があります。無免許で教えるのはどうかと考え、七年間かかりましたが、一昨年ようやく数学の免許（中二普）をとりました。

私にかぎらず、技術・家庭科の教師で他教科を、あるいはその逆で、という例は一部の都府県を除いて、全国的にけっこうあるのです。

そうした教師に、新しく「情報基礎」を教えなさい、と言われても、「困ります」と答えるでしょう。

また、生徒たちにもどうしても教えなくてはならない内容なのでしょうか。

技術室での生徒たちは、受験教科でないという気安さから、上級生になるほどおしゃべりをします。

「それは、あなたの力量不足・準備不足だからだ」と言われれば、それもあると思いますが、それだけででしょうか。

技術室でおしゃべりしたり、騒いでいる生徒を見ていて、この子らに必要なのは、テストや順位、偏差値で追いたてることではなく、「勉強しておもしろい！」という感動を与え

ることだと、私は思うのです。

授業中は騒いでいた生徒でも、「芽が出ないじゃんか」と聞きにくることがあります。三日前に植えた球根から芽が出てこないと気になったらしいのです。

今年の三年生は、私の技術科の授業を受けるのはじめてなので、授業中はいろいろと抵抗を試みます。球根の植えつけの時は、大はしゃぎで、指示を無視して勝手に土を入れて植えつけていたのが大半でした。それでも、その後、「水やんなくてもいいの」「ほんとに芽が出んの」などと聞きにくる生徒が何人もいて、私の方が驚いているところです。

こうした生徒たちを見ると、「世界は情報化社会にむかって進んでいる」「情報化時代により遅れるな、今からすぐに準備を」という教育関係者の意見に対しては、はたして中学生にも必要なのかと首をかしげてしまうのです。

◎いじめ、登校拒否のない学校教育を

中学校にある問題のなかで、「いじめ」と登校拒否がよく話題になります（校内暴力もけっこうあるのですが、マスコミがあまりとりあげません）。

なぜ「いじめ」が日本では多く、登校拒否がふえつつけるのでしょうか。それに対しては、幼児期からの詰め込み教育、受験勉強の重圧などの理由がよくあげられますが、「先進国」

といわれる国の中で、日本で特に深刻なのはなぜでしょうか。私はその原因のひとつは、学級の生徒数が多いからだと思います。欧米諸国の小・中学校の学級定数は20〜30人です。日本の45人というのはとても多く、小学校低学年でも40人というのは大変な多さといわなくてはなりません。

一時間の授業の中で、一回しか発言できないより、二回、三回と発言できるほうが、子どもにとっては授業が楽しくなるにきまっています。先生とのかかわりも、30人以下になればがぜん深まります。

「勉強っておもしろい」「学級のみんなで考えたり、何かするのは楽しい」となれば、いじめや登校拒否は減るはず。それと、中学校で技能をともなう教科で、一人の教師が40人以上の生徒を教えるには大変な苦勞がいます。私は半学級で教えられるようになったら良いと願っています。

◎親の願い、教師の願い

我が家には三歳と一歳の男の子がいます。「この子らが中学生になるころには、学校ではどんな教育をしているのだろうか」と考えると、何から何までコンピュータで管理されている学校を想像してしまうことがあります。

コンピュータの進歩には著しいものがあります。十年前、乾電池を使い重かった卓上電算機も、今やカードの厚さ

です。完全空調の入った部屋で、一行ずつカードに穴をあけて入力していたコンピュータも、ディスプレイを見ながら机上で操作できるように進歩しました。

五年後、中学校にコンピュータを導入する時にはどうなっているのでしょうか。そして、さらに十年後は。

多くの親・教師が望むことは、子どもたちが読み・書き・計算などの基礎学力や運動能力をきちんと身につけてほしいということだと思っています。

そのために役立つ教育機器ならば、私もおおいに使いたいと思います。コンピュータがそうであるという可能性は充分にあると私は考えています。しかし、まだ時期尚早だし、その前に実現してほしいことはたくさんあります。

- ・ 学級の生徒定数を35人以下に
- ・ 無免許で他教科を教えずにすむ教師の定数増
- ・ 技術・家庭科は半学級で教えられるように

その他にもたくさんありますが、ここでは三つだけにしておきます。

コンピュータを導入する莫大予算を、こうしたことにより、まず使ってほしい、と願うのは私だけででしょうか。

◎コンピュータが学校におしよせてくる

四月下旬に、CAIやコンピュータ関連の教育機器の展

示シヨが池袋のサンシャインシティで催されました。約50の企業が参画したもので、私は見学していて、「コンピュータが学校におしよせてくるのは時間の問題だ」と肌で感じました。

私個人の考えとは矛盾してしまうようですが、コンピュータ導入に対する準備も必要だと思えてきました。

そして、そのことはほとんどの現場の教師が考えなくてはならなくなるのです。なぜなら、「とりあえず」技術・家庭科に導入されるコンピュータは、わずか35時間の「情報基礎」のためだけではないのです。すぐに、国語・英語でワープロとして、他の教科でもCAIで、そして、職員室だけでなく、保健室・事務室でCMIでと、すべての教職員が対象となる研修が行われることになるからです。

◎現場の声を反映させよう

私たちでもできることはどんなことでしよう。次のようなことから始めてみてはどうでしょうか。

- ・ コンピューターに興味・関心のある人で研究会をつくる
 - ・ 研究会は、コンピュータ導入に賛成反対をとわず、いろいろな側面から研究し、批判的に検討する
 - ・ 研究の成果は機会ある毎に発表する
- こうした研究会を、校内で始めてもよいし、地区でほんの

数人でもよいですからスタートさせてみたらどうでしょう。

それと、次のような要望も、いろいろな手だてで出していくことも必要でしょう。

- ・ コンピューターの導入については、その学校の教職員の合意が得られるまで、事前に十分に時間をかけてほしい
- ・ 研修については、教師個人や学校に負担をかけないようにしてほしい

教える私たちが、子どもたちの教育に必要なという納得がいかないと、かえってコンピュータがお荷物になってしまいます。コンピュータを導入する前に考えておかねばならないことはまだまだあると思いますが、現段階における私などの中学校の技術・家庭科の男子教員としての、疑問や考えを述べさせていただきました。現場の教師がコンピュータについてはわからないからと発言をひかえるのではなく、おおいに発言していくことが今、特に必要だと思います。

(いいだ・あきら 川口市立芝園中学校)

家庭科とコンピュータの相性

福田 健



教育にコンピュータを導入すべきかというやや抽象的な問いについて、一つには「高度情報化社会に向けて社会的ニーズがある以上、教育場面でもコンピュータを」という声を、もう一つには「本質的に管理主義的であり機械的であるコンピュータが、経済原則で教育に導入される以上有害無益である」という声を、幾度となく耳にする。本稿では、こうした論争にあるように、学習者不在の外部論理でコンピュータと教育の関係を捉えようとは思わない。お上や社会の意図がどうであろうと、教師や生徒自身暮らしの主体者にとつてコンピュータがどう関わるかを問い直し、それを学ぶ意味を考える義務が我々にはあると思うのである。

一方、教室でコンピュータをどうするかについての話では、「これはコンピュータでプログラミングするところな

る」とか「こんなC A I^{*1}ソフトウェアで成果があがった、あがらなかった」というように、極端に個別的・具体的な話になることが多い。しかしそうした具体的な情報が価値を持つためには、先ず受け取る我々自身が評価の基本的立場を明確に持つことが必要であろう。本稿ではそのことも考えてみたい。

さて、コンピュータが教室の授業とどう関わるかを考えると、主に以下の三種類に分類できそうである。

教授者	道具・教材	教授内容
誰(何)が	何を使って	何を
		生徒に教える

1 先生が	(自分で)	コンピュータを
2 コンピューターが	(自分で)	家庭科を
3 先生が	コンピュータで	家庭科を

このうち1はいわゆる(広義の)コンピュータリテラシー^{*2}と教育と呼ばれるものであり、2はCAI、ITSと呼ばれる^{*3}ものが該当するだろうし、3には(コンピュータを用いた)機能的学習環境等が含まれるだろう。紙面の都合でここではまず1を中心に議論を進め、その中で3の意味を考えることにする。なぜ1を選択するかについては、狭い視点で行われている現在のコンピュータ教育論争の土俵に甘んずるという問題もあるが、しかし、現在教育現場で問題にされていることを判断する材料を提供するためにも、こうならざるをえないことをご理解いただきたい。

ここで、1のような家庭科における機械の講習会的側面を仮定することに対しては、いくつかの根本的批判があることは、家庭科教育に素人の私にも思いあたる。まず、機械の使い方などは学校で教えなくともマニュアルを読むなりすれば済むことである、という批判がありそうである。しかし、そもそも公教育の原点に照らしても、時の文化・文明の所産であり、生活を豊かにする手段となる、最先端の知識・技術等を、あらゆる人に差別なく平等に広めることは、家庭科教育の一つの柱のはずである。また別の批判として、学校の中でいくら技術を教えても技術の進歩が早い(特にコンピュータの場合)ので社会で役立つとは思えない、という意見もあるかも知れない。確かに技術の進歩が早くて学校で学んだも

のがそのまま使えない場合が多いことは事実である。しかし、それだからこそ技術の進歩で変化してしまう側面だけでなく、技術の核心部分を最先端の技術と対応させて学ぶことが必要だと思うのである。

コンピュータを教えることをこうした図式で捉えるとしても、その特殊性が故に従来の教科内容(ミシンの使い方等)とはどうしても同列に論じられない部分がある。従来家庭科の中で教えられてきたことは、教師(大人一般でもある)が、その経験・意見を含めた知識をもとに、いわば知恵袋を伝授する意味で捉えられる部分が多少なりともあった。つまりこうした領域(服装・食物等)では教師は明らかに先輩であつたわけである。しかし、ことコンピュータに関しては教師は、生徒と同一線上か、場合によっては後輩として学習のスタートを切る必要があるという前代未聞の内容になっているのである。これがまず第一の問題である。

次に、そもそもコンピュータは、暮らしに影響を及ぼすという意味では理論的にも技術的にもまだ未熟な状態であり、これから暮らしとコンピュータがどう関わるのかを明確に想定した上で教育を考えることが困難である、ということが二番目の問題である。

さらに、コンピュータが本質的に単一目的システム(縫う等)でないために、具体的な利用領域・目的を限定的に想

定して教育することが困難である、ということが三番目の問題点である。

こうした問題点をもとに本稿の題目に端的に結論を出せば「家庭科とコンピュータは相性が悪いです」ということになる。しかし、家庭科でコンピュータを教えることが全く無意味であるとか不可能であるということはないはずで、以下では、多少具体的に、現在の暮らしの中のコンピュータの用いられ方を分析し、それを家庭科でどのように扱うことができるかを考えてみたい。

我々がコンピュータを使う場面には、コンピュータの存在を全く意識しない場合と、逆に強く意識する場合とに分かれる。前者は炊飯器や洗濯機にコンピュータが組み込まれている場合がそうであるし、後者はいわゆるパソコン^{*5}を目の前にしてそれを操作する場合一般がそうである。この両者の根本的違いは、前者がコンピュータ導入以前にもともと存在していた作業を何等かの形でサポートする裏方としてコンピュータを位置づけているのに対し、後者ではコンピュータ向きに再構成した作業を明示的に処理する機械としてそれを位置づけているという点である。生活の中のコンピュータの影響を考える場合には、この両側面共を考える必要があるだろう。そこで、そのそれぞれの中に家庭科の持つ性格がどのように関与できるかを探してみようと思う。

前者の立場では、コンピュータは究極的にはどこにも見えずに、かつ機械の使い勝手をあらゆる側面から豊かにしてくれる存在であって欲しいのである。もう少し具体的に事例をみてみよう。例えば、従来の炊飯器ではお米の量に関わらず炊き方がほぼ同じだったために、その炊飯器が想定している最適な分量より多かったり少なかったりするとおいしくご飯が炊けない場合があった。もちろん炊き上げるお米の分量を設定するつまみを設けて、それによって炊き上げる方法を変えればいいのだが、それでは操作が複雑になってしまいう欠点がある。これを解決したのがマイコン炊飯器である。^{*6}

あなたが炊飯器の中に住む小人——これがマイコンなのだが——ならこの問題をどうやって解決するだろうか。私が小人ならこうするだろう。「スイッチが押されたら火をつける。だんだん温まってくるが、その時の温まり方の変化は、水(米)の最初の温度と分量で決まってくる。従って、両者の関係を予め頭にたたき込んでおいて、かつそれぞれの米の分量の時の最適の炊き方ボタンも頭にいれておけば上手に炊ける」。

事実、これがマイコン炊飯器のやっていることである。同様にして、ミシンで布地の厚さに関わらず上手に縫うことも、洗濯機で水温に関わらずきれいに洗い上げること、電子レンジで分量に関わらずおいしく焼くこともできるわけである。要するに、一種の気配り術とそれに対応した手続きの記憶を

すっかりたたき込まれた小人が人間の代わりに裏方で考えてくれることが、この場合のコンピュータの役割なのである。従って、設計者が利用者の立場にたつて十分な気配りをし、状況に応じた対処を正確に考えてくれるか否か——小人に親切で正確な知識を教えておくか否か——が、使いやすいマイコン機器かどうかの決め手の一つになる。

マイコン機器を使うのに、こうして裏方の仕組みを知ることとは普段は必要ないかも知れない。しかしそれは、何かの不都合が生じてそれを乗り切る場合や、新しい使い方を考えてみようとする場合、そして、既存の性能——気配りや対処——を批判してよりよいものを求める場合に、発想の基礎となるはずのものである。しかも、ここという気配りと対処の内容は、基本的な道具を用いてその作業（炊飯等）をする場合に、人間が行う技術の核心部分が関与しているはずであり、もともと家庭科で教えるべき内容とどこかで対応しているはずのものである。このように、コンピュータが裏方でやっていることを考えることで、今まで扱ってきた技術の核心部分を捉え直すということも有効と思うのだが、どうだろうか。

一方、コンピュータのもう一つの使われ方である、明示的に処理する機械という側面を考えてみよう。実際に使われている例としては、紙と鉛筆で原稿を書いていたのがより早くきれいに書き、より容易に修正するためにワープロを用いる。

また、集計用紙で名簿や会計簿を整理していたのが、より豊かに表現し、より容易に操作するために、スプレッドシート^{*7}やグラフ作成ソフトを用いる、といったことが考えられる。

こうした場合、ある作業（会計集計等）を実行する中で、人間ができない、もしくは不得意な部分（数値の書き加えによる再集計等）を補う道具としてコンピュータを位置づけることが基本だと思う。そして注意すべきことは、対象の操作（摘要の並べ換え等）を指示する主体は人間であり、コンピュータはそれに従う存在であるということ、及び、人間が目的としていることはコンピュータの操作ではなく作業自体である、ということである。これは、コンピュータ上での作業は利用者の頭の中での作業の延長・補助であり、コンピュータはいわば脳ミソの延長である、という考え方で定式化できると思う。そして、こうした思考の道具としての使い方ができるようになることを、コンピュータを教えることの目標に据えるべきではないだろうか。

技術の核心部分の理解として BASIC^{*9}等の汎用言語^{*10}を知ることの意味があるが、そこから全てを考えていたのでは本来やりたい作業にたどり着くまでに疲れてしまう。従って、ワープロやスプレッドシート等のアプリケーションソフト^{*11}を暮らしの中でいかに使うか、という段階を起点としたほうがコンピュータの機能や可能性が理解しやすいはずである。

そして、授業の中で生徒がコンピュータを使って何かをやりたい、と思うことが出てくるためには、知りたいと思う、考えたいと思う状況が先ず必要である。従来、生徒が受身でしか学べなかった内容に積極的に参加する、疑問を持つことからこうした活動が始まるのではないだろうか。

例えば、「男女平等というけれど、その地方の文化にとつて平等になるってどういう意味なのか、実際の社会ではどうなのか」を問うために、パソコン通信^{*12}を使って遠くの学校とそれぞれ地域の事情を調べて報告し合うとか、ワープロを使って色々な所に質問書を書くという活動がそうであろう。また、「クレジットカード地獄」というけれど、月賦ってそんなに家計を圧迫するものなのか」を問うために、スプレッドシートを使って、様々な要因を変えてみて家計のシミュレーションをすることもそうである。

ここで、重要なことを一つ書き加えると、こうしたコンピュータの使い方(先のマイコン炊飯器の例のように、コンピュータの使われかたも含む)について教師がすべてを知っている必要はないことがある。コンピュータでできるかできないか、等という技術的なことは別の専門家に相談したり声を挙げて知っている人に教えてもらうのが基本であり、家庭科の教師は「何をどう教えるか」を考えることに専念すべきである。現実がそれを許してくれない場合が多いこ

とも事実だが、しかし、何から何まで自分でやらなければいけない等とは考えないでいただきたいと思う。この問題を含んで、本題に直接関係しながらも書ききれなかったことが多くある。「コンピュータの社会での使われ方についてはどう教えるか」「コンピュータを使うこと自体が面白いという側面はどう考えるのか」、等、そうした問題についてはまた機を改めて記すことにする。

*1 CAI : (Computer Assisted Instruction) 教材を組み込んだコンピュータで学習すること。個別化、自学自習等の長所、非集団化等の短所を言われることが多いが、元来は教授の補助手役にコンピュータを用いたもの全般を指す。CAIの一種で、人工知能的手法を活用して自然言語で会話的に利用でき、システムが生徒の勘違い等を推測・指摘する、知的な教科書・教授代行システム(ITS)が実用領域に入ってきた。

*2 コンピュータリテラシー・リテラシーとは元来読み書き能力を意味する語であり、プログラミング能力等の、コンピュータを操作する能力、という意味で用いられる。

*3 ITS : (Intelligent Tutoring System) CAIの項を参照。

*4 機能的学習環境・学習活動の中で、学習者にとって、学ぶ対象が目的をもった文脈の中で、意味づけられている状況。

*5 パソコン・パーソナル(個人向け)コンピュータの意

味。後述のマイコンが規模による分類なのに対して、パソコンは用いられ方による分類。同種の分類に、オフコン（オフイスコンピュータ）、ワークステーション等がある。

＊6 マイコン・マイクロ（超小規模）コンピュータ。前項参照。同種の分類にスーパーコンピュータ、ミニコン（ミニコンピュータ）等がある。パソコンも正確にはマイコンの一種だが一般にマイコンという語は機器に組み込まれたものの様にハードウェアに密着したものに限定して用いられる。

＊7 スプレッドシート・ワープロ、データベースと並んで一般人が用いる3大アプリケーションソフトの一つ。表計算ソフトとか簡易言語とも言われ、およそ集計用紙の中で行う作業であればそのままコンピュータ上で行えるようにしたもの。汎用言語と異なり、設計利用者（プログラマ）が行うべきことは既存の上で升目と升目の関係の定義（「この升目はあそこの升目からあそこの升目までの平均に〇〇を掛けたもの」等）だけでよいため、それ自体の適用分野が限定されていないにも関わらず、素人でも比較的簡単にかつ実用的なプログラムが書ける。また、升目に数値の追加・修正するとそれを参照している升目が瞬時に自動的に再計算されるので簡単なシミュレーション（減価償却率を0.2から0.18に変えると収支はどうなるか等）にも活用できる。最近ではグラフ作成等の機能も組み込んだものがあり広い適用分野を持つ。

＊8 グラフ作成ソフト・先述のスプレッドシートが表の中の計算処理に徹しているのに対し、計算機能自体よりも、計算結果やもとの数値等を自動的に各種のグラフにして、表示・印刷するための機能を充実させたもの。簡単な統計処理機能（相関・信頼区間・分散・度数分布等）を持つものが多い。

＊9 BASIC:多くのパソコンに内蔵されていることから、現在パソコンで最も普及している汎用言語。開発当時は他の汎用言語に比べ簡単であった為、入門者向けと言われていた。

＊10 汎用言語・原理的には特定の利用分野を限定しない、プログラム言語一般のことで、普通、手続きの集合としてプログラムが構成されている。コンピュータの能力を比較的広くかつ深く利用できるのが長所だが、実用的なプログラムを書けるためには十分な学習を要し、またプログラミングにも手間がかかることが多い。

＊11 アプリケーションソフト・先のスプレッドシートやワープロに代表されるように基本的な機能をプログラムしてあり、利用者がプログラミングする部分が少ないか、ないもの。

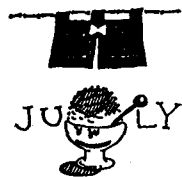
＊12 パソコン通信・電話線を用いて遠方のパソコン同士を直接、または大型計算機を途中に介して接続し文書等の送信受信をすること。大型計算機を介すれば相手が同時に通信する必要がなくなるため手紙の様な利用の方法も開ける。

（ふくだ・けん 東京大学大学院教育学研究科）

私とコンピュータ

そして家庭科教育

西内みなみ



私とコンピュータとの出会いは、高校時代の「教育工学棟」での授業であり、成績を「偏差値」で知らされた時に始まる。その時は、その背後にあったであろうコンピュータに対する知的好奇心というのは全く無かった。

ところが、大学で実験心理学を学ぶと、そのデータ処理のために、どうしても統計学の知識やコンピュータの助けが必要となった。そのため、コンピュータ言語を学び、統計処理のためのソフトを使ったりもした。

そして、教育学部の大学院に進学すると、コンピュータを使った教育の研究が盛んであった。「認知科学」という、人の思考過程や理解過程を明らかにしていく学問の領域がある。そこでは、コンピュータを使って、ひとの思考や理解過程のモデルを作り、シミュレーション、つまり疑似体験させて、

人の思考や理解過程により近いモデルかどうかの検証を重ねていくという研究がされていた。私は、そういう研究集団から「落ちこぼれ」てしまった。私には、その研究の、自分にとっての価値や意味が、どうしても分からなかったからだ。

私にとって、その時、そして今も意義があると思うのは、「家庭科教育」について考えることである。理由はたくさんあるが、一言でいってしまえば、今の学校教育の中で、ものやひとに働きかけることによって、家庭生活の意味や価値について学べるのは、家庭科教育だと思っているからである。その家庭科教育の中に、いま、コンピュータが入ってこようとしている。しかし、家庭科教育の中で行われているさまざまな営みの、その原点の部分にコンピュータが入り込めるとは思えない。

確かにコンピュータは「便利な」機械であり、「柔軟な」道具である。人のする作業の省力化に役立ち、人にはとうていできなかったことができる。また、他の機械、例えば、ミシンなら縫う機械、洗濯機なら洗う機械として個別の役割しか持てなかったのに対して、コンピュータは機械をコントロールする機械である。従って、文字を書くワープロや計算機のような、考えるための道具になったり、パソコン通信のように通信機器にもなるという「柔軟な」道具である。

しかし、そこが、私は家庭科教育にとって致命的だと思う。家庭生活についての意味や価値、ものやひとへの「技」や「愛」を学ぶのには、やはり直接、ものやひとに働きかけること、その現実性感覚が原点にあると思う。また、直接働きかけたものやひとから学ぶことは、数値や言語ではとうてい表現できないほどの豊かさがある。

学校教育で行われていることは、すべてシンボル操作であり、疑似体験ではないかと言う人もいるが、その中でいかにリアリティ感覚を持たせ、生活に根ざした体験を保障するかということに、取り組んでいるのが家庭科教育であると思う。子どもたちがコンピュータに夢中になるのは、そのキー・タッチの楽しさであり、自分のタッチしたことが、コンピュータの画面という世界の中で、自己完結的に展開していく楽しさではないだろうか。それは、手遊びの世界に過ぎない

ように思う。手遊びを学習の手掛かりにしたとして、家庭科の学習と、どうつないでいくのが課題になる。

パソコン通信で教室と外とのコンタクトをとり、情報を取り入れるという試みがある。その手段が、目的になる英語教育では意味があるが、家庭科では、コンピュータを媒介にしないで、新聞のきり抜きに始まって、実際に子どもが、学校の外に飛び出して、自分にとって意味があり価値があると思う情報を集めてきて、それを出し合って話し合うという授業は、さまざまなかたちで行われている。

家計管理・栄養計算・型紙のパターンなど、確かにコンピュータにしてもらうと「便利」であったり、人の手ではとてもできないことができるかも知れない。しかし、それでは、自分の生活の営み自体を機械に任せることも、同時に学習することになりはしないだろうか。

矛盾するようだが、私は、家庭科の先生方に、ぜひ一度コンピュータに触れてみることをお勧めする。触れてみれば、「こんなこともできないのか」と、その道具としての未熟さも、ものとしてのコンピュータに働きかけることが、家庭科教育にとってそれほど意味のないこともよくわかる気がする。

いま、コンピュータを教育にと考えている人たちは、教師が子どもにとって意味のあると思う教科内容を教えるためにコンピュータを使えば、コンピュータについての学習も

進むし、教科内容についての理解も深まるとしている。

しかし、そこでのコンピューターは、家庭科の中でボタンつけの技能を身につけさせるために、フェルトの腕輪をつくる際の、「腕輪」に相当しているものに思えてならない。

「腕輪」をつくるために、ボタンつけの技能が身につくように、コンピューターに働きかけることによって、コンピューターの技能が身につくように思う。しかし、ボタンつけの

た由。

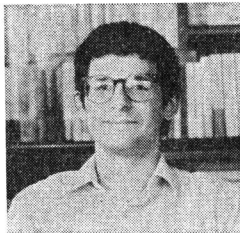
「本などで読んで、日本のことをいろいろ想像してたのと、ずいぶんちがいました。今、また、読みかえしているところですよ」とE・

ひと

に住んで、このゆくえを見守るジャーナリストの一人です。

サンフランシスコ近くのバークレーの生まれ。父親の仕事の関係で、幼い頃は、ロンドン、カイロなどです。67年からはフィラデルフィアに。母校であるペンシルバニア大学の国際局で仕事をしていた時、日本からの留学生の半田るみ子氏と知り合い、昨年結婚。彼の強い希望で、昨秋より日本に引っ越して、これら

〈不思議の国ニッポン〉 の クレイトン・ ナフさん



D・ライシャワーの『JAPANESE』。

職場でも、家庭でも、英語ですんでいるので、日本語が「いつまでたっても、ダメです」の連発だが、毎号の原稿は、原稿用紙に

技能ほど、コンピューターの技能が、家庭科教育の中において意味があるのかどうか、疑問である。

家庭科の授業の中で、どのようにコンピューターをつかえば、家庭科教育自体にも新しい展開や視点がもてるのか、この先考えていく必要のある課題だと思う。しかし、いまのところ、私は、この程度の意義しか感じられないのである。

「日本語」で、両手に辞書？ と聞いているが、漢字の使い方は、相当なもの。誌面に載るのは、その原文を、半田編集長がリライトしたもの。「一度書いたものは、もう一度は読めません」とは、ご本人の弁。

日本語の勉強は、フィラデルフィアにいた頃、外国語学校で三年。引っ越しがきまりペン大で毎日、今は週二回通っているとのこと。

「書いていることから、日本に批判的に見えるかもしれませんが、日本のことは、みんな好きです。全部、いいです」とクレイトンさん。今は、相撲のテレビを楽しみにしているそうです。辞書を片手のクレイトンさんと、日本語で一時間余のインタビューが、無事終了！

(青木)



アメリカとスウェーデンの

家庭科におけるコンピュータの使用

永島 利明

女子差別撤廃条約が批准されたので、家庭科の共修が進められなければならないという意見をよく聞きます。この条約の批准以前に、家庭科や技術・職業教育の共学が進んでいたアメリカやスウェーデンは、どうなっているだろうかということを知りたくて、この二ヶ国を昨年訪問しました。ニューヨークで一九七〇年代に共学を進めていたいくつかの学校で驚いたことには、家庭科を学んでいる男子生徒を一人もみかけなかったのです。アメリカの共学の運動は前進というよりも、後退させない守りの時代になっているのだということを感じました。

外国のことを調べるには国連の動きだけではなく、先進国のいくつかの例をきめ細く調べることが望ましいと思います。しかし、言語の壁や相手の十分な協力が得られないために、国内のことを研究するようなわけにはいかず、活字にすることはむずかしいのが実情です。乏しい情報のなかでも、ソ連のように女子差別撤廃条約をもっとも早く承認した国に

も、女子向きや男子向きの教育課程があったり、スウェーデンのように家庭科の共学を最初にした国でも、女性隔離を公認しているイスラム教を大切にしている例があります。

日本人が円高のためにたくさん海外に行くようになりましたが、自分の都合のよいところだけを視察するようなことなく、事実を知ることをもっとも重視すべきです。

〈アメリカの場合〉

アメリカの家政学会の機関誌である「ジャーナル・オブ・ホームエコノミックス」の一九七二年九月号に、「家庭科におけるコンピュータの使用」と題してこの機器の可能性を研究する講習会が開かれていたことの報告があります。この講習会はアメリカの農業省、家政学会、とその年次総会の開催地であったミシガン州立大学の三者がスポンサーでした。

農業省の消費食糧経済研究所が機器や人員の一部を講習会に提供したのが印象的です。日本ではコンピュータの導入に文部省よりも通産省が熱心だったのと共通しています。アメ

リカでは国内の食糧消費の増加が目的だったのでしよう。講習会には「栄養食品販売プログラム」という演題があることが、そのことを示しています。

この講習会のなかでE・J・アナタシオは「コンピュータ使用を阻害する要因」を四つあげています。コンピュータが高価であること。ほかの教育機器と比較すると複雑であるから、使用することに困難であること。コンピュータの可能性・限界が十分わかっていないこと。教師と生徒の望ましい人間関係を失わせるといふものです。

当時と比較すると、コンピュータは安価となり、将来さらに低価格化すると予想されます。この機器はテレビ・スライド・ビデオのような一種の教具なのです。適時適所に使えば、教育効果が高まる可能性があります。教育界にはさまざまな教育機器があらわれ、死蔵されていることが少なくありません。この二の舞にならねないという意見があります。家庭科だけではなく、あらゆる教科で使えば、使用の効率はあがります。人間関係では、計算などで誤答の生徒を知ることができ、生徒のプライバシーを守ることができる、つまり個別指導の利点があります。

一九七二年の講習会には百人以上の出席者があり、家庭科へのコンピュータの導入にはあまり批判はなかったようです。前記の雑誌の八六年一(春)号にはP・S・メスザロス

他の「情報をもたらすものとしての家庭科」があり、このなかに、高等教育機関のコンピュータの使用実態調査があります。この調査は八四年六月に実施され、マイコンが家政学の実習、調査、改良普及事業でどのように使われているかを示しています。二九七の家政学科の管理職的な立場の人に郵送法で行われ、回答率は五三%でした。回答者の七三%の学科が学部との協力のもと、五三%が全学的な協力のもとにマイコンに取り組んでいました。

一学科平均一九台が使用でき、ハードウェアとしてはアップル四三%、IBM十七%、ラジオシャック十一%等でした。ソフトウェアは八三%のものが市販品でした。学生や教職員が開発したものは、三四%でした。学生や教職員の開発したソフトウェアの分野は食物四九件、消費経済四九件、保育十二件、住居九件、被服八件、インテリヤ・デザイン二件でした。

家政学会法には、中学や高校の事例はのつていません。中等教育の実践がのる雑誌にフォアカスト・ホームエコノミックスがあります。この雑誌は八三年頃から中等教育のコンピュータの導入状況を報道していました。八五年一月号には八四年に食物七七%、被服二二%、住居三〇%、保育三二%、消費者教育・家庭管理五九%の教師がコンピュータを使用していると報告しています。

アメリカのこうした情況がもう少しはやく日本に伝えられていたら、家庭科のコンピュータへの導入がスムーズにいったのではないかと考えました。

パソコンを使うとき、ソフトウエアが高価であるという問題があります。日本では二万円くらいが普通で、多機能のものになると、十万円以上のものもたくさんあります。個人でこれを買うと、負担が重すぎるため、ソフトの交換をするクリアリングハウスが作られるようになっていきます。これは手形交換所からとられた名前で、ソフトの目録が作られ、登録されて、そこから借りたり交換したりできるという制度です。こういうものがあれば、ソフトの高価による利用の困難はある程度減少できます。

〈スウェーデンの場合〉

スウェーデンでは義務教育の学校の家庭科には、まだ、コンピュータは導入されていず、見ることはできませんでした。この国の第二の人口をもつイエテボリ市にあるイエテボリ大学の家庭科教員養成課程ではコンピュータを扱える教師の養成が一九八六年から始まっています。この大学には家庭科、食物、被服の三学科があり、家庭科と食物の二学科の学生に対して四〇時間の情報の学習が課されています。

義務教育の中学や高校の食物教育用として、ソフトウエアが利用できるように、教育内容が作られています。学習の目

標は「栄養の豊かな食物を計画し、調理する」、「食物の費用を計算する」ことです。エネルギー、栄養素などの資料を提供され、選択ができて、手早く作業ができるようになります。

この大学の食物学科の学生は交代で食堂を経営しています。大学の周辺には食堂はなく、昼食は学生や教職員もこの食堂を利用しています。四五〇人の小規模な学生数の学部でしたが、食堂は機械化されて、少人数で運営できるようになっていました。食物科では学生が食物の総合的な知識を得たり、健康と食物の関係などに情報処理を役立てています。栄養学や食堂の経営の実際に応用することが簡単になります。それは価格や献立作りの計算をするデータが利用できるからです。

スウェーデンでも日本と同様に情報処理は男子の支配する領域とみられ、女子の支配する領域とみられた家庭科での導入にはためらいがありました。しかし、数学、理科、社会などに導入されるようになってから、家庭科でも真剣に考慮されるようになりました（この国では技術は理科の領域に含まれ、そのなかにコンピュータの学習が少しあります）。

コンピュータを利用している教師たちの間で共同研究がはじまっています。高校では理科の教師が食物のプログラムにどんな誤りがあるかを調べるような例もありました。このようにほかの教科の教師が学際的な目をもつようになってい

ます。

スウェーデンの家庭科における情報処理技術の利用は、まだ、食物にのみに限られているようです。家庭科の教師の一部の人たちは食物についてのプログラムを利用し、その結果を外部に公表し、よいソフトが市販されるよう努力しています。ソフトは教師が作るのではなく、教育の知識のない専門家が作ることで、授業に使いにくいことがあります。まだアメリカのように、教職員や学生自身が作るというところまでいっていないようです。

〈問題点〉

これまでアメリカとスウェーデンの家庭科におけるコンピュータがどのように使われているかを見してきました。両国ともC A I（コンピュータが支援する教育）が中心ですが、アメリカではソフトウエアができる学生がいるということですから、大学などではプログラム言語の学習も行われているわけです。

日本で家庭科に情報処理を導入することに批判があります。が、C A Iとしてテレビ・ビデオ・スライドなどのような教具として使うことに反対なのか、プログラム言語やハードウエアの学習に反対なのか、あるいは前者は賛成で後者は反対なのか、すべてに反対なのか、明確ではありません。

これは利害得失を考慮して家庭科の教師が決めるべきことです。が、C A Iとしてはコンピュータが大きな可能性をもつことは否定できないと考えています。特に、若い家庭科の先生方はコンピュータの操作ができることは望ましいことではないでしょうか。

ただ、ブラウン管のような視覚表示装置のついているコンピュータは、まだ、解明されていない問題があります。従って、医師が参加している日本産業衛生学会の勧告のように、四時間以上使用しないこと。流産や障害児出産の原因になる疑いがありますから、妊娠中の使用は避けるということを守ってほしいと思います。



家庭科とコンピュータ

—— 永島氏の指摘に応えて ——

家庭科の男女共修が国の制度として定められたことは、家

庭科の男女共修運動にかかわってきた者として非常に喜ばし

石川 由紀

いことでした。男女平等、教育の機会均等などの観点からも当然のこととはいえ、これまでの厚い壁を思うと、逆に、少々の不安を覚えたものです。本当にこれで、私たちの願う男女共修の家庭科が実現するのだろうか。

不安は形となって現れました。中学の技術・家庭科に選択が増えたこと、高校の家庭科に三コースが置かれることと、「情報処理」が加わったこと等々。選択の幅が広がったということは、学校が選択して男女共修で行われるのか、生徒個人が自由に選べるのか、その際、特性と称しての男女別指導が介入する余地はないのか。特に、中学の技術・家庭科に「情報基礎」が入ってきたことは、政府・業界挙げての「情報リテラシー養成教育推進」と相まって、選択という名の必修（例えば英語）となり、実質「技術」増、「家庭」減となり、家庭科の縮小に繋がらないだろうか。

また、高校の家庭科に「家庭生活と情報処理」なる項目が入っているが、一体これは何を教えるのだろうか、コンピュータを扱わせたいだけのものなのか、または、コンピュータによる情報処理技能を身につけさせるためのものなのか、という疑問が湧いてきました。前者であるならば、CAIとして、どの教科、どの項目でも履習可能であり、一項設けるほどのものではないと思うのですが、もしも後者であるならば、それは家庭科に名を借りたコンピュータ・リテ

ラシー教育であり、なぜ家庭科で引き受けなければならないか、ということになります。

私は家庭科に「情報処理」を導入することに批判的であるばかりではなく、反対を表明しています。

その理由の第一は、情報処理技能は家庭科の領域ではないと考えるからです。情報処理技能は、自動車の運転ができる、ワープロが使えるなどの技能と同次元の技能であり、家庭生活・社会生活一般に応用・利用する技能と思います。よって、「情報処理」は技術科的・職業的教育領域であり、普通教科である家庭科のそれではないと思うのです。

第二に、家庭科に「情報処理」を導入することにより、高校家庭科の「技術・家庭」科化に繋がかり、家庭科の弱体化を招くのではないかとの危惧を抱くからです。なぜならば、「技術」と「家庭」は免許も異なる程の違いがあるにもかかわらず、また、多くの問題を呈しながらも中学には技術・家庭科がありますが、高校においてはそれがなく、「技術」が高校の普通教育の中に置かれていないわけですから、「技術」的要素の強い「情報処理」を導入することにより、家庭科の「技術・家庭」科化がすすめられ、中高一貫の教科として変身することを懸念するからです。（私は、中学の技術・家庭科は「技術」科と家庭科に分離、各々が独立した教科になることを望んでいます）

第三に、「情報処理」を選択することにより、男女共修の家庭科が実質上、崩されるのではないかとの心配を抱くからです。たとえば、「特性教育」と称しての男女別選択及び男女別授業の引き金となり、教育における男女平等・機会均等が阻害され、男女が同じ教室で、同じ内容を学ぶことを願ってきた私どもの運動が実らなくなることもあるのです。

第四に、「情報処理」が家庭科に置かれることを理由に、教育経費の多くがコンピュータ関連に使われ、他の重要な教育経費が影響を受けたり、家庭科本来の授業に必要な経費までもが侵されるおそれがあるように思うからです。

第五に、「情報処理」が加わることで、家庭科教師の負担増、または、定員減を招き、家庭科の質的後退に繋がらないかとの不安を感じるからです。この項の履習に際し、教員研修によるのか、外部者を招くのかは分かりませんが、どちらにしても問題があると思います。

次に、家庭科へのCAIとしてのコンピュータ導入についての考えを述べさせていただきます。CAIには二つの側面があると思います。一つは教師が教科指導の道具として使う場合、もう一つは児童生徒が学習の道具として使う場合とがあります。

まず教師側が教科指導の道具として使う場合を考えてみたいと思います。指導計画の作成、資料作成、授業効果の測

定、成績管理など、授業の管理部門での利用と、ビデオ・スライドなどと同様に教材の一つとしての利用があります。どちらの場合も市販のソフトが作成され、流通することと思いますが、そのことは、教師自身にとっては創造性・独自性を欠くことにならないでしょうか。または自力開発するとした場合、それらは満たされますが、それに費やす多大な労力と時間は、教師と児童生徒にとってどのように作用するのでしよう。

では、児童生徒の側が学習の道具として使う場合を考えてみたいと思います。一つには同じ教室で一斉授業にとり入れられた場合、ビデオ等の他教材と同じく、ソフト次第では教師の説明よりも理解が深まる場合も考えられます。なぜならば、市販のソフトを作る場合、複数の人が関わっていると聞いていますから、より多くの視点が授業に取り入れられることが期待できます。それでは個別指導に使われた場合はどうでしょうか。その児童生徒の理解速度に合った学習ができませんが、時間に限度を設けないことが前提となります。

児童生徒は授業進行の時間枠に迫られる教師の独断的授業から解放され、学習効果が期待できますが、学習時間が限られたり、進捗度が集中管理されたりすれば、どうなるでしょう。そして、児童生徒の質問事項に該当する項目がそのソフトに組み込まれていなかった場合はどうなるのでしょうか。

数学・英語・理科などの授業では、ドリルやチュートリアル的な利用法のC A Iが多いと聞いていますが、家庭科はそれらの教科と著しく異った面を持っていますから、同様の利用法には限界があるのではないかと思います。と申しますのは、家庭科は、多様な個別的背景をもつて育った児童生徒に、生活・社会という可動的・可変的な背景を持つ事柄を、個別対応ができるように授業展開をする必要があり、それが家庭科のもつ使命だと思っております。

このように考えてきた場合、家庭科にC A Iを導入するとは現時点ではメリットばかりとは言えません。また、ソフトに影響された生活のパターン化、生活力の硬直化さえも心配されます。従って、家庭科にC A Iを導入するか、しないかは、ソフト開発と授業展開の研究後に論じて欲しいと思っております。

家庭科の男女共修をすすめる会では、'80年と'85年の二回、国際婦人年の世界会議のN G Oの会場を利用し、家庭科の男女共修についてのアンケートを各国からいただきましたが、コンピュータ教育との関係は項目として作りませんでしたので、永島氏の報告で、家庭科ではC A Iとしてコンピュータと付き合っているということが分かり、参考になりました。報告の中で、ニューヨークでは、「家庭科を学んでいる男子生徒を一人もみかけなかった」とあるのには驚きまし

た。'85年の時点では、「男たちが家事や育児を以前よりするようになった。さらにもう一つの現象としては誰もが18〜20歳ぐらいで親元を離れるので、男も家事をやらざるを得なくなった」というコメントと共に、ニューヨークにおける家庭科は11〜14歳まで週三時間男女共必修という解答を得ており、また、We誌'88・4月号の荒井紀子氏の「アメリカの家庭科、くらし、みて歩き」には、男子生徒の家庭科を学ぶ姿がレポートしてあり、アメリカの教育界の幅の広さを示すものかと、思ったりもしておりますが、実情はいかがなものなのでしょうか。

初等中等教育が情報化社会に備えての人材育成のために利用されようとしているとき、人間形成を大切に考える家庭科がそのお先棒をまず担うのはいかがなものでしょうか。こんなときこそ、家庭科の本質を考え直してみたいものです。

申し立てせずには

いられなかった

— 葦山高校における男女差別 —



■レポート

福地 絵子

一、私は、一九六九年に弁護士になり、一九七六年から沼津市で事務所を開いています。私が沼津に来て間もない頃から、静岡県立の高校入試において男女差別が行われているという噂を聞いており、何とか実態をつかめないものかと思っていました。一九八四年、私が県弁護士会の人権擁護委員をしていた時に、人権擁護委員会の中に女性の権利部会が設けられ、その初仕事として、高校入試における男女差別問題を調査してみることになったのです。調査の結果、県立高校入試に対する中学校の進路指導において、露骨な男女差別が行われていることが判明しました。つまり、進路指導の資料は、内申点と例年十月と十二月に行われる県下一斉の業者テストの結果なのですが、女子の方が内申点・業者テストの点ともかなり高得点でないと、男子と同じ県立高校を受験させてもらえないのです。県弁護士会は、一九八五年十二月、こ

の調査結果に基づき、県教委はじめ教育関係者に対し、会長名で、進路指導におけるこのような男女差別を改めるよう勧告書を送付しました。また、翌年十二月には県立高校長に対し右勧告書を送付し、意見を求めるアンケート調査も行いました。

二、ところが、本年二月、私の事務所に葦山高校の教師と名乗る方からの電話があり、葦山高校理数科の合否判定会議においてひどい男女差別が行われたことを知りました。理数科の定員は四〇名なのですが、今年の理数科には男子四六名、女子一〇名の志望者があり、成績順でいけば女子一〇名全員合格とすべきところ、今年は女子を四名しかとらないと決め、成績が男子の三位と同じ子を含め六名の女子を不合格にしたというのです。その理由として校長が説明したことは、文部省の学習指導要領によると女子がごく少数の場合は家庭科をやらなくてよいことになっているが、県教委にごく少数とは何名位かを尋ねたら五名位とのことだった。昨年女子を六名とっているので今年は四名にしたいということでした。

私は、家庭科をやりたいからという理由で、女子を差別するなどとはとんでもないと思い、三月四日県弁護士会の人権擁護委員会に対し、調査の申し立てをしたのです。私が申し立てをした当時、私の問題意識にあったのは、理数科入試における男女差別とその理由だけでした。

三、しかし、この問題がマスコミで報道されるや、葦山高校長及び県教委は、そもそも理数科入試において事前選抜など行っている事実はないのだから、男女差別などあるはずがないという態度を示したのです。このためその後のマスコミの報道も事前選抜の有無に重点が移ってしまいました。理数科は、建前上は普通科と同じく三月に行われる入試で可否が判定されることになっていますが、実際には一月中旬までに中学側から推せんを受け、一月下旬には高校側で可否を内定し、二月初めにはその結果を中学側に通知し、不合格者は二月中旬からの入学願書受付に際し、普通科を受験することができるという仕組みになっており、理数科についてのみダブルチャンスが与えられているのです。このことは教育関係者の間では広く知られており、大手進学塾が出版し市販している進路資料にも、理数科は事実上の推せん制であると明記されています。また、葦山高校の場合は、理数科についても職員会議を開いて約五〇名の教諭出席のもとで、一月下旬の合否判定会議が行われているのです。このように明白な事実についてまで葦山高校長と県教委はそのことをまっ向から否定したわけで、私は教育者にあるまじき態度にあきれてしまいました。

その後、マスコミや県議会の追及で、県教委も実態調査を約束せざるをえなくなり、事前選抜そのものの事実は認め、

行きすぎがあったとして理数科の選抜方法については検討を約束しました。

それではなぜ理数科についてののみ、長年にわたって願書提出前の事前選抜が行われ、ダブルチャンスが与えられてきたのでしょうか。それは、静岡県においては、理数科が、東大をはじめとする「一流大学」に入学できる可能性のある子を中学校から推せんしてもらい、特別なクラスで特訓し、「一流大学」の合格者数を増やすことを目的に設置されているからです。理数科には学区がありませんので、広範囲から目ぼしい子を集めることができるのです。静岡県東部にある葦山高校には、一九六九年頃理数科が設置されたのですが、その後次第にその「成果」をあげるようになり、それまで静岡県東部で一番「いい高校」といわれていた沼津東高校の地位をおびやかすに至ったのです。あわてた沼津東高校は、一九八七年に理数科を設け地位回復にはげんでいます。理数科についてのみ事前選抜が行われ、ダブルチャンスが与えられているのは、中学校から「一流大学」に合格する可能性のある子を推せんしてもらうための見返り保障といつてよいでしょう。

四、さて、肝心な男女差別の方ですが、この問題も理数科の性格と深く結びついていると思います。実は、その後の調査でわかったことなのですが、葦山高校では、一九八七年入試においても、理数科入試で男女差別が行われたそうです。

この時は、男女差別の是非が職員会議でも問題になり、かなり議論になったとのことです。しかし、結局女子をごく少数にしほらなければ、文部省の学習指導要領に従って女子に家庭科を履修させなければならず、カリキュラムが組みにくくなり、結局男子のカリキュラムにも影響が出て、理・数の時間数を減らさざるをえなくなる、それでは理数科を設置する意味がなくなるので、女子の数をごく少数に制限するのはやむをえない。その結果女子が差別されても仕方がないというのが、職員会議の多数意見になってしまったということです。

つまり、「一流大学」合格者を多数出すための理数科にとつては、家庭科の授業は邪魔であり、女子を増やすことによつて、家庭科をやるぐらいなら女子を差別しても仕方ないということです。本来、ここで問題とされるべきことは、文部省の女子についてのみ家庭科を必修としている学習指導要領の方であり、仮に学習指導要領を守ると男女差別を行う結果になるなら、文部省に対し、その変更を求めるべきなのです。教育関係者が最も大切にしなければならないのは、子供たち一人一人の人格であり、子供たちが発達し、学習する権利のはずです。子供たちの学習する権利に男女差別があつていいわけはなく、そのことは教育基本法三条にも明記されています。ところが、実際には、最も大切にすべき子供たちの権利よりも、学習指導要領の方が優先させられてしまうので

す。子供たち一人一人の人格や、権利よりも、学習指導要領や教育委員会の通達、学校の校則の方が優先する問題は、男女差別に限らず、教師による体罰、校則違反を理由とする人権侵害などさまざまなかたちで現れています。

今回の理数科入試における男女差別では、家庭科を履修させなければならぬことが差別の理由とされたわけですが、最初にも書きましたように、静岡県においては普通科の入試においても中学における進路指導の中で露骨な男女差別が行われています。その理由とされているのは、一つには静岡県には公立の女子高校があるということであり、もう一つは女子は高校に入ると成績が伸びないということです。前者の理由については、何ら法的根拠なく、事実上女子校にしているのですから、公立高校はすべて共学校にすればよいはずで、また後者の理由は、教育関係者や一般の父母の間にもかなり広く信じられているのですが、実証的にそれを裏付ける資料などは何もないのです。しかし、この「女子は高校に入ると伸びない」という偏見は根強く、今回の理数科入試における男女差別について表面に現われた理由になつてはいませんが、本音の理由にはこの偏見、すなわち差別意識が横たわっているように思います。

五、私がこの問題を県弁護士会人権擁護委員会に申し立て、そのことが報道されるや、韭山高校校長は職員会議で箱

口令をしき、高教組分会との交渉の席で、「犯人の見当はついている」と発言したということです。男女差別を行って差別された女生徒の人権を侵害したことへの反省などはみじんもなく、そのことを世間に訴えたことを犯罪呼ばわりしているのです。そのうえ県教委は、本年三月職員会議でこの男女差別に反対した葦山高校理数科の先生を、県立図書館へ配転するという暴挙を行いました。この先生は、昨年の職員会議においても男女差別に反対したところ、長年つとめていた理数科主任の地位を奪われ、今年再び反対したところ、今度は県立図書館に配転され、本の貸出の業務を命じられているのです。高校の教員の人事異動については、一定のルールがあり、異動の際には意向打診が行われるのですが、この先生の場合このルールにも当たらず、また意向打診も行われず、突然通勤に片道二時間近くもかかる異職種の仕事に配転されたのです。県教委も、明らかに男女差別に反対した先生を「犯人」として事実上処罰したわけです。現在この先生は、この配転命令は無効だとして裁判で争っておられます。

男女差別に反対するという当然のことをしただけなのに、なぜ犯人呼ばわりされたり、不利益処分されたりしなければならぬのでしょうか。このようなことは絶対に許されてはなりません。そして、高校入試における男女差別や、それに反対した先生に対する不利益処分について、責任があるのはま

っ先に県教委であり、葦山高校長です。従って、今後ともその責任追及はおろそかにできませんし、私なりに責任追及の努力を続けようと思っています。

六、しかし、県教委などが、このような態度でいられるのは、結局のところ、県民の多くが学歴社会の中で、自分の子だけは何とか「いい大学」に入りたいと願う受験競争に参加し、高校に対しても「いい大学」に入れてくれることを望んでいるからであり、また、「男は仕事、女は家庭」という役割分担意識から、「女の子はともかく、男の子だけは一流大学に」という意識がぬけないからだと思っています。この意識は、就業人口の七割以上が賃金生活者となり、一般的には高学歴ほど高賃金が得られるという経済の実態、及び女性の場合は就職しても募集から退職まであらゆる段階で差別があり、そのうえ家事・育児の負担はほとんど女性にかかるという社会の現実からきていると思います。従って、このような社会のあり方が変らない限り、教育の場からだけ完全に男女差別をなくすことは困難かもしれません。それでも、入試における男女差別が問題とされるようになっただけでも差別撤廃条約後の男女平等運動の前進の成果であり、「男は仕事・女は家庭」という意識も変りつつあると思います。私は、今後とも根気よく手の届く範囲で男女差別をなくす運動にかかわっていききたいと思っています。

(ふくち・ともこ)

「早くみそ汁 食べたいな」

——六年生の「みそ作り」——

岩瀬 志津子

春爛漫。野も山も種々に彩られ、美しい自然の息づかいを感じる頃、学校は、かわいい一年生を迎え、新しい年が始まりました。

私の学校では、新一年生百二十二名(定員一クラス四十名)で、辛うじて四クラスになり、全校二十学級で増減なく、これで専科教師三名が現状維持で仕事ができるのです。もう一学級が減ったらランクダウンになり、いわゆる加配教員が一名減らされ、専科も一教科なくなるといふ、きわどいところでした。

新一年生の中には、肢体不自由等の障害をもった子も数名いて、介助の職員(教員ではない)が一名増えただけです。今年も、私は、家庭科12時間、障害をもった子の原学級での入り込み12時間に、クラブ・委員会1時間、週25時間で、

統合教育の厳しさと葛藤しながらの出発となりました。

こんな時、新六年生三クラスが「みそ」を作りました。

みそ作りは、寒い冬季が適しているといわれます。暖かくなった春では、雑菌が入るのではと気にはなりましたが、幸い今年はまだ気温は上がらず、花冷えの日が続きました。

みそは、教科書では、一学期、日常の食事として、「ごはん」とみそ汁」を実習させます。「みそ」については、原料は「大豆」というだけで、糀や塩も、主原料であることにも触れていないし、ましてや、どのようにしてつくられるのかなど、かつて日本のどの家庭でも作られた食物の原点に触れることもなく終わっています。そして、ほとんどの家庭がスーパリーの袋詰めや、インスタントのまづいみそを何の疑問もなく使っています。

この手作りみそは、本当においしいのです。手作りのみそがなくなつて、市販のみそを食べざるをえない時は、本当にこまりました。そこで、今年は、職員室の教師にも呼びかけて材料を共同購入し、新学期の忙しい最中にもかかわらず、みそ作りに励みました。

一、みそ作りの指導 計画と実践

材料(1セット)4びん分 約5kgのみそができます。

大豆 1.2 kg 。塩袋用として、

米粃 1.5 kg 〔さらし布 160 cm (1 瓶用 40 cm) 〕

天塩 350 g 〔詰用の精製塩 1 1.2 kg 〕

費用は一セット約 1760 円、一クラス三セット作る。

一日目 (1.5 時) 。みそについての説明 。大豆を洗って水につける。 (8 時間以上) 。塩ざぶとんをぬう

(割に手間どる)

二日目 (1 時) 。大豆を煮る、あくをとり水をさしたり、煮

えぐあいをみる (休憩時にも見にくる)

。塩ざぶとん作り

三日目 (2 時) ①豆をつぶす

②粃と天塩を混ぜ①と合わせて、ボール状にする ③びん (かめ) につめる

④ラップを敷いて、塩ざぶとん (塩袋) をつめる ⑤ラベルをはり、冷暗所に置く

四日目 (0.5 時) 。まとめと感想

全部で一クラス 5 時間、二〜三日かけてとるには、学校の時間割が固定されてしまうと、専科担任のつらさが身にします。新学期が始まって、時間割が決まらないこの時期にしてみようことを、昨年度より、ねらっていました。

昨年度は、家庭科の時間が遠足等の学校行事で抜けること

新しい家庭科を創るために——小学校では——

が多かったので、みそ作りの時間がどうしてもとれませんでした。

六年の担任に相談すると、快く承知してくれました。一組の S 先生は前々年度まで、市内の学校の家庭科教師で、みそ作りのベテランです。私のみそ作りも、この S 先生や、他校の M 先生の支援で、三年前からの実践でした。市内勤務三十年近い S 先生には、安い大豆や粃や塩の仕入れ先を教えていただき、M 先生にはみそをつめる広口びんの幹旋や用具一式を貸していただきました。この先生方の力で、府や市家研で、みそ作りの講習会が開かれ、学校や公民館などから普及しはじめているように思います。

さて、給食が始まらない午前中授業の数日間、一組は三日間をかけました。第一日——豆洗いと、塩ざぶとんをぬう。第二日——豆を煮る、塩ざぶとん作り、第三日——豆をつぶしてみそにする、びんにつめる。

二組と三組は二日目の分を午前中 (一時限と休憩時間) にし、午後三日目の分をしました。

写真を見ると、どの子も本当に真剣に取り組んでいる様子が見えました。「せっけん作り」の時は、臭いが嫌われて、二度と作りたくないという子もいましたが、今回はどの子も「早くこのみそでみそ汁を作って食べたい」、「もういちど作



みそボール作り

なこともなく書き始めました。前に置いた余分の紙を一番早くとりに来たのは、K君でした。

二、子どもの感想

みそづくり

まずまめは、水に、八時間つけて、ながいなーとおもった。

六年 K・Y

「新しい」という感想が多く、私もうれしくなりました。子どもたちが、「塩ざぶとん」を作ると頬ずりをし、みそボールをつくっては、投げるまねをして、私は落としたら大変と注意してまわることも忘れたくらいでした。

次週、時間割ができて、初めての家庭科の時間に、作った時の様子と感想を書いてもらいました。

用紙を配ると、いつもなら「これいっぱい書くの?」という声が出るのですが、そんなふうに置いた余分の紙を一番早く

そして、むす(にる)のも四時間して、やっとやわらかくなった。つぎに、つぶすなんて、もったいないなーとおもった。その前に一こもらってたべておいしかったから。マッシャーでつぶしたときは、はじめはきもちがわるかったけどあとで、きゅうしよくのピーナッツマーガリンのにおいにていた。そのあとぼくたちは、こうじとしおをねった(ませた)あと、マッシャーで、ぐしやぐしやにしたやつといつしよにして、テニスボールくらいの少し大きめの、だんごみたいなのをつくった。そのとき手ざわりよく、かたちよくできるようにてのにぎりかたをかえたりしていた。さいごに、しようどくしたびんの中に、だんごを一一こくうきがいらないように、こぶしでおさえながら、ビンの中からみてすきまのあるところをうめていった。さいごにくうきはいらないように、しおざぶとんをしいて、つぎがむずかしかった。なぜかとゆうと、空気をいれないように、サランラップをしくという事です。はじめどうゆうふうにくうきをぬこうとおもったけど、サランラップをおしこんでいると、ちゃんときた。ぼくたちのはんは、先生の話をきいていなくて、豆を水につけるのを、みずを火のうえにおいてむしていた。だからぼくたちは、いちばんはじめからへまをしてしまった。だけど、二日目はうまくいったのでよかった。 おわり

みそ作りをして

O・T

私はみそ作りが初めてでした。はじめはまあまあ簡単そうに見えたけれど、わりとむずかしいのでした。六年生になって初めての家庭科の授業の時はあまり時間がなかったのです、だいたずを何回かあらってなべに入れました。

次の日はだいたずをにました。何日か連続でしました。休けいがあるたびに見にいきました。だいたずを何時間にもたのただいたずのにおいがぶんぶんしました。家庭科室の前を通っただけでもにおいがしました。そののにおいは、あまいにおいだったからまるであまいものをにてるようでした。それから少ししてから塩ざぶとんを作りました。ぬうのにすぐ時間がかったのでみんなはやくできてゐるのに、私のはんと二つのはんがのこっていました。でもできました。それからだいたずがに終わってボールに入れてだいたずをこわすやつでこわしました。こわすのは、おもしろそうだったので、はやく順番がきてほしいと思いました。こわすとおもしろかったです。それからだんごを作りました。その時はまるで小さい時にもどってどろんこ遊びをしているみたいでした。それからびんに入れてだんごを入れてこわしました。うまく入れるのはむずかしかったです。おいしいのが出来てほしいです。

みそ作り

1日目

まずはじめにまめをあらいました。そのとききれいにあらえたかな? と心配しました。だけどちゃんとできたようです。

2日目

まめ(大豆)をたきました。何度も何度も休憩ごとに見に行きました。やっとたけておしまいでした。まだやるのかな? と思いましたがあしたやると言われしました。はやくみそを作りたいと思いました。

3日目

まず先生が熱湯でボールとかマッシャーをしようどくしてくれました。そしてこうじとしおと、しおざぶとんのしおときれいとおざぶとんを作りました。まずしおざぶとんを作りました。細かくぬうのがむずかしかったです。そしてこうじと塩をまぜました。ちよっとくさかったです。

塩袋(ざぶとん)づくり



E・Y

新しい家庭科を創るために―小学校では―

それでも、十人のひとたちは、大豆をつぶしました。それからよくマッシュャーでつぶして、こうじと塩と大豆をまぜました。手でぐにやぐにやとしたり、しました。そしてテニスボールくらいのを7こぐらい作りました。そしてビン（消毒した）にボールを一こずつ入れて空気やあいだをあげないようにしました。なかなかできませんでした。できたらラップをかぶせて空気を入れないようにして塩ざぶとんをのせて、またその上にラップをのせておわりです。たのしい三日間でした。早く食べれる日が来てほしいです。最後のあとかたづけは、まめが床の間にはさまってたりしてたいへんでした。

三、おいしい「みそ」を食べよう

新学期の「みそ作り」の実習は、こうして短期間で終わりました。時間割が固定してしまっただけからは、こうはいきません。糀は生きもので、室から出したら、一週間以内に使わなければといわれ、時間を捻出するのに苦労していました。今年にはさらに欲張って、共同講入した教師の分も、次の週の三日間で作りしました。教師もS先生以外は初めてで、大変でした。それに一セット約5kgの量を一度に扱うのは相当の重労働で、昔の女のみそ作りの労働を思い起しました。この時、一緒につくっていたM先生は、「昔祖母が、みそをつくるとい

っていた意味がよくわかりました」と言っていました。つくろは、もちをつくや、かめにつめる時、搗くようにしてつめることの意味でもあったのではないかと思いました。

最後に、子どもたちの家庭の食卓でのみそ汁について、かんたんなアンケートをとってみました。一人も手作りのみそを食べている家はなく、ほとんどがスーパーの袋入りのみそを買っています。また、インスタントのみそ汁を食べたことがある子ども6割はいました。大部分の子は、インスタントのみそ汁はおいしくないと言っていました。中には、おいしいと言ひ、本当のみそ汁の味がわからなくなっているようです。

ところで、インスタントのみそ汁は栄養面ではどうなっているのでしょうか。塩分の量や添加物や製法上の問題はないのでしょうか。食品の貯蔵方法の発達で、手軽に手に入るようになってきているが、本来の食物の味を知らない子が増えていることは事実です。

作ったみそは、これから夏を過ごして寒くなるまでねかします。それから、学校の畑で収穫したさつまいもと「さつまい汁」を、大根がとれば、「みそおでん」を作って食べるのが、大変楽しみです。食べにいらしゃいませんか。

（豊中市立泉丘小学校）

住居

——生活のしかたと住まい方——

(一年共学)

常陸れい

〈前任校で感じたこと(八王子市立恩方中学校)〉

前任校である恩方地区は山肌に民家が点在し、「夕焼け小焼け」の歌が作られた地。自然の環境も歌詞そのままで変わることなく、私が転任した当時は学活にわらび採りや川遊びができました。校舎も木造二階建てでしたが、時代の波が押し寄せ、人口増で鉄筋四階建ての校舎になりました。学校を境に上恩方と下恩方とに分かれ、特色を異にしています。上恩方は各々の歴史がぎざぎざ民家が多く、従来通りの自然と生活習慣が残っていましたが、市街化調整区域のため年々子どもの数が減り生徒数は三十名足らずです。一方下恩方は山を切りひらき、宅地化し、新興住宅地になって現代家屋が建ち並んでいます。まだ高層住宅はありませんが、都会の生活や高層住宅の生活体験者が多くいました。上恩方も年々改

新しい家庭科を創るために——中学校では——

造する家が多く、太い大黒柱が惜しげもなく取り払われ、自然環境にそぐわない家に建て替えられています。裏山に鳴くせみの声、家の前を流れる川のせせらぎ、開け放した障子と自然換気、そんな暮らし方が現代では最高のぜいたくだということに気づかず、アルミサッシの窓を閉め切ってレースのカーテンをつけ、おまけにクーラーまで入れた生活様式に変わってしまった。

〈器に合わせた生活より生活の器でありたい〉

住まいはわたしたちの生活の器、民家には家族の歴史がぎざみこまれ、生命と生活の再生産の場としての機能を十分に持っています。土間や床の高さ、縁側と生活とのかかわりなど、住まいは生活の基盤であり、生活のよりどころとなっていたのです。

しかし、現実の住居を見ると、社会的な住宅問題や住宅事情があるとはいえ、住む人の主体がなくなり、器に合わせた生活を強いられています。しかも、それが現代的生活であり、快適な文化的生活であると錯覚しているのでは——と思います。鍵のかかる子ども部屋を作りたい、食事はいす式ダイニングでというように。この地区では生徒たちは専用の部屋を持ち、家族が住む空間も十分にあり、自然環境もよく、現状満足派が多くて問題意識を持っていません。しいてあげ

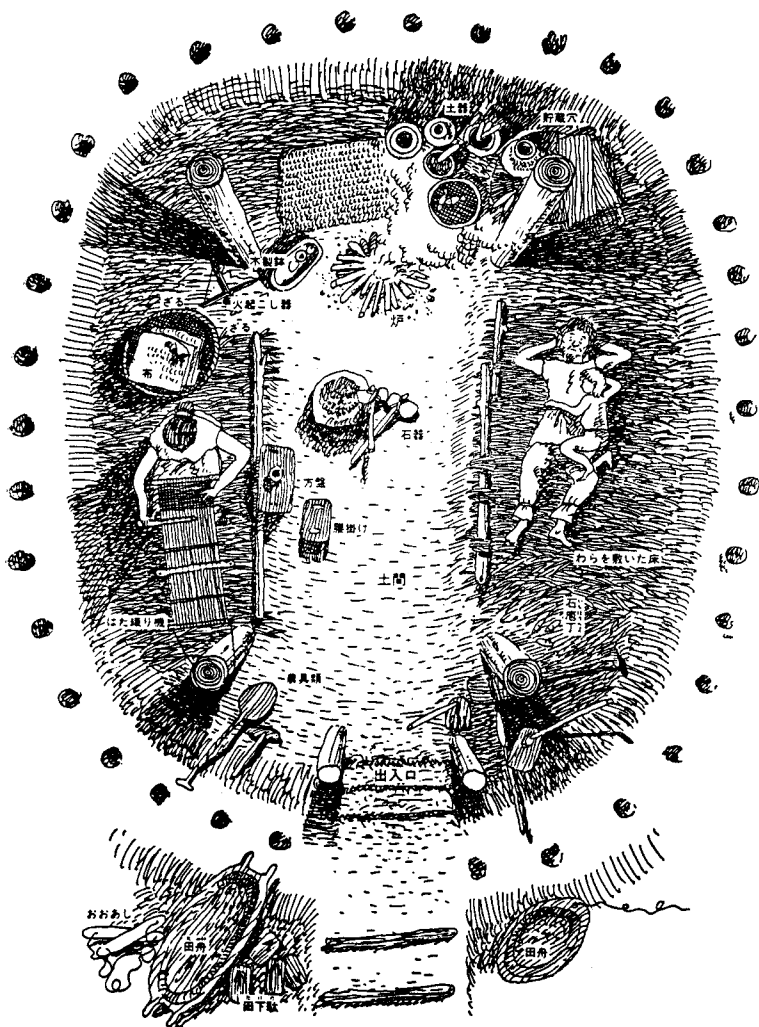


図1 建築の絵本『日本人のすまい』(彰国社)

れば、現代様式の家に住む者に対する羨望と自分が住む昔ながらの民家に対する負い目のような感情を持ち、それぞれの家の特徴に気づいていません。

教科書にはリビングダイニングキッチン設計など、地域性やそこに住む「人間」不在の、住宅情報誌と同じものがとりあげられています。なにも民家が良いというわけではありません。住まいが形式化、画一化され、生活様式までも型にはめられ、それが家族関係や子どもの人間形成までゆがめてしまうことに気づかないでいるのです。住まいをとりまく諸問題や、住宅問題など、住生活に対す

る見方・考え方・行動のしかたなどの住生活観の基礎を育てたいと考えます。

〈授業の流れと展開〉（恩方中学校では）

(1) 住まいについて

・ 住まいのうつりかわり（堅穴住居ができるまでや堅穴住居の内部と生活のしかた—図1—）

・ 住まいの役割

・ 恩方に残る昔の家——見学して特徴と生活とのかかわり方について考える

土間——農作物を貯蔵したり雨の日は作業場になったり、子どもの遊び場ともなる

大黒柱——民家の構造上、重要な役割をもつ。家長をも

意味する

台所——かまどやいろりがある

玄関・便所——それぞれ家のどの位置にあるかで、生活のしかたがわかる

縁側——近所の人との交流や、年寄りが手仕事をしたり

孫との心のつながりを深める場にもなる

床下——構造上の必要性（高温多湿）と日常生活では貯蔵庫となったり、鶏の飼育などに利用した。

田の字の部屋の間取りと部屋のしきり——ふすま・障子

新しい家庭科を創るために——中学校では——

をはずすと人の集まる場所となる

昔の恩方の生活（機織り・養蚕）を知る

・ 今の住まい（下恩方地区）

恩方の昔の家と比較し、今の住まいの特徴と生活のしかたの違いについて考える

生徒の発言から

1 一つ一つの部屋が独立しているが狭い

2 廊下が単なる通路になっている。床が低い（床下がない）ので湿気を帯びて白アリが出やすい

3 トイレが玄関の近くの北側にある

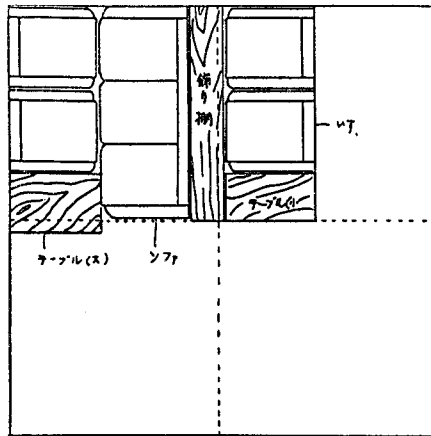
4 プライバシーは守れるが家族がバラバラになりつつある

（現檜原中学校では）

同じ八王子市でも比較的市街に近く、交通量も多く、畑や空地が残っているものの、スーパー・銀行も多く、学校より1〜2km以内に中学校が五校もあります。住いについては閑静な住宅地あり、民間アパートあり、密集した宅地ありなど、高層住宅こそないが、都市型の生活環境です。

「新聞の広告などから自分の好きな住まいの図面を選び、その理由、その他特徴についてあげる」を課題にしてみました。生徒があげる理由は、

図2 基本家具を切り取り、家具配置のくふうをしてのりづけしてみよう



。家具のしめる面積(37%の例)。30%をオーバーすると暮らしくくなるといわれる。

- 1 自然条件がよい (採光・通風や緑が多く、静か)
- 2 広い空間 (吹き抜け、部屋数が多い、台所が広い)
- 3 生活のしかたがよい (台所が対面式、出窓がある。二階にトイレがある。押し入れがある)
- 4 生活環境が便利でよい (駅や商店街が近い) などです。

「駅から近い」とどういう利点・欠点があるか考えさせます。便利。商店街がある。病院やその他の施設が近くにあり。騒音、空気が悪い。隣家が近い。土地の価格が高い。

地上げ問題も出、教室中がにぎやかになります。

(2) 住まいの設計

・生活のしかたのくふうを八畳の部屋の家具の配置でトレーニングする (家族構成、親の職業、家族の趣味など考慮し、生活活動の内容を考え、生活様式を決める)

・「教室の設計をする」 (一日の生活時間の中に学校生活が占める割合は高い。学校生活と行動の内容を考える。それぞれの生活しやすい空間、換気、照明、音などの環境条件を考えさせる)

市の周辺地区は急激な人口増のため、校舎の増築や新設校の増設が一挙に多くなりましたが、その内容は画一的であり、単なる「器」という感をまぬがれません。教室は教師の机間巡視もできないほどで、生徒が通るスペースもない狭さです。

子どもたちは「学校」とはこういうものであるという観念的な考えしかなく、「教室作り」をとりあげても、私が具体的に各地に見られる地域性を生かしたり、特色ある学校を紹介しないと発想が乏しくなります。

住む・生活するということの意味を考えさせるため、8畳の部屋の家具の配置についてトレーニングしてみました(図2)。子どもたちがこのように住んでみたいという目的意識

をもつて取り組む様子、意欲的に作業する姿が見られ、実際に授業してみると、この実習は内容あるものに思われました。

教科書では、家具と人体の動作から、必要な空間を考え広さを決定するなど、人間工学的な面でのとらえ方が強いが、住居が密集している地域や狭い土地の建て売り住宅など、現実の住宅問題を考えると生徒の力ではどうすることもできない限界にぶつかります。すでにある限られた空間の中でいかに快適な住まい方を工夫したらよいかが必要になってきます。同時に単に必要な空間のみを求めたり、建物の外観によって自分たちの暮らしを支配させられることのないように、人間らしい暮らしや、人とのふれあい、家族のぬくもりを大事にしたいものです。

教室は、生徒たちが一日の殆どを過ごし、もっとも身近でみなと同じ立場で考えることのできる場所です。画一的な教材では自分の生活と違って実感がわかないし、また個人の家の間取りでは発表したくない子もいます。そこで教室での生活活動や行動内容を発表させ、整理した上で設計をさせました。受身の立場にある生徒たちが、学校は自分たちが生活している場所で、自分たちが主体なんだという事に気づき、こんな教室でこんな風な学校生活をしたという気持ちにふくみ、中学生らしい夢や発想も生まれました。

新しい家庭科を創るために――中学校では――

〈おわりに〉

住まいについての授業を終えたあと、田舎の祖父母の家の環境や間取りを話す子。今なお昔の家に住む子が、小さい頃走りまわった広い座敷のこと、18畳もある部屋は広すぎるので、小さく区切り、カーペットを敷いていると話すと、「もったいないなあ」とため息まじりにつぶやく市街地住宅に住む子。でもやっぱりカギのかかる自分の部屋もほしい、などの話題が出ました。

ゴミは庭で燃やし、灰は畑に、たまに通るオートバイの高い排気音も静かすぎる環境では刺激があつてよいなどと、集合住宅地の子どもには理解しがたい話も聞きました。大人になつて住いの設計をするときは、子どもの気持がわかる設計者になりたいなどの感想をもらす子どももありました。

今後、住生活に関する新聞記事を切り抜き、テーマ別に分類し、日本の住宅事情、社会問題、居住環境、住居費について、家族とのかかわり方ともに考えさせたいと思つていますが、なかなか難しく、三年生なら、生徒の反応がまた違うのではとも思っています。

(八王子市立檀原中学校)

性別役割分担を見直す

浅井 由利子

〈家族・家庭をどう教えるか〉

生徒が、家族・家庭のかかえるさまざまな問題を自分の問題として考え、原因や背景を追求し、現状をどのように変えていけばよいのか、その方向を見出す——そんな授業はできないものかと、今まで頭を悩ませてきた。

ある時は、新聞の切り抜きをし、集めた記事を分類して、模造紙にはり、見出しをつけて壁新聞を、グループごとにくったり、また、ある時は、働く女性にインタビューしてみたり、または、男子生徒や母親・父親を対象にアンケートをとってみたい……。しかし、なにか物足りない。それは、若い生徒たちの中にも、「男は仕事・女は家庭」という性別役割分担意識が根強く残っており、授業によって、その意識が

変わるということが、ほとんどなかったからだ。

性別役割分担の意識が、職業や家事労働、家族ひとりひとりの生き方についても問題を生みだしていることに気づき、自分もそれにとらわれていることに気がつくような授業をしてみたいと思った。そのためには、教師の講義よりも、生徒が主体的に考え、行動できるような時間をたくさんとる方がいい。そう考えて、今回は、グループ研究を中心に授業をすすめることにした。

〈授業の流れ〉

対象 一年生女子二クラス（95名）

二期後半から三学期（14時間）

- 1 各自持ってきた新聞を読みながら、「家族・家庭にかかわる」記事を切り抜く。新聞記事を要約し、問題点・自分の意見をまとめる（冬休み中もスクラップを続ける）（1時間）
- 2 『女やるっておもしろい』（大阪府企画部婦人政策課）パンフレットを読み、感想・意見をまとめる（1時間）
- 3 アンケート（性別役割分担に対する意識など）男子生徒にもアンケートに協力してもらう。母親にインタビューしてくる（1時間）

4 マンガの中の夫婦の役割

教科書・資料など

5 アンケートの集計・結果まとめ

6 グループ研究の方法、発表について説明

研究テーマを考える

7 発表準備

8 発表・討論

9 まとめ 発表の要点、グループでの話し合い、自分の意見をまとめる。プリント類をとじ、表紙をつけ、まえがき、目次、あとがきを書いて一冊の本にする

〈生徒の感想・意見〉

『女やるっておもしろい』というパンフレットは、研修会に行った時もらったもので、読んでみて、おもしろかったので、50部ほど学校に送ってもらい、授業で使うことにした。

生徒にも好評で、解放度ロジャー(YES・NOクイズ)で解放度70%「自立人」になった生徒は自慢し、解放度0%「育児なし」になってしまった生徒は「ひどー。わたし、20世紀の恐竜でほろびるしかない、だって」と嘆く。

婦人政策課から、アンケートを頼まれていたので、回収し

新しい家庭科を創るために―高等学校では―

ながら生徒の感想を読んでもみると、

○若者向けで、楽しく読むことができた。特に「榊原家の春」はおもしろかった

○私もこの冊子、欲しいです。父親やいばっている男子に読ませてやりたい！

○「売春が悪い」のではなく、「買春」が悪いというのは初めて気がついた

○処女論とか売・買春のことなんて、すごく、きょーれつでした。自分では気づかないうちに、「男の人にかわいくみられたい」という願望をもってしまっただけで、そういう自分のよわみをぐさりとつかれてしまった

○特に同感したのは、「どちらの姓を選びますか」だった。私は自分の名字をとっても気にいっているから、絶対変えたくない

○私は結婚して子供ができたら、仕事をやめて家庭に入りたいと思っていたけど、これを読んで、ほんの少し考えがかわりました

○この冊子は、けっこう鋭いところをついていると思う。「あつ、言えてるー！」って思うところが何ヶ所もあった。ということ、私も差別をうけてるってことですよ。

私の家は、父・母・兄の4人家族ですが、やはり、家事

新しい家庭科を創るために——高等学校では——

手伝いとなると兄には言わず、私だけに言います。「女の子でしょ」というセリフで……。こんな時って、本当に腹が立ちます。だって、自分（母）だって、いつも、女は損だと言っているのに、私にそのような差別発言を

するなんて

どうして、こんなに素直に受けとめるのか、不思議に思っただ。もし、私が、教室で同じようなことを話したとしたら、きっと、反発する生徒がたくさんいると思うから。教師が言

うと、どうも押しつけがましくなるようだ。今まで、「この頃の高校生は保守的」、「頭がかたい」と思ったりしていたが、この感想を見る限り、彼女たちの柔軟性に期待できるな、と思う。こちらの「頭がかたく」、アプローチのしかたがまずかったのかなあと反省させられた。

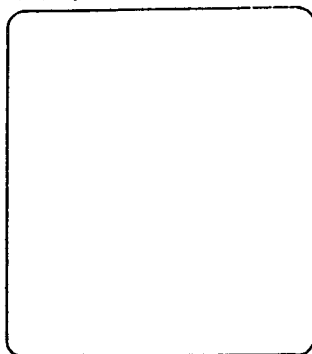
四コママンガを使って、性別役割分担について考える。これは、難しいテーマを考えるきっかけになるような楽しい教材をつくらうと思いい、前任校の講師の先生と一緒に、新聞や漫画の中から探したものだ。『おとぼけ課長』のお母さんのつぶやきは、「ふだん、家事をしていないから無理」、だから、「自分がやった方がまし」「家事はやっぱ女の仕事」という意見と、「慣れればできるはずだから、少しずつ家事を手伝ってもらおう」「いざという時、困らないようにやり方を教えてあげなくちゃ」という意

フジ太郎

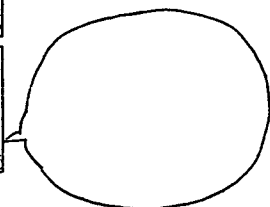
フジ太郎



お母さんの家ではどうですか。



フジ太郎に何か一言 言わせて下さい



マンガやCM、テレビドラマ、ポスターなどの中で、あるいは日常生活の中で「男は仕事、女は家庭」という考え方がよく表わされている絵や言葉を集めてみた

マンガの中の夫婦の役割

おとぼけ課長

植田まさし

お母さんとお父さんは、心の中でそれぞれ
どんなことを考えているのでしょうか



お母さんのつぶやき

や、ぱりアタシはやりやうな女ね……

お父さんのつぶやき

すまん……

見に分かれた。お父さんの方も、「日頃やってないから失敗したんだ」「家事も結構難しい」を感じ、「母さんにやってもらうのが一番」「自分はむいていない」と、二度と仕事をし

新しい家庭科を創るために—高等学校では—

つまらないので、ある程度、調整した。

①女と仕事と結婚と 結婚・子育てと仕事は両立できるか
(女性教師にアンケート、婦人会館、地域の図書館で資料

〈生徒が決めた研究テーマ〉

研究テーマを決めるのに、結構、時間がかかった。「漠然とした大きなテーマではなく、興味のあるところを深く調べた方がおもしろいよ」と生徒に言ってみるが、「あれもこれも調べたい」という生徒。同じようなテーマばかりだと

をさがす)

- ② 女性の社会進出 (職業別男女の比率、小・中・高・大学の教員の男女の人数。新聞社、郵便局・N T T、病院・企業などに、電話、または訪問して調べる)
 - ③ 女性の再就職 (職業安定所で話をきく。パートの広告からわかること。職場での差別など)
 - ④ 家庭内での役割分担 (家事分担、幼児とのかかわりなどアンケート)
 - ⑤ 母性保護と均等法 (男子は母性保護についてどう考えているか、保護と平等、均等法の趣旨)
 - ⑥ 労働時間と余暇の過ごし方 (実態、外国との比較)
 - ⑦ 離婚について (男女の意識の差、離婚届、国際比較)
 - ⑧ 子育てについて (女性だけがするものか、育児時間・育児休暇は男女に必要かどうか) など
- アンケートをとったグループが多かった。対象は、一番身近な本校の教職員、男子生徒。小・中学生にたのんだグループもあった。アンケートの質問内容を考えるのが、なかなか大変だったようだ。私の方も、どの程度口出しすべきか迷ったが、基本的には、生徒にまかせることにした。経験して、初めてわかることもあるから、それを大切にしようと思った。生徒が相談しにきた時には、本や資料を貸したり、どこ

に行けば資料が手に入れられるか教えた。幸い、近くに、市役所や職業安定所があったので、気軽に訪ねて行くことができたようである。

発表の資料として、プリントを何枚も用意し、発表時間も大幅にオーバー。そのため、討論や私がまとめる時間があまりとれず、発表しっぱなしという感じで終わってしまった。グループ研究にすると、教師は、案でできる部分もある。けれども、中身の濃い授業にしようと思うと、大変しんどい。一夜づけ(?)では間に合わない。教師の本当の力量が問われるからだ。

〈生徒のあとがきから〉

「初めは面倒くさいと思っていたが、やっているうちに楽しくなつて」きて、「人の話をきくより、自分の目で見る方が、現状がはつきりし、頭によく入」つたという。

「ひとつひとつ問題はバラバラでも、どれも『男は仕事。女は家庭』の性別役割分担につながっている」「だれかが解決してくれると待っているのではなく、自分たちで解決していかなければならない問題だ」「今の状態を調べただけ。今度はどのようにしたら問題が解決するのかというような深いところまでさぐってみたい」と。これは、私の課題でもある。

「女性の意識改革がまずなければ、家庭の問題の解決は考えられないのではないだろうか。そして、私達は、三学期の家庭科の授業で少なからず、意識が変わった。生きている時間からみれば、ほんの少しの時間で意識が変わった。しかし、男性の意識改革はどうやって行われるのだろうか。新聞でだろうか。テレビでだろうか。それとも、教科書や参考書であろうか。私はやはり、家庭科は男女共、必修である必要があると思う」。これを読んで、とても考えさせられた。他にも、「女性だけの力で解決する問題だと思えない。私たちは男子に実情を知ってもらい、共に考えるチャンスを逃している」というような声も、たくさんあった。

私は今まで、女子だけの家庭科でも、男女で学ぶべき内容を教えているということで、自分を納得させてきた。もちろん、内容を充実させることは大切だ。しかし、それだけではだめなのだ。生徒たちの問いかけに「六年後には必修になるのだから」と言ってしまうわけにはいかないだろう。今の生徒にとって今しかない、「今」が大事なのである。女子だけの家庭科をいくら一生懸命やってみても、今、男女共に考える機会を奪い、男子には、家庭や生活の問題は、女子が考えておけばよいと思わせていることになる。こんな事も、生徒に指摘されるまで、気づかなかった。

新しい家庭科を創るために—高等学校では—

高校教師である私は、やっと必修になると喜んでいたが、中学で共学で学んできた生徒にとつては、男女で学ぶことが当然で、高校の女子だけの家庭科の方がよっぽどおかしいのだ。女子のみ必修の家庭科が女性差別であることを、はっきり認めなければならないと思う。

去年、教育実習生が「現代社会」の授業で、家庭科の必修問題を取りあげた。私は、その授業を見せてもらいながら、男女一緒にいる教室で、授業をすることがきたらどんなにいいだろうと思った。他教科では当然のことが、どうして私にはできないのだろうか。

「女子だけの家庭科」、生徒も私も、すつきりしない。そのことにもつとこだわり、この形を変えていかなければ、と思っている。

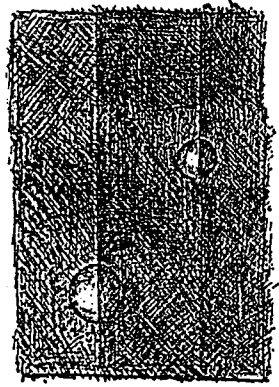
(大阪府立茨木高等学校)

海の輝く日

早春のはがきから

佐藤通雅

(カットも)



古川女子高にいたときお世話になった高橋都先生からはがきをいただいたのは、四月のことでした。

この三月をもって宮城県古川女子高等学校を退職いたしました……

退職のあいさつ状だったのです。一瞬、えもいわれぬ寂しさにおそわれました。元気はつらつだった先輩の先生たちが停年を迎え、次々と前線を去っていく……。ということは自分もまた、避けがたく年をとっているのだけれど、毎日の繁忙さの中でそんなことすら忘れてしまいがちです。高橋都先生は家庭科を担当していました。私はひそかに、その存在感

に圧倒され、また魅力も感じていたのです。存在感、それはこの世代の家庭科の先生に共通した面でもあります。たとえば英語とか国語の先生と比べてもちがいます。比喩的にいうなら、知性的で足の細い他教科に比べて、全体が重く、足も地についている、そんなイメージです。この世代は昭和のごく初期に生まれています。敗戦のときは十代半ばです。つまりどん底の時代に思春期を送り、多くのものをしかと見つめた世代ということになります。当時、上級学校に行けるのは、ある程度経済的に豊かで、しかも頭脳明晰な女性でした。やがて教師になり、結婚し、子も得ていきます。その過程で、新しい女性の理想と、なかなか変わろうとしない現実との相克に苦しみました。にもかかわらず逃げず、仕事をやりながら、女性であるためにふりかかる生活をもひきうけてやりとげてきました。もちろん道程を、こんな簡単なことばでつくるわけがありません。が、ある共通性としてそういうことが抽出できるように思います。さてそこで、高橋先生が家庭科教師として立つとき、単なる一教科という領域ではなく、人間の全体性への視野がありました。それが、くぐりぬけてきた暗い時代の体験によつて、より強靱なものになっていたのだと私は思います。まさに存在感がありました。

国語とか社会・英語・数学などなどの教科は、いうなれば知的活動が個別化された領域です。それに対して人間の生誕

から老後までを対象にする家庭科は、人間の全体性に直接的にかかわります。したがって他の教科と並列するような個別化は、本質的に拒むものと私には思われます。人間科とか生活科といった方がより適切かもしれませんが、カリキュラムに組むため、とりあえず旧来の家庭科の語を使わざるをえません。

ところで、学校における受験体制は家庭科の時間をじりじりとせびめていきます。女生徒ですら、家庭科より英語をふやしてほしいというようになります。この世代の家庭科教師が抵抗したのはいうまでもありません。今にして思いますと、背景には生活形態の変動があつたのです。生活の簡略化をめざして、便利な道具がどんどん入り込んでいきます。衣食住への考えも変わっていきます。それにつれて家庭という教科への比重が軽くなつていったのです。しかしながら、生活意識の希薄化ははたして正しいのか、便利さがもたらす新しい時代とはどういうものか、そこをどう生きていくのかなどの問いは、やはり人間の全体性にかかわるものです。

いや、このように専門でもない教科を語るのは大それたことですし、荷も重いのでそろそろやめますが、高橋先生の世代の家庭科教師の存在感は、全体性への視野と、何よりも自分自身が足を地につけている、いうなれば生活感覚に起因していたと私には思われます。

ついでにいいますと、私は現在国語教師ですが、今度教師になるときは家庭科をやりたいと思つています。実際、先年度機会があつて、一ヶ月だけでしたが、一年の家庭一般をやらせてもらいました。しかしこの話は長くなるので、別の機会にまわします。

さらについでにいいますと、どんな便利な時代になつても生活感覚は大切なことだと考えています。生活感覚とは要するに自分がこの世に生活しているという手ごたえのことです。育児も料理・裁縫も、あるいは農作業もすべてふくまれます。これらの感覚の希薄化は、必ずや人間を貧しくするにちがいありません。だいたい生活ほど楽しいものを、どうしてわざわざ捨てる必要があるでしょうか。女性解放運動、私はあの主張に基本的に賛成でした。が、出産も家事もジャマなんていいでしたとき、「そんなにいららないなら、オレにください」という気持でした。私は今までで一番輝かしかったと思う日々は、青春時代などでない、育児の時期です。子育てではなく、子育てに親としてつきあつた時期。そしてくれぐれも残念なのは、おなかに生命をはらめないことです。

高橋先生のはがきには「これからも〈食〉のことにこだわって仕事していきたいと思います」とそえられていました。その心意気やヨシ。今宵は高橋先生とその世代の家庭科教師の第二の青春を祝して、ひそかにカンパイします。

今、子どもたちの世界は

塚越敏雄

「娘の買い物」

「ねえ、ミーちゃん。いでた商店に行つて、食パン買ってきてくれる？」

突然そう言われて、当時四歳だった娘は、面くらっているようでした。

店はあるのだけれど、今まで自分一人で行ったことなどありません。それに、我が子は、よその家に行くとか親のかげにかくれているような子だったので。

娘の顔には「自分一人で買い物をするなんてできるだろうか」と、不安そうな表情が浮かんでいました。

「ミーちゃんが買ってきてくれると、お父さん、とっても助かるんだけどな」

重ねて、たのんでみました。

「でも、何て言えばいいの」

「いでた商店の前に行つて、『食パンください』って言えばいいんだよ。そうして二百円渡すとね、おつりと食パンをくれるから、それをもらつてくれればいいんだよ」

「ミーちゃん、やつてみる」

不安な気持ちを振り払うようにそう言つて、娘はおもてに出ていきました。

そうなると、今度は私の方が何となく落ち着かなくなっていました。新聞を広げていても、考えているのは娘のことばかりです。

しばらくして帰ってきた娘の手に

は、何もありませんでした。そして、実に悲しそうな目をしていました。

「ミーちゃんが『食パンください』って言つたのに誰も出てきてくれないの」

今にも涙がこぼれそうな顔でした。

そんな顔を見ていると、「もう、そこまでがんばつたんだから、いいよ」という声が、のどまで出かかつてきました。でも、もう少しがんばつて、この「初めての買い物」という経験を自分の力でやりとげることができたらどんなに自信を持つことができるでしょう。

「きつとね、ミーちゃんが言った声が聞こえなかつたんだよ。もつと大きな声で、『食パンください』って言っただよ。ほら、練習してみてごらん」

「食パンください」

泣き出してしまふようなのを、ひっそこらえている、小さな声でした。

「もう少し大きく、奥の方まで聞こえるように」

「食パンください！」

「そうそう、そのくらいの声だったら、きつと聞こえるよ。じゃあ、がんばって行ってくるんだよ」

小さな体のあとを追って、私も店の見える道路まで出てみました。心配で心配で、たまらなかったのです。娘は、私の姿に気づき、にこっと笑って見えました。そして、それから店の中に入っていました。

しばらくして出てきた娘の手には、食パンの袋が、ぎゅっと握られています。した。「一人で買い物できたよ」と、得意そうな顔でした。その日から、食パンを買いに行くことは、娘の大切な仕事になっていきました。

やがて、娘も小学生になりました。小学校に通うようになった娘に私が求めたことは、なるべく親の力を借りずに行う部分を広げていくことでした。というのは、十数年の小学生たちとかかわりの中で、誰かにやってもら

うことを当然のように待っている小学生たちが多いことに、うんざりさせられていたからです。たとえば、「……しなさい」と言われれば素直に従うのに、たとえバケツの水をひっくり返しても、すぐふこうとせず、おこられるかどうかばかり気にしている子もいました。ふいている友だちを見ているだけの子もいました。教科書を持って来ないまま、誰にも「貸して」とも言わず、じつと一時間中すわっている子もいました。

家族の一員である娘には、全員の食器をならべたり、片付けたり、洗ったり、ゴミを出したり……というような仕事を当然のこととしてさせるようにしました。そして同時に、友だちと、たっぷり遊ぶことをすすめました。

娘が三年生になった、ある日のことです。母親から、氷砂糖とパンを買って来るようにたのまれました。「氷砂糖は、たぶん酒屋さんにあると

思うから、お願いね」

千円札を持って出かけましたが、一けん目の酒屋さんにはありませんでした。二けん目にも、ありませんでした。その時、娘は、先にパンを買い、おつりで親に電話して相談することを思いつきました。

「魚屋さんの近くの酒屋さんにも、その先の酒屋さんにも氷砂糖がないの」「それじゃ、もう帰ってきていいよ」「一けん目の酒屋さんであきらめず、しかも、パンのおつりで電話をかけることを思いっただけで、親の私としては、充分でした。」

「だって、ないとお母さんが困るんですよ。お米屋さんにあるかもしれないから、もう一度、行ってみる」

「お米屋さんには、ないと思うよ」しばらくして帰ってきた娘の手に、氷砂糖の袋がありました。母親も私も大きくなった娘を驚いて見つめました。

経済の目

生活サイドから見た経済

新型間接税 と 家計

福島澄香

生徒の感想

国税庁から生徒用に配られたパンフレット『現代社会資料』『わたしたちのくらしと税―財政と国民経済―』高等学校学習指導要領準拠・昭和62年版」などを今年の生徒たちに読んでもらった。

A「教育費や社会保障費の国の財政に占める割合が昭和五〇年以降、年々減っているのを知って驚いた」 B「逆に防衛費は八年間に54.2%も急増しているのはなぜか、国税庁の社会科資料には説明がない」 C「両親は何時も税金が高いとブービーいつている。家は店屋だから大型間接税は大問題なんだ」 D「所得の少ない人や所得のない私たち学生が使う学用品や日用品にまで税金をかける新型間接税はおかしい」 E「何に使うための税金なのか知る必要があると思った」

表1 新型間接税の家計への影響分析結果

(単位: 円)

年 間 所 得 階層	所得	①年平均負担額	
		(円)	負担率(%)
平均	556万円	93051	1.67
1	～ 99万円	40987	4.50
2	100～149万円	39072	3.03
3	150～199万円	42383	2.38
4	200～249万円	50330	2.23
5	250～299万円	59582	2.17
6	300～349万円	63653	1.96
7	350～399万円	70946	1.90
8	400～449万円	78130	1.85
9	450～499万円	82583	1.75
10	500～549万円	88548	1.69
11	550～599万円	98296	1.72
12	600～649万円	103892	1.67
13	650～699万円	109625	1.63
14	700～749万円	117063	1.62
15	750～799万円	119624	1.55
16	800～899万円	127645	1.51
17	900～999万円	142015	1.50
18	1000万円以上	163390	1.32

中間答申の主な特徴は、新型間接税の導入と、所得税の累進税率の何億円という高所得者への大幅な緩和、高利潤を上げている巨大企業の法人税率の引き下げなどである。表は、安藤実教授他五人の静岡大学グループによる計量分析から引用したものである。(『エコノミスト』五月十七日号60頁) それによると家計への影響は、どうしても「新型間接税の逆進性(所得の低い人ほど税の負担が実質的に重くなること)が問題になる」という。

表1を見てほしい。年間所得と、①年平均負担額(負担率)の欄とをよく見ると、年間所得九十九万円までの低所得層

表2 新型間接税の家計への影響分析結果

		(単位:円)		
年 間 所 得		②減税額(円)		③増減税
階層		(所得税)	(住民税)	(①-②)
平均	556万円	49000	28000	+16051
1	～ 99万円	0	0	+40987
2	100～149万円	0	0	+39072
3	150～199万円	0	0	+42383
4	200～249万円	0	0	+50330
5	250～299万円	7700	10000	+41882
6	300～349万円	29600	10100	+23953
7	350～399万円	31900	16000	+23046
8	400～449万円	33300	16600	+28230
9	450～499万円	34600	27500	+20483
10	500～549万円	41900	28000	+18648
11	550～599万円	56000	28000	+14296
12	600～649万円	65100	28000	+10792
13	650～699万円	68600	32200	+ 8825
14	700～749万円	88400	40100	-11437
15	750～799万円	109100	48500	-37976
16	800～899万円	139900	62900	-75155
17	900～999万円	194200	83300	-135485
18	1000万円以上	361500	56400	-254510

が負担する新型間接税の負担率は4.5%となっている。それから年間所得が大きくなるにつれて負担率(%)は軽くなり、最高年間所得層一〇〇〇万円以上では新型間接税の負担率は1.3%と、低所得層4.5%の1/3以下に軽くなっている。

このように表1は低所得層ほど負担が重く、その負担率は3.5倍にもなる新型間接税の逆進性を明らかにしている。

表2を見てほしい。所得税・住民税の累進率の大幅な緩和

の結果、年間所得一〇〇〇万円以上の高所得層への減税額は②の所得税と住民税を合せて四十一万七九〇〇円以上あるのに年間所得二五〇万円未満の低所得層には全く減税がなく、新型間接税の負担は、そのまま家計に重くのしかかってくる。

新型間接税導入による表1の増税と、表2の所得税・住民税の減税をトータルに見た表2の③を見ると、年間所得七〇〇万円未満は増税に、これを超える高所得層は減税になるという結果がでている。国税庁の「民間給与実態」で、七〇〇万円未満層がサラリーマンの90.9%であることからみても、上層の中堅サラリーマン層を含めて庶民のほとんどは増税となることがわかる。

所得税の高所得者に対する累進税率は昨年70%から60%に引き下げられたが、中間答申は、さらに50%まで下げ、金持ちを優遇しようとしている。昨年暮の所得減税では、年間所得一五〇〇万円以上の高所得層(全体のわずか7%)は、すでに、減税総額の半分以上の51.6%を受け取っている(全国消費者団体連絡会の試算による)。

「税制改革」で年取七〇〇万未満は増税になるという静岡大のグループのシミュレーションは、答申の新型間接税導入によって、国民が公平感を持てるような税制を構築するという答申の基本的考えと、その具体的内容とは大きく矛盾することとを厳しく指摘している。

アメリカの共働き夫婦は今

⑨ アンとロッドの場合 その4

アンとロッドの夫婦の事例では家族生活の大切さについてよく語られる。子供が六歳(男)、五歳(女)、二歳(女)で手のかかる時期であることもあり、妻の側は手のかかる子育てに追われることへの不満をいう反面、それは大切なものであり、自分にとって欠かせないことであるとして受け入れていく。夫の側は、妻より距離をおいた形で子供に接している。子供をもちたいと若い頃から思っている、子供の成長と共に父親とのつながりは増してくるだろうと期待している。子育てに専念した主夫の日々をととても楽しんだという。今でも子育てと研究をぶつかり合うものとはとらえて

いない。妻にとって仕事と家事の二つの役割が問題であろうと理解しつつも、それは妻がそのように受けとめているからだという見方をする。

この夫婦の結婚生活や家族についての考え方をみてゆく。

R 妻(アン)

Q—あなた方夫婦は結婚してからずいぶん二人できびしい中をきりぬけてきて、成長もしてきてたのね。

R—そうですよ。そうせざるを得なかったしね。結婚して二人とも働いていて、貧しくて、学生で……こんな中では本当によほど努力しないと結婚生活なんて続けられないわよ。時間も手間も結婚生活を続けるにはかかりますよね。もし自分にプライドがなければ、そんなことに手間ヒマかけるなんてできないですよ。荷物まとめて出ていった方がずっと楽ですよ。一度冗談半分で五歳の娘に、「あーもういやだ。ママ出ていくわー」って言ったの。そんなこと言うべきじゃないのに……。そしたら娘がワツと泣きだしてね。本当に私が出ていっちゃうと思ったのよ。そんなつもりで言ったんじゃないのに……。あの子はとてもセンチティブな子だね。母親である私が娘がイヤでたまらないから出ていきたいのじゃないかと思ったのよ。つまり、あの

子自分が悪いことしたようにとってしまったのよ。本当にかわいそうなことしてしまったわ。あの子はテレビのマンガ見てもすぐ泣く子なのよ。本当に結婚生活が続けるってことはむずかしいわ。ホントに。でもそれはやる価値のあることよ。もしもつと楽にやりたければ、結婚しないこと、子供をつくらないことよ。いつてみれば、本当にしようもないことよ……子供育てるなんて……。お互いに誓い合つて、目標をもつてやつてくつてことはたいへん。

Q—あなたの目標は何？

R—そうねエーわからないわ。よく考えてみないとね。

Q—じゃ。あなたの一番大切に思うものは？

R—結婚生活かしらね。結婚し、家族をもつことを一番大切に思つてゐるわね。そしてそれをとてもしいいものだと思ひながら、私の目標はそこから抜け出すことなのよ。私やロッドの次のステップはね、それが何であれ、そこから次のことに進んでいくことなの。

Q—あなたは互いに誓い合つたといったわね。

R—ええ、結婚生活が続けてゆけばゆく程、現実問題として自分が誰なのか、どういう方向に向いてゐるのが見えてくるわね。そして夫婦が同じ方向向いてればやっていけるけど、それがチグハグだったら何かを変えなくちゃね。結婚生活が続けることが大切で、正しくて、聖なることな

ら、そう考えるなら。それが二人の誓いかしら。カソリックだね。結婚生活っていうのは闘いぬく価値のあるものよ。

R—夫（ロッド）

Q—あなたが子をもちたい、父になりたいと思つたのはなぜ？

R—そーだなぁー思い返してみると……そう六、七年前かな。自分で考えて決めた時期があつたな。自分は何者なのか、男であることのダイナミズムの中で父親になること、それを僕は望んでいましたね。父としてうまくやれると思つたんです。というより、父になる必要性みたいのを感じたんですよ。

Q—二十二か二十三歳の頃に？

R—二十二歳だつたな。

Q—ホォー、それは若いわね。

R—そうだな。もしかしら知つたかぶりしたかつたのかもされないけど。しかし七年後の今、あの決断はまちがつてなかつたと思いますよ。その決断は「小さな子供がいたらカッコイイな」なんていうものではなく、それよりもっと真剣でしたよ。喜びという感覚より、責任という方が近いですね。この頃になつて子供との関係をどうつくるかということで、そこから遊びをみい出す方法がわかつてきたよ

うに思いますね。それは与えられたものでなく、与えられたのは責任ですけど、欲びは向こうからくるのではなかった。子供をもつことから欲びをみい出さないとということもありうるでしょうね。私の父は、私に対して責任感だけで接していたように思いますね。

子供との関係、そこから楽しみ、欲びをひき出すことをみつけたとき、いわば目からウロコが落ちましたね。

Q—子供を育てることに欲びをみつけられたわけね。

R—そうなんです。月日がたつほどそうになりました。子供のことって苦しみにもなり得ますよね。学校だ、勉強だ、金もかかるし、政治もかわるし、いっぱいあつて逃げだしたくなることってありますよ。

Q—そう、そう。

R—しかし子供がいてこそ救われることもある。本当に、子供は救いですよ。

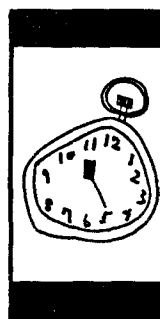
Q—子供からどんなことを学んだと思いますか。

R—そーだなー、いろんなレベルでね。子供は私自身の鏡です。多くの場合「予言的」ですよ。宗教用語でいえば。子供っていうのはすぐくはつきり言いますし、行動するし苦しみも表すし……、僕が何者なのかをみせつけられてときには苦痛ですが、ときには改心させられるようなこともあつて、元気づけられますね。本当に子供は僕の鏡です。

それと、もうひとつ子供はエネルギーを与えてくれますね。特に僕は研究生活の中にいると息苦しくなるんですよ。抑圧感さえもちますね。何かいきいきしたものに囲まれないと思うことがあります。何か、いきいきして元気で、そういうものを子供はもつてますよ。それがとても僕をリフレッシュしますよ。

アンとロッドの夫婦の間には、経済的苦しさ、役割のアンバランスからくる妻の不平、三人の幼児の世話に追いまぐれる日々と目まぐるしい程の日常生活がありながら、二人はそれでも結婚生活は闘いぬく価値があり、自分たちはその中に生きることに救いや、聖なるものをみつけていると語る。

アンの夢は夫ロッドが牧師となつて、自分はゆつくり手芸でもしたいというものが、夫ロッドは自分が牧師になることでその仕事にのめりこみすぎて、救いや欲びの源である子供、家族というものが後回しになりはしないかと危惧している。この二人は自分達夫婦のあり方を平等だと感じている。アンは自分への家事・育児役割が、夫より過重なことをフェアでないとはいつつも、全体として、時間のある方が子育て・家事をするのは当然とし、五時定刻に仕事の終わるアンが結果としてより多くの家事役割をすることに基本的には不平等性を認めていないのである。



ハンゲル(한글)への思い その一

近頃はNHK講座をはじめ、いろいろなところでハンゲルを目にする。しかし、すぐお隣の国の文字なのに、日本人が余りにも知らないという状況は、まだ殆ど変らない。

そういう私も、朝鮮人と結婚していながら、長い間朝鮮語を学ぼうとしなかった。在日二世の夫とのコミュニケーションに不自由を感じなかったせいもある。が、はじめハンゲルがまるで宇宙文字のように見えて、容易になじめなかったことも大きい。その私が、今頃になって朝鮮語と朝鮮史の勉強を始めた。ハンゲルになじみ、朝鮮史をひもとくようになる

と、この文字に対する感覚がすっかり変わったのを感じる。
ハンゲルは、世界の文字の中でも珍しい、全く独創的に「創られた」文字である。

十五世紀の、李朝第四代の王世宗は、今も大王と人々に慕われている名君である。彼は若くして王位につくと、集賢殿

という役所に全国の俊才を集めた。王とピッタリ息の合ったこの頭脳集団が、王朝創成期という天の時を得て、奇跡ともいえる数多くの大文化事業を成しとげる。活字の実用化によるおびただしい数の書物の出版、天文や農業の研究、機器の作成……数えあげればきりが無いその文化事蹟の中でも、ひとときわ燦然と輝くのが、ハンゲル創製なのである。

それまでの朝鮮には、固有語はあったが文字はなかった。文章は殆ど漢文で書かれていたのである。日本の万葉がなと同じ、漢字の音で朝鮮語を表わす吏詠（吏詠）というのもあった。しかしこれらは全て、難しい漢字を知らない庶民には無縁のものであった。両班（両班）とよばれた支配者たちは、この漢字漢文を独占することで、支配階級の位置を保っていたのである。

世宗は、この状況を変えようと決心したのであった。民衆教化という支配者の意識から出たことではあったが、「言いたいことがあっても、十分に言い表わせない民を不憫に思い、新しく、やさしい字を創った」と述べている世宗の思いは、真実のものであったといえよう。

世宗の命を受けた学者たちは、血の滲むような努力を開始した。あらゆる外国の文字を集め、分析、研究した。世宗自身も加わったその努力の結晶として出来上ったのが、ハンゲルである。それがどのような原理で創られているかは、次の機会に説明したいと思う。

敗戦と教育民主化

－男女平等教育の原則なる－

昭和二十年八月十五日、日本はポツダム宣言を受理して無条件降服し、十五年戦争は終了した。広島・長崎の原爆投下による全滅のみでなく、既に日本の都市はほとんど焼野原になっていて、軍事的敗北ばかりか、経済的にも文化的にも壊滅的打撃を受けていた。この廃墟・虚脱状態の中で、いち早く八月二十五日、市川房枝・赤松常子等戦前の婦人解放運動家たちは「戦後対策婦人委員会」を結成して、翌月十日には、婦人参政権をはじめとする女性解放政策を、日本政府及び占領軍総司令部（GHQ）へ要望した。ついだ十月十一日、GHQは日本民主化の為の五大改革、すなわち①男女同権・婦人の解放②教育の民主化③労働組合の組織強化④財閥解体等経済機構の民主化⑤秘密警察等の廃止等の改革指令を出した。こうして、戦前の日本では考えられなかった抜本的改革が次々に行われ、二十一年四月十日の第一回総選挙

で日本女性をはじめて参政権を行使して、三十九名の婦人議員を当選させたのであった。

教育界においても同様、二十年十二月五日「女子教育刷新要綱」が発表されて、男女平等の原則が打出された。早速二十一年度から既存の公私の大学は女子に門戸を開くことになり、この年東大一八名、京大一七名など旧制帝国大学への女子入学者四九名を含めて公私の旧制大学へ一四二名の女子が入学した。以後年々女子の大学入学数は増加し、さらに二十三年度より新制大学制度が発足するとともに、各地に多くの共学制の国公立の大学が新設され、また戦前の女子専門学校が主として女子大学に昇格するにおよび女子の大学進学数は飛躍的に増大していったのである。

他方、二十一年十一月公布の日本国憲法や、翌二十二年三月制定された教育基本法により、義務教育は小・中学校九か年に延長され、新制高校三か年共に所謂「六・三・三制」の実施となったが、それは男女平等教育の推進でもあった。特記すべきは、戦前の女子用教科であった「家事・裁縫科」に代って、新しい「家庭科」が①女子用教科ではない②裁縫・家事の合科ではない③単なる技術科ではないの三条件の下に、平和で民主的な家庭建設の為の男女共修科目として認可されたことであった。これは後に再び女子用教科に変貌されてゆくが、発足時の理念は忘れられてはならないのである。

子 育 て

その2

湯沢静江

結局一人っ子のカギっ子で育てざるを得なかった。それまでの社会通念からすれば、子育ての外的条件としては、もっとも危惧されるものだった。育児書なんぞいくら読んでも、子育てのノウ・ハウは自信や信念にはつながらなかった。満三歳までは近所の方々に面倒を見てもらい、保育園や小学校へ行くようになってからも、私共が帰宅するまでは、いろいろな方のお世話になった。しかし、子供との接触時間の少ないことは、物理的にどうしようもないことだった。仮に母子家庭だったら、私のような、仕事をとるか家庭をとるか……というようなのんきなことは言つてられないはずだとも考えた。あとは時間の量ではなく、質で迫るしかないと開きなおることで、子供が寝つくまでは相手になり、また観察をする時間にした。戸締り、電気、火の管理、怪我をした場合の処置など、最低限のことができるようにし、身のまわりの

ことは極力一人でやらせた。必要に迫られてやったことではあったが、後になってこのことが子供の自立を促進したのには、ほぼ間違いないと思うようになった。

どんなに時間がかかっても、親は手を貸さずに見守るということは、現実の場面では非常に難しいことはあるが、それをやり通す努力はしたように思う。ある日、朝食を僅かに食べずに園へ出かけようとしたことがあった。「ちよつとこつちへおいで」と呼びよせ、抱きあげてから少しゆすり、「ご飯を食べてないから軽いよ」と言っておろした。息子は再び膳について、茶碗に残っているご飯を食べ出した。食べ終わると「抱いてみて」と言ってきた。「重くなつた、重くなつた」と言つて抱きあげると、ちよつとうれしそうな顔をし、そのまま小さなカバンをかけてとび出して行つた。それから幾らか、そんな目方量りが続いた。またある時、帰宅してみたら、救急箱のまわりに赤チンのついた脱脂綿が散らかつていたので、どこを怪我したのかと尋ねると、「モツちゃん(彼の友達)がね、保育園の帰りにころんでアゴから血が出たの。だから僕がなおしてやったの」というような説明をしてくれた。あとでモツちゃんのお母さんに、傷の手当てのやりなおしはお願いをしたが、友達の話までできるようになったのかと思つたら、とたんにおかしさがこみあげてきた。

(第四回)

女子大学と

いうものの

存在

女、そして男
田川 建三

先月は少ししからんことを書きましたので、言い訳をさせていただきます。私は十年前に女子大学の教師になって以来、女性の眼で世の中がどう見えるかをなるべく身につけようと努力してきました、と書きました。これは、何ともお恥ずかしい話です。では、女子大学の教師になる前は何をしていたかという、すでに十三年間やはり大学の教師をしていたので、共学の大学ですから、その時に相手にしていた学生の中にも女性はもちろんと存在していたのです。もしも、先月書きましたように、学生がこれから生きていく位置からものを見るように自己訓練をするのが教師の責任であるなら、その十三年間は私には、目の前に存在している女性の学生の存在が見えていなかったのですから、教師として失格だったわけです。私は自分と同類の男のことしか考えず、学生たちが自分と同様に男社会で男の生き方をしていくのが当然とばかりに無意識に思い込んでいたのです。女子大学の教師になった時、もはや目の前に女性しかないないので、それではじめて女性のことを考えざるをえなくなつたのです。

今回もまた自分の怠慢を一般化するようで申し

訳ないのですが、どうも、女性の姿が目にはいらないのは、世の男たち全体に共通する傾向のように思われます。よく、女子大学など今どき時代錯誤だから廃止すべきだ、という声を聞きます。確かに、女子大学なるものが歴史上出現した動機は、明瞭に、高等教育における女性差別であったのです。けれども、今となってみると、このままだ女子大学を廃止しても、問題は解決しないように思われます。今の共学の大学は決して、女と男が平等の立場で勉強する場所ではなく、制度も、教師も、「学問」と称することの中身も、すべて男の大学である場所に、いわば付属的に女もいてもいいよ、と言われているにすぎないのです。だから、私みたいな人間がのほほんと何も気がつかずにすごすことができたのだと思います。今はまだ女子大学が、女のかかえている問題（というよりも、女に押し付けられている問題）を明らかにする作業の一つの核になり、男的「共学」大学に対して、女と男の真の共学の場所に変容するようにせまる力となることができるのではないかと思っています。その変容がある程度実現すれば、女子大学はおのずと消えていくでしょう。

歴史を知ること

日本の歴史はアメリカに比べて十倍の長さがあります。この歴史の影響で日本人は素晴らしい現代の社会を作りました。あるアメリカ人は、日本の「ゴールデン・エイジ」というレッテルを貼りました。このゴールデン・エイジに、日本はお金がありますし、国内も国際的にも平和があります。

たとえばニューヨークでは死者一万人のうち、殺されたのは二十四人、東京は二人だけです。私はアメリカに住んでいる時、犯罪のためにいつも心配しました。日本は安全なような気がします。けれども、この頃日本の政府は、国民に現代の歴史を忘れさせようとしているようで心配です。

まず文部省は、テキストで戦争の歴史を変えました。もちろん中国や韓国が怒りました。最近ある大臣は「ラスト・エンペラー」という映画を見たあとで、「これはジャパン・パーシングだ」と言いました。映画の中に残虐な行爲をした日本軍人が出るからです。また今、奥野長官は、中国との戦争で日本の立場を弁護し、大変問題になりま

不思議の国ニッポン

クレトン・ナフ

した。もし日本人がみなこんな考えだったら、ゴールデン・エイジとは到底言えないでしょう。

しかし、日本の国民は、アメリカ人より国の歴史に気づいていると思います。アメリカのポップ文化で、時々過ぎ去ったことが人気になりますがそれはほとんど現代のこと。今は、60年代のミニスカートやポップス音楽などに人気があります。ベトナム戦争についての映画も、これを正当化した「ランボー」から、私たちの責任を問う「プラトーン」まであります。

日本では、和服、民謡、書道などはまだまだ人気がありますし、NHKの武田信玄も大変な人気で、武田さんの家に見物人が盛んに来ると聞きました。年輩の人は、戦争の経験をよく覚えていますが、若い人にはほとんど伝わっていないようです。初めて日本に来た時、五十五歳位の日本の先生と一緒にデパートに行って、みんなが熱心に買物するのを見ました。先生は、戦争末期とその後の五年間、一日に米の飯は一回ぐらいしか食べなかったと言いました。日本は、あまりに早く変わったので、昔のことも最近のことも、その歴史をよく分かったほうがいいと思います。

ひよっこの拠点は公民館ですから、専用の運動場がありません。そのかわり、町中がひよっこの遊び場です。いつもの山道・田んぼ道はもちろんのこと、夏になれば市営プールと隣接する公園がそうです。

散歩や探索で、いつも「お山の大将」でいるひよっこ達も市営プールに行くと、いろんな人との出会いはあります。時には近くの幼稚園・保育園の子ども達と一緒にありますが、少人数のひよっこはその数の多さに圧倒されます。ほかのグループの様子を隅っこの方に寄ってよく見ていると、きちんと子どもを整列させ、一列ずつ次々とバタ足で泳がせてサッサと帰ってしまうところがあれば、子どもと先生が水の中で楽しそうに遊んでいるところもあつたり、幼児用プールで子ども達だけ遊ばせ、先生達はきれいな水着を着てまわりに立って見ているところもあり、さまざまです。

ある時、聾学校の子とも達と一緒にしました。丁寧な準備体操のあとで、小学生らしき子ども達も泳ぎ始めました。その中の一人が八方破れに手足をバタバタさせて必死に泳いでいたのです。バチャバチャと音をたて、水しぶきを跳ねあ

ひよっこクラブの探検家



町中がひよっこの遊び場

佐多和子

げて、沈みそうでいながら、それでもどうにか前に進むのです。邪魔をしないようによけていたひよっこ達にも、その勢いが肌に伝わってくるらしく、じっとみんなで見守っていました。そのあとは、ちよつとばかりひよっこの様子が違ってきました。それまで水の中に入っただけで「キャーッ、キャーッ」と騒いでいたのが少し静かになり、「とにかくやってみようか」という調子で浮輪を使って深いプールに入るようになったのです。その影響は、大きい子ほど強かったらしく、年長児の美智ちゃんはそのままでの長いためらいを捨てて、あの力泳を真似し始めました。

出会いは保育者にもありました。聾学校の先生の準備体操があまりに上手なので、見とれながらもその方法を一生懸命覚えしました。浅い幼児用プールの中に正座して、両手をついて「こんにちわ」と頭を下げれば顔を水につける練習になるなんて、思いもよらないことだったし、子ども達も大喜びでやりましたのです。そんなこんなで、何も知らないおばちゃん達も、「遊び場」で巡り合える人々に助けられて、どうにか保育を続けていられます。

(カット・加藤友子)

何を迷っているのか

連れていかれるぞ

価値の多様さが、現代人の精神を危うくさせている。

「いいんじゃない、別になんだって」と、認めあうヤサシサのなかに私たちはいて、向かうべきところ、対立すべきもの、依るべき規範を失い、へたばりかけている。ヒトは確信なしには生きられないが、このヤサシイ認めあいのなかで、各人の確信はゆらぎ、

「なんだかわからないが、とにかくこうして生きているのだから、幸せにならねば」

と、私生活主義へと埋没していく。懸命に私生活を色どり、確かめようとしている姿は痛ましい。そこでもまた、ヒトヒトはゆらいでいるのだ。だが、価値観が多様になることは決して悪いことではない。それは、

人々がより自由に生きられるということなのだ。無数のひとりひとりが生き、感じ、得てきた考えは、守られねばならない。どのような善なる思想も、「一元化」を目指してはならない。そこには必ず新しい排除が生まれるから。

このように「ねばならない」と力説するのは、私が、民主主義の時代に生まれたことを喜んでいるからだ。が、それを維持していくのは容易ではない。民主主義は、もともと人々の自由を保障する体制でありながら、もつともしんどい作業の上に成り立つ。それは、議論の果てしない連続を必要条件とする。

目を覚まし続けているのはしんどいことだ。疲れ、いたわりあい、眠りたがり、「こうなつたらもう、どこかへ連れていかれたい」

と、強者の出現を待ちうけ始める

ことだろう。けれども、多様化のなかで、ひとりひとりの確信を、そつと育てていくよりなのだ。「ドートク教育」なんか洗脳されてたまるか。私は自由を恨まない。唾をひつかけられたのも、喉を締めあげられたのも、あれは自由の仕業しわざじゃない。

あれは、「良識人」の間をひそかに流れる嫉妬とファッショ。いつも叩きのめしにやってくるのは、「全主体」の使いだ。自由はわたしに優しい。

寂しくなつて干からびたのも、疲れ果てて、ひたすら眠りばかりを夢見たのも、なにがなんだかわからなくなつたのも、こつびどく底に突き落とされたのも——それは私が生きているから。自由が思いつきり私を愛してくれるから。

私は、いかなる集団にも属したくないと思っている私を、排除しないでくれる多様性と、それを支える民主主義とを生き永らえさせたい。

井田朋子(大学生)

はなにつま

ねむ

おくのほそ道

藤尾知子

此寺の方丈に坐して簾を捲すたれば、風景一眼の中に尽て、南に鳥海天をささえ。其影うつりて江にあり。西はむやむやの関路をかぎり、東に堤を築て、秋田にかよう道遙に、海北にかまえて、浪打入る所を汐しほとしと云。江の縦横一里ばかり、傍松嶋にかよひて、又異なり。松嶋は笑ふが如く、象潟きさぎはうらむがごとし、寂しさに悲しみをくはえて、地勢魂をなやますに似たり。

象潟や雨に西施がねぶの花

これは松尾芭蕉が元禄二年（一六八九）三月（陽暦五月）江戸をたち白河の関をこえ、松嶋、平泉をまわり象潟での話で、これから日本海ぞいに南下し、八月に大垣に至るまでの旅行記である。雨の中象潟入りした芭蕉と弟子の曾良は、雨後のすがすがしい朝、高台にある千満珠寺の方丈に坐って四方を見わたす、そこには雨のしづくを含んで咲くねむの花があった。故郷を離れ、まるで品物のように呉王に献上された薄幸の美女西施が、うらみ、寂しき、悲しみすべてを胸におしこめて横たわる、その静かに閉じられたまつげに宿る涙へと連想がいったのだろう。芭蕉



は馬鹿がつくほどにまじめで一本気な人が好きだ。木曾義仲、源義経、増尾兼房、ずるく上手に立ちまわれず不幸な最期をとげた人々を愛し、心から同情した。西施もそんな一人だったと思う。

「月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人也」で始まる『おくのほそ道』は旅行ガイドブックの趣である。元禄十五年に出版されたこの豪華な筆者の古今東西の文学作品をふんだんに引用した本を受けとった人々が、一部特権階級の人達だけでなかったことに驚きを感じる。『源氏物語』は貴族達のためだけに書かれ、読まれたのだが、『羅生門』の世界も都に共存していた。

平安文化とは貴族達のためだけの文化であった。それにひきかえ読本、浮世絵、歌舞伎は庶民の中から生まれてきたものであり、農村歌舞伎などを見ていると、農民の生活もただ重税にあえいだ、苦しいばかりのものではなかったように思う。江戸時代の歴史は維新以後の明治政府によって書かれたものだ。今、江戸という時代を見なおしてみる時にきているのかもしれない。

（カット・宮永由美子）



♪ みんなは私が、
いつスローダウン
するかってき
くけど、私は答
えるの、今、ス
タートしたばかり
よ。

よそおい 文と絵 内山裕子

ついに来ましたね、ミック・ジャガー。前回といつても15年前、突然公演中止になって、長い長い間待ちました。40過ぎてモロツカーしてる、きつと死ぬまでモロツカーしてる。ローリング・ストーンズ、苔生す暇なくころがっていくミック、ウン、最高です。ところで東京ドームのコンサートで、なんとティナ・ターナーが飛び入り参加。彼女がまたすてきなんだ。確かもう50に近いティナは、パワフルで美しい。そしてティナやミックの笑い顔、シワがとつても良いのです。女性が年齢を気にしたり、シワを気にしたり、でも彼女を見ていると圧倒的な存在感に、彼女はシワを越えている！ さて私話？ が多くなりました。今回のテーマは「いま時代はワッシャーだ」。ここ数年ワッシャー加工の素材が大人気です。ワッシャーはいわゆるシワ加工の事。えっシワをわざわざ加工するんですか？ そう思われる方もいるでしょう。だって

ちよつと前は、シワは邪魔もの、いかにシワをつけずに服を着るかが問題でしたから。特に夏場の麻、泣き所でした。ところが素材にワッシャー加工して、そのシワ感覚を楽しむ服が増えていきます。ここまで読んで「楊柳」を思い出す方、あなたはできる！ 楊柳は昔から愛用されて、懐しい夏のシャツやステテコには欠かせませんでした。インナーからアウターへの変化、みんなが大好きなTシャツも、昔は下着でした。それは着る私達が着ていて楽なもの、着ていて自然なもので、それを取りいれ楽しみ始めたのです。だって自然であるという事はとても気持ちの良いもの。きどらずさりげなく、さあシワを楽しみましょう。夏に白のワッシャーのブラウスはいかが？ 風と光と陰をいっぱい含んでお気に入りの一枚になりますよ。私にこんな話をして下さった方「自分の顔を見て、シワや白髪が増えてるけど、あつ、このシワはこんな苦労をした時、この白髪はあの大変な時増えたんだ。そう思っ鏡を見ると、そのシワや白髪がいと美しい」。人は変ります。人は年をとります。よくいわれる、女から見たいい男、男から見たいい女、その価値観だつてどんどん変わっていきます。でも他から見た私ではなく、ありのままの私がいとおしく、すてきな時代になってきました。ティナがコンサートの中で歌います。「みんなは私が、いつスローダウンするかってきくけど、私は答えるの、今、スタートしたばかりよ」



家庭科にコンピュータを入れる前に……………半田たつ子

「コンピュータが人間らしさを消す?」のタイトルで開いた昨年春のゼミには、豊かな問題提起があった。「コンピュータは、生命のリズムとはかけ離れすぎたもの。なくてもよいという点で原発と同じ」から、「ここに至って拒否のすべはない。時代の道具との間に、必要な距離勘を人間として培う議論を!」まで。「家庭科とコンピュータは、あい入れない」の意見の一方、「コンピュータ社会に問題点があればこそ、家庭科できっちり教えてほしい」も。

さらに、工業高校でコンピュータを教えている方の「生徒は、今おもしろがっているが、やがてコンピュータの得手・不得手が、新たな偏差値を生むかもしれない」も、私の宿題になっていた。

マイコンが、各種の家庭電気製品にも利用され、私たちが日々その便益に浴している以上、毛嫌いしても仕方がない。コンピュータを家庭科に導入するなら、生活のコンピュータ化によって不幸にならないような教育を考えたい。ブラックボックスのコンピュータによって、人間性を歪められるのは嫌だ。コンピュータ社会の光と影を見据えて、コンピュータを使いこなすが、それに使われない人間でありたい。

素人にも確実にわかるコンピュータの効用は、膨大な資料の探索だ。沢地久枝氏は二・二六事件の埋もれていた資料と出会い『雪は汚れていた』を書かれた。「NHK特集」で、アシスタントの女性がコンピュータを活用しているシーンを、納得して見た。

ところが『田中角栄研究』の立花隆氏は、『「知」のソフトウェア』（講談社現代新書）で、自分の頭の中の手持ち情報を、コンピュータに入れてデータベースを作るなどバカげていると言う。すでに読んで、価値判断を下し、内容のある程度記憶し、蔵書として保管している本は一万冊以上あるけれど、これらは物理的に分類して本棚に詰め込んでいるだけだ。もし、すでに頭に入っているこの情報をコンピュータに入れて、便利な索引を自分で作るとしたら、おそらく毎日二時間かけても軽く一年はかかるだろう。それを利用する時に、索引なしの時間と比べて、インプットに費した時間を節約できるかというと、それはまったく疑問だ。だいたい新聞スクラップというものは、自分で作った人はいないで知っているだろうが、そうしたたび利用するものではないから、と。（ここで、身に覚えがある私は吹き出してしまった）

ただし、もし蔵書にそれをしたなら、誰でも利用でき、他の人にとって便利になることは間違いない。だから図書館は徹底して便利なコンピュータ索引を整えるべきだろう。コンピュータが本格的威力を発揮するのは、人間の脳では処理不可能な大量の情報に対してだから、と。

私は思う。「大量の情報」も、「つめ込んだだけの知識」なら、生きていく上での力にならない。それをどんな目的のために、どんなふうに役立てるのか。コンピュータが蓄え、探し出した情報を、

「できる」ことに結びつけ、様々な場に活用してはじめて、情報は光を放つ。

「知るは喜びなりと申しまして、知識をたくさん持つことは、人生を豊かにいたします」で始まるクイズ番組があった。私はこの番組がきらいだった。知ったからって、どうってことない断片的な知識の羅列に「知るは喜びなり」など言ってほしくないから。

ある時ふと見たテレビに、コンピュータソフトを作っている女だけのオフィスが紹介されていた。そこでの家族向けソフト第一弾が「お掃除プログラム」だという。家中の掃除場所を列記し、掃除時間と掃除間隔を決定。これに自分の掃除のための持ち時間をクロスさせる。で上がったプログラムに昨日の掃除場所を入力すると本日掃除すべき一覧が出て、それも緊急を要する順に指示される。絶対に、必ず、できれば、時間があれば、の四段階で教えてくれるそうだ。もう、いい加減にして！

「奥さま、ご安心遊ばせ」のソフトは、家庭内の在庫管理のプログラム。トイレット・ペーパー、お砂糖など、日用品19、食料品21の項目をあげ、家中の在庫を見て回って入力、週一度プログラムをオープンして、買物をグラフで表示してもらおうそうな。調べた時のメモで買物は十二分できるのに……。このようにして「お料理しましよ」や「タンス整理プログラム」を作ったような。家庭科へのコンピュータ導入は、こんなことにうつを抜かさないでほしい。

立花隆氏は、無意識の記憶能力の持つポテンシャルな力は、想像するよりはるかに大きいという。記憶能力のみならず思惟能力もまた、その本体は無意識下にあり、人間の知的能力を増すには、無意識の能力を涵養するのがよいと。ある材料が無意識層から意識の上

にのぼってくるプロセスは、立花氏の場合、たいていギリギリ必要な時間に、ほんとに瞬間的に出てくる。ほんの一秒前には、想いもよらなかったものが、文章を書いているまさに瞬間、言葉になって浮かび上がってくる。と。ーコンピュータに無意識層はないー

別の本で次のことを知った。パソコンが教育現場に導入されても、それを操作できる教師は、小・中・高平均して二〇％。今年度から五か年計画で情報処理の教員養成が始まるが、対象人員は一万六千人。全国一万人の中学だけに先生を回しても、一校当たり一人強。

CAIに力を注いでいる大手ソフトハウスの首脳は「確かに将来性という点では大きな市場になるが、これが四、五年先に開花するかといえば、大いに疑問。仮に、全校で数十のパソコンが導入されたとしても、電気容量の問題やコンセントの数がやら足りないという、教育以前の問題がある。本当の意味で教育現場が開花するのは十年以上先だと思う。今のところビジョン先行の状態で、単純に乗ったら痛い目に会う。だから私どもは、学校より企業向けに力を入れている。そうしなければ食っていけないから……」と言う（川端直久『コンピュータ業界5年後の崩壊地図』エル出版社）。

立花隆氏は、先に紹介した本の内容を一言で要約すれば「自分での方法論を早く発見しなさい」ということだと結んでいる。

「家庭」のありようは、その数だけ方法論がある。それが、コンピュータという無個性の機械に牛耳られるのはごめんだ。

コンピュータが教育現場で開花する前に、私たちはコンピュータ素人であることを遠慮せず、専門の穴に入り込んだ人たちに、疑問をぶつけ、要望し、できれば研究グループに入れてもらい、知恵を出し合うことが必要なのではないか。

～ 今月の読書から ～



西内みなみ

『コンピュータと教育』

佐伯胖著

◆「わかること」の意味を問い続けている著者は、コンピュータがシンボル使用という人間の本質に根ざす機械であることから説き起こし、「わかること」を育てる道具としてのコンピュータの可能性について述べている。

「コンピュータ技術は〈教育を変える〉ことではない、否、あつてはならない」という立場から、著者は「機械」としてのコンピュータとの強烈的緊張関係を取りながら、「コンピュータと教育」の問題を根本的に問い直している。

(岩波新書 四八〇円)

『コンピュータと子どもの未来』

佐伯胖・坂村健・赤木昭夫共著

◆前述した佐伯氏と、TRONの提唱者坂村氏、NHK解説委員(科学技術担当)の赤木氏の対談集。「現代のコンピュータ社会の中では、単純労働にちよつとプラス・アルファという感じのコンピュータ技術者が大量に必要になっている」。それに応えるために「情報技術者の養成」とか「情報処理教育」という「ひじょうにカッコいい響き」の名のもとでコンピュータ教育が、学校教育に定着してしまうのは、「恐ろしいこと」である、という佐伯氏の主張に大きく頷く。最後に佐伯氏がコンピュータが教育に取り入れられた場合の可能性と問題点について述べていることは、非常に重要な点が多く、一読していただきたい。

(岩波ブックスレット 二五〇円)

『言語生活7 特集 教育とメディア』

◆三宅なほみ・杉本卓両氏が「コンピュータ通信と、ことばの使い方を学ぶということ」という小論の中で、パソコン通信について、次のように説明している。「パソコン通信は、基本的にはターミナルとなるコンピュータ同

士を電話回線を利用してつなぎ、互いにデータを送信するものである」。これに続いて具体的な使用方法や実践例についての報告がされている。

(筑摩書房 四八〇円)

『教室にマイコンをもちこむ前に』

三宅なほみ著

◆「教育におけるコンピュータの役割は、コンピュータの使用によっていかに効率よく教育するかということではなく、コンピュータがどのような新しい「教え方」や「学び方」を生み出すのかということだ」として、その可能性について、研究者や実践者の意見交換をまとめている。著者は「教師が教室にコンピュータを持ち込む場合、教師の側に、“これがしたい、これをするにはどうしてもコンピュータがいる”という強烈的な主体性がなければ、コンピュータは教室で活かない」と述べ、またその課題が、生徒にとっても主体的に取り組めるものかどうかが鍵だとしている。

(新曜社 一五〇〇円)

他に『対談 教育とコンピュータ 新しい学びの創造をめざして』三宅なほみ編

(新曜社 一六〇〇円)

『TRONからの発想』

坂村 健著

◆TRON（トロン）は、教育用パソコンの仕様として、将来、全国の小・中学校に採用されることが決まっている（一月五日付朝日）。提唱者である著者によれば、TRON（The Realtime Operating system Nucleus）とは、「個人が使うことを強く意識してコンピュータ体系全般の設計を見直そう」という、その新しいコンピュータ体系である。

本書では今のコンピュータ体系が持つ問題点を指摘した上で、TRONプロジェクトの方向性について述べている。とてもわかりやすく書かれているのだが、TRONについては理念としてはわかっていても具体的なイメージがつかめない。しかしこの先、様々な提案がされるであろうから、それに注目するための入門書ではある。（岩波書店 一五〇〇円）

『コンピュータ時代と子どもの発達』

手しごと・工作教育と子どもの発達
を考える会編

◆手工教育一〇〇年を記念して行われたシンポジウム記録。工業デザイナー・秋岡芳夫氏と芸術家の佐藤忠良氏が、それぞれの立場か

ら、道具としてのコンピュータの未熟さを指摘したのに対して、それを引き取るかたちで佐伯胖氏がコンピュータの持つ危険性とともに、人間がつかいこなすすじみちについて語っている。また、堀尾輝久氏がその両方をうけて、「教育の商品化の問題」とコンピュータの問題が重なるという指摘、子どもの発達における「手しごと」の重要性、佐伯氏のよるなコンピュータ・サイエンティストの視点でコンピュータ教育の問題をとらえ直していく必要性についてまとめている。

（大月書店 一六〇〇円）

『岩波講座 教育の方法一〇』

教育と機械

◆教育の視点から高度技術社会とはなにかを問い、コンピュータの機械としての原理に始まって、コンピュータによる教育の可能性を模索している。最後に、機械を越える人間の育成と、「人間のスルことのための真の道具となる機械の開発」を謳っている。

（岩波書店 二二〇〇円）

『岩波講座 教育の方法別巻』

教育の発見 一六の記録

◆小学校の教員である戸塚滝登氏が、自分の教室で「落ちこぼれの子を出さないために」と取り組んだ、パソコンを使った授業の実践記録「星空とコンピュータ」が掲載されている。著者の開発したCAIは数か月で役立たなくなり、LOGO（ロゴ）という子どもたちのためのコンピュータ言語を授業に応用している。

（岩波書店 二二〇〇円）

また、LOGOの紹介書として、『マインド・ストーム 子供、コンピュータ、そして強力なアイデア』S・P・パート著 奥村貴世子訳（未来社 二八〇〇円）がある。

『コンピュータの話』

新しい読み書きソロバン

有澤 誠著

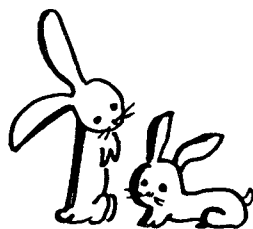
◆若い人向きに書かれたコンピュータの入門書。（岩波ジュニア新書 五八〇円）

『ワープロ徹底入門』 木村 泉著

◆ワープロについて懇切丁寧な解説と使用のコツにも言及。現在すでに使用している人でも、なるほどと思う箇所が満載。

（岩波新書 四八〇円）

Weに なんでも言おう なんでも聞こう



◆内申書というものに迫りたいという思いで全国の内申書(個人調査書)掲載文書を取り寄せることから始めましたが、これが想像以上にスリリングで、おもしろい作業でした。

あちらがヒミツにしていることを、なんとかのぞいてやろうという攻防戦は、こちらの元氣のためにもっとやる必要性がありますね。いずれこのあたりも書いてみたいと思います。

ただ高校入試のしくみは、想像以上に強固かつ緻密で驚かされました。高校入学者選抜の名のもとに、全国の15歳がいつせいに、学力・体力・知能・身体状況・性格・行動・趣味・家族状況・特記事項(賞罰や前科のニュアンスが強い)が調べあげられるわけです。調べる側にどれだけの意図があるかわかりま

せんが、このデータは、すぐに有事に役立つでしょう。個人調査書(内申書)の隠れた恐ろしさを垣間見たように思います。

この作業を通じて、実は私自身、ストンとおなかに落ちたことがあります。それは教育の中に深く練りこまれた天皇制についてです。これまで天皇制というのが、年代的に少し遅れた世代ということもあって、どうにもピンとこなかったのです。本を読んでも、人の話を聞いても、どこかひとつ、皮膚一枚へ当たっているような感じでいましたが、それが今回、アツという感じで自分の中に入ってきました。

これでひとつ思いついたことがあります。通信簿です。内申書と文書としての性格は違いますが、そこに盛り込まれているイデオロギーは同じはずです。これを放っておく手はない……というわけで、通信簿とものもらい手の追跡調査をやってみることにしました。

現在、昭和初期に生まれ、10年代の尋常小学校の通信簿を持つ男性にインタビューしています。これがワクワクするほどおもしろい。こうしてさまざまな世代に、子どもの時にももらった通信簿を前にして、学校のできごとや、習ったことや、先生や友達について

の思い出、その頃何を考えていたか。そして今どう感じているか、などを聞いていくと、いずれ「通信簿を通して国家(天皇制)が見える」のではないかと期待しています。

(東京・竹見智恵子)

◆「よそおい」気に入っています。五月号のイラスト、あれは何でしょう? 何を包んでいるのですか? 「バフバフコート、私は似合うかなあ、ダメかなあ」なんて考えています。シーツを巻いて着てみるのもいいですね。去年、授業でやった「一枚の布を着る」というのを思い出しました。

「学習の主人公たち」もよかったです。考えさせられました。私が高校生だった頃は、もう少しはましだったんじゃないかなあと思いました。なんだか暗いですね。なんとかしなくちゃいけない、と改めてそう思いました。

(大阪・浅井由利子)

◆『草の指環』の次号は「教育について」。難しくて大変なテーマですが一番大切なことなので取り組むことにしました。メンバーの一人の息子さんは韭山高校理科科に入るよう指導されたのを断って、普通科に通っています。でも学校がつまらないそう。親子で悩んでいらっしやいます。(静岡・H・K)

読者会だより

関西で開く'88年We夏季フォーラムは、着々と準備が整っていきます(巻末とじこみチラシ参照)。子ども活動チームから、左のような楽しい報告が届けました。兵庫・大阪・京都三府県からなる実行委員会の弾むような雰囲気をお伝えしたくて。

(編集部)

◆四月二十九日、We夏季フォーラムの子ども活動チーム(岩瀬さん・奥田さん・金森さん親子・僕チャーリー吉田)の五人でフォーラムの会場となる、能勢のルーテル研修センターに下見に行ってきました。この日はあいにくの雨だったのですが、輝くばかりのホワイト岩瀬号に乗りこみまして、夏に向かってワクワクドキドキ、楽しい一日でありました。

能勢の春はいい春です。山ツツジは咲いているし、新芽は美しい。ほこりが雨に洗い流されて目にしみるような緑です。管理人のおじさんに案内してもらって、自然を楽しみながら部屋の様子を見ます。

きじにつぐみ、ひよどり、かつこう、なかなかネーミングもすてきだし、戸をあけてのぞいてみればこれがまたグー。金森さんところの弓束ちゃんは、畳20帖ぐらいいはありそうな

「ひよどり」が気に入ってしまつて、ゴロ寝がしたいと、早くも夏にむけてワクワクしていました。僕は自分が住むなら二階建ての「やまばと」がいいと言ったのですが、住むわけではないので「ひよどり」にしておきます。「やまばと」は散弾銃で撃たれても死なないようなたくましさが好きでありまして、東京のごじらさんも気に入ってくれることでしょう。

「ひよどり」のすぐそばが広場なので、二日目の夜はそこで「お祭り」をしようと思つています。パーベキューとキャンプファイヤーのプランは中止にして、子どもたちが企画した屋台で食事をしながら、歌をうたったり、話をしたり、星を見たり、セレモニーというのではなくてのんびり気ままに、そんな時間ができるばと考えています。そうめん流し(も

ちろんセットも子どもたちが作ります)、やきそば(キャベツはもちろん西本先生調達無農薬)、おむすび、野菜フルーツパイキング、がらくたシヨップに輪なげ、アイスクリン、昔なつかしい緑日の気分を満喫しましょう。

企画から準備まですべて子ども連中やります。大人で出店したい人も大歓迎。手作業をしながら、分科会をやつて、何か出店するのでもいいでしょう。「フォーラム夏祭り」なかなか楽しくなりそうです。

研修センターを後にして、午後からは能勢の近くに住むオリバーさんちへ。山の山、また山、すばらしい自然の中にすてきなおすまい。犬は自由にやつてるし、ヤギに馬にわとり、猫、あひる。にわとりが景気よく鳴いておりました。

オリバーさんは、ものを大事にされていて、百年以上もたった家具を愛用されているとかで、もののいのちはいつまでも。うれしくもうらやましくもなつてしまします。おいしい紅茶をごちそうになつてお別れました。それから妙見山に足をのびして楽しくおしゃべりして、解散となりました。

(宝塚・チャーリー・吉田)

◆四月号の「なぜ行くのか学校へ」の中の東京シユレの子供座談会は、大変興味深く読みました。私自身小学校教師を辞めて、この四月から、府中市にできたばかりのフリースクールで働き始めたからです。

新聞で見つけたこのフリースクールは、「地球の子どもの家」といい、東京シユレと同様、登校拒否の子どもたちが十人ほど通ってきています。現在、一〇〜一八歳の子どもたちが来ていますが、彼らが自分の望んだ生き方ができるよう、先生役の十人のアシスタントが手助けしています。

画家の高橋さんという男性は、絵や物づくり、有機農法の野菜や地粉を使つての「料理」を担当しています。元教師で児童文学を書いている山崎さんは、お話・絵本作りによる「日本語」を教えています。探険部出身の石毛さんは、近くの野川公園での野外活動や、川下り。英語は耳からと、マレーシア人の女性が直接、英会話を教えています。

一軒家を借りていて、広間でダンスや劇もやり、庭では焼き物もやる予定です。

子どもたちが通ってくる時間・曜日は自由です。プログラムも、個人に応じたものを編成する予定です。

「地球の子どもの家」は、親たちも随分積極的ににかかわっていて、子どもに編み物や料理を教える人もでてきました。

学校を外から見て、その狭隘さに驚く今日この頃ですが、ここでは子どもたちが学ぶことの喜びを再発見できるよう、小さくても伸び伸びとしたフリースクールにしていきたいと思っています。

「地球の子どもの家」

府中市多磨町2-51-7

電話 0423-62-8048

(西武多摩川線 多磨墓地前駅下車)

(東京・中込さち子)

◆いよいよ引越しです。いろいろな思い、考え、事情が重なって、新しくスタートです。

長野県の臼田町を中心に30代の人が十人ほどで、十数年、無農薬、有機農業に取りくんでいる人たちがいます。できた野菜などをパックにして送るのではなく、消費者と顔の見

える関係を築きながらやっていきたいという姿勢を持つ方々です。とりあえず今年一年はその方々に教えていただくということになりそうです。農業については、頭でっかちで、まったく経験がないので、不安も大きいのですが、がんばりたいと思います。

でも、やっぱり私は、子どもといっしょの場がほしいと思っています。さっそく学童クラブに来てくれなかなどという話もあり、とてもうれしいのです。それをするかどうかまだきまりではなく、また一つに固定することなく、柔軟にやっていきたいと思っています。学校で産休補助などもできたらいいな、と思っています。

春のゼミナールと、その後の座談会に出していただいて、その後数日、少し気分が沈んでしまいました。実際どこまでできるかは、はなはだ疑問ですが、みなさんの話を聞いたり、自分で考える中で、教職という中で、まだまできたこと、やり残したことが見えてきたからです。特に父母とのほんとのつながりという点です。本音を言いあえる関係とい

うか、「労働者としての連帯」というあたり。このやり残し、大きいのです。忘れず、これからも、追っていきたいのです。

(長野・仁ノ平尚子)

◆4月号のWeの読者会だよりの「We日本女子大の会」の記事の中に、私の名前が出ていたので、びっくりして、私も思い切っておたよりを書くことにしました。

私は、Weの創刊号から愛読している者の一人です。積極的に働きかけることなく年月がすぎてしまいましたが、山本さんのおかげで、読者の皆様に紹介していただいたと思って、私もこれからできる範囲で、自分を表したいと思いついたわけです。

前置きが長くなりましたが、私は現在、横浜のフェリス女学院中学・高等学校で、家庭科の教師をしており、去年一年間は、私学研修福祉会の内地留学研修員として、お茶の水女子大学女性文化研究センターで「新しい家庭科教育をめざして」をテーマに研修しながら、母校の日本女子大学の「家庭科教育法」の講座に参加して、あこがれの半田先生の熱意のこもった授業を受けることができました。最終日、そのままお別れするのが惜しくて、昼食を一緒にさせていただくことにな

り、そこで聞かれていたのが、We日本女子大の会だったのです。記事を読んで、あの時の楽しい語らいが思い出されて、なつかしいです。

どうぞ、山本さん、西内さん、大沢さん、金川さん、これからも読者会がんばって下さい。かくれメンバーとして、応援して下さる。また、時々、Weの誌上で報告してくれる

のを楽しみにしております。最後にりましたが、暖かく包みこむようにご指導くださった半田先生、自信あふれるベテランの味のある授業を参観させていただいた福島澄香先生、本当にありがとうございます。Weを仲だちに、人の出会いのすばらしさを、しみじみと感じているこのごろです。(東京・西谷洋子)

編集室からあなたに

◆'88夏季フォーラムは関西で！

別紙ご案内のように、8月6・7・8日、大阪の能勢で夏季フォーラムを開催します。この企画が成立するまで兵庫・大阪・京都の二府一県からなる実行委員の方たちは、実に誠実に討論を重ねてこられました。豊かな、魅力的なプログラムをご覧ください。素朴な自然のふところの中で、大人も子どもも素敵な出会いを持つことでしょう。お友達を誘って、またはご家族で、どうぞ早めにお申し込み下さい。

◆羽生楨子さんの詩集、お読みになりましたか？

前号にチラシをはさみました。あたたかい優しいうるおいにあふれた羽生楨子の世界は、ギスギスしたせっかないまの世を、生き難くかこっているすべての人に、こよいのプレゼント、どうぞウイ書房にお申し込み下さい。定価1000円、送料250円を添えて、切手でも結構です。

◆原稿募集

10月号 食と環境といのち

11月号 いのちを医療に任せていいのか

12月号 マスコミと文化の変容

1月号 くらしの論理を創る

2・3月号 上すべりの「国際化」

以上が、7年目のWe後半期のテーマです。

あなたは、どのテーマにか、言いたいことを抱えていらっしゃると思います。

べ切りは、10月号なら7月末、11月号なら8月末……とお考えの上、どしどしお送り下さい。なお、テーマにかかわる論文や実践報告、記事への反響など、いつもWeは大きく門を開いて、あなたのご投稿を待っています。

◆Weの読者会を開きませんか

4・5・6月と「学校」をテーマにし、夏増刊号は「教育はどこへ」[7, 8・9月号は、コンピューターと学校・くらし。一つの流れを持つ以上の号を手を、地域でお仲間と話し合ってみませんか？ それを読者会なのです。

泉

この頁は、あなたと私の情報交換の場。小さなスペースですが、ご利用ください

◆冊子『なぜ、社会科をなくすの?』

―教育課程審議会答申への疑問―

女性による民間教育審議会は、小学校低学年の「生活科」や、高校社会科の「現代社会」を必修からはずすという教育課程審議会の答申に対して、二月、

「なぜ、社会科をなくすの?」のテーマで公開審議会を開きましたが、この冊子は「もともと、もっと多くの親や先生に、あるいは日本の子どもを真剣に考えている人たちに、私たちの報告や討議を聞いていただきたい」という願いから発行されました。審議会の記録と、巻末に、教育課程審議会答申「教育課程の基準の改善について」の全文を載せ、教課審答申のねらいの解明を試みています。

○内容

女性民教審の新しい出発 俵 萌子
教課審のねらうもの 暉峻淑子

許せない「社会科解体」の強行

―現場から― 樋浦敬子

「家庭科男子必修」の正体 半田たつ子

討論の報告 駒野陽子

審議会資料

○B5判 88頁。頒価 四〇〇円(送料一部)

―二〇〇円 二―三部―二五〇円 四―六

部三〇〇円 七―九部―三五〇円 十部以

上は送料を事務局が負担します)

○申し込み・問い合わせ先 ウイ書房

◆北海道家教連研究集会

「家族・家庭の未来像を求めて」―今こそ

男女共学の家庭科を―

「男女共学の家庭科の実施が教課審の答申で決定しましたが、現在のところ、北海道で男女共学で家庭科を履修している中・高は20数校に過ぎません。私たちは小学校の低学年から高校まで一貫した家庭科教育をすすめる為に、研究、実践を交流しあい討議を深め、共学の早期実現に向けて内容を検討します」(チラシより要約)

○期日 七月三十一日(日)～八月二日(火)

場所 北海道婦人文化会館
記念講演 家族・家庭の未来像を求めて

安孫子 麟

実践講座 子どもの発達保障と家族・家庭

内沢千恵

入門講座 家庭科で何をどう教えるか

溝淵千代子

○会費 参加費 四千元

宿泊費、一泊二千元(食費別)

○申し込みは六月三十日までに左記へ

札幌市東区北九条東二丁目 渡辺真理子

〒(011) 742-4674

帯広市大通り南一丁目十六 吉沢 澄子

〒(0155) 24-2398

◆反ミスコンテストのTシャツ

「ミスコンテストや、東南アジアからの安易な農村花嫁捜し等、女性の商品化で地域興しをすることに疑問をなげかける人を増やすため、Tシャツ(半袖)を作りました。何枚か預かって販売していただければ幸いです」(チラシより要約)

○一枚 千円(送料実費)。色―白、グレー、

黄、ピンク

○申し込みは、左記へハガキで

〒614 京都府八幡市八幡土井一〇二―五

安藤 尚美

「教育を考える杉並の会」

〈村田 直文〉

87年12月から定例化、毎月第2・第4金曜の午前10時から午後1時ごろまで、JR中央線阿佐谷駅から徒歩3分の三井マリ子事務所が集まっています。個別の教育相談にみえる方もあり、杉並区外から参加している人もいます。

発足以来の中心テーマは、主として中学校の生徒管理規則の批判的検討。その成果を子どもたちに直接よびかけて、いっしょに立ちあがっていくようにできたらいいな、と話しています。

学校で「基本的生活習慣」としてさも当然のようにおこなわれていることにも、マスコミでとりあげられるほどの事例にたやすくつながるような問題が根づいています。いじめ問題対策として「思いやり」ばかりが強調されているようですが、人権尊重という視点、個人の尊厳という価値観はどうなっているのでしょうか。私たちは、こうした問題の話しあいの中から、私たち自身の間観・正義観・幸福観などを問い直し、確かめあっていききたいと考えています。

バラバラにくすぶっている火種を大切にしたい、いっしょに燃える時を得たい——というのが私たちの思いです。

お問い合わせは、三井マリ子と新しい政治を創る会（〒166 東京都杉並区阿佐谷南2-19-11-101 ☎03-318-5860）または坂入絵美子（☎03-336-5594）へどうぞ。

We networking

♪イキイキぐるうぷ♪自己紹介♪

We networking

「家庭科の男女共修をすすめる会」

〈芦谷 薫〉

一九七四年に、「女子のみ必修の家庭科は、男は仕事女は家庭という性別役割分担の考えを学校で再生産すること、また男子の教育を等しく受ける権利を阻むもの」と考える人々が発足させた市民運動団体です。

年四回の会報は、会の多方面への働きかけや、多くの情報コンパクトに満載した貴重な資料として、各地の会員の活動や現場の教員に役立てられています。『家庭科を男女共修に、の一点で一致して運動を』をモットーに、ねばり強く運動を進めて十四年。文部省の「家庭科教育に関する検討会議」には会の世話人がレクチャーに出向き、もはや無視できない存在です。最近、文部省の役人も今までさんざん会が言ってきた「男女とも生活的自立を」と言うようになりました。

さて、今年の秋から新指導要領が発表されますが、会ではこれからは地方自治体への働きかけも運動のポイントにしていこうとしています。指導要領が出されると、共修を実現するための教員増・施設設備の充実・研修などの予算措置を含めた施策が、地方自治体レベルに移るからです。各地でせえのおで行動しましょう。まやかしの共修家庭科にならないように。そのために、会報や会のパンフレットをどうぞ御利用下さいませ。連絡先・〒151東京都渋谷区代々木2-21-11 婦選会館内 「家庭科の男女共修をすすめる会」事務局へ

十字路

〈新潟〉高齢者対策を真剣に！(新潟日報 4/13)

「新潟市の高齢者問題について」をテーマに、市民グループ「21世紀のシルバープラン」を創る会」が、四月十二日、中央公民館で、女性市議会議員三人と語る会を開いた。女性議員から見た高齢者対策の実感を聴き、超党派で

会の活動に協力を願って開いたもの。会では老人問題よろず相談も受けている。60歳・

223・4680

(山口久子)

〈千葉〉「男は仕事、女は家庭」女子は反発 男子は同感(朝日4/13)

婦人週間が四十周年を迎えたのを記念して、労働省千葉婦人少年室が、中、高校生(約二千三百人)にアンケート調査を実施した。

「自分の周囲で、男女の地位は平等になっているか」では、中、高校生とも「平等になっていない」が「なっている」を上回り、「なっていない」と感じる割合は、男子より女子が高く、特に高校生女子は39.9%だった。「男は仕事、女は家庭」に対して、男子は「同感

する」が「しない」を上回ったが、女子は「する」と答えたのは、中学生で13.6%、高校生では11.9%にとどまった。男女雇用機会均等法を知っているのは、中学生は男女とも三分の一弱だが、高校生ではともに八割を超えた。

(木田直子)

〈神奈川〉在日韓国・朝鮮人と「かけ橋」が うちり(朝日4/15)

川崎市桜本で日本人と在日の韓国・朝鮮人子弟の合同保育所を運営している「青丘社」は、'82年に、在日の人の多いこの地区の特性を生かした青少年会館をつくるよう市に要望した。市はこども文化センターと合わせて、運営を青丘社に委託することに決め、'86年度予算にも計上したが、地元町内会の反発などで計画は進まず、昨年十一月、ようやく着工にこぎつけ、この六月、「市ふれあい館・桜本こども文化センター」がスタートする。ここでは在日の園児・児童と日本の子どもがリズム遊びや、ことばの勉強をしたり、歴史を学んだりする。

(渋谷裕子)

〈京都〉元校長48人、府教委に「反旗」(朝日4/23・27)

京都府北部の元小・中・高校長四十八人が四月十六日、「日の丸や君が代の押しつけなど、府教委の学校運営への介入は目に余る」と異例の抗議声明を北丹六町に配布したことに關して、西野是夫・同府教育長は、二十二日、「声明に名を連ねた元校長らは教組と同じ穴のムジナだ。こんな元校長らの影響を受けている先生は校長に登用しない」と述べた。これに対し、奥丹後地方教組は、「常軌を逸した異常な発言」として、取り消しを求める抗議の申し入れをした。

'79年から'80年にかけて、丹後教育長会と奥丹後地方教職員組合との間で、「職員会議は議決機関とする」など十一項目の「合意・確認事項」がまとめられ、これに沿って学校運営がされてきたが、府教委は、「校長の権限が侵されている」と今年に入ってから関係町教委へ指導を強めていた。(塚崎美和子)

〈奈良〉今時プレハブ授業(朝日4/19)

生駒市高山町、市立生駒北小学校にこのほどプレハブ教室が建てられ、五年生の二クラスが今年いっぱいここで過ごすことになった

た。父母からは抗議の声があり、同校は四月十八日、説明会を開き、「予想以上に転入生が増えた」と釈明した。だが同校は二年前、約二億五千万円かけて四教室を増築したばかりで、しかも転入生は二十六人だけ。教育行政にゆとりがなさ過ぎるとの声がでている。

(乾 庸子)

〈広島〉「毒ガス資料館」オープン (赤旗 4/17)

昭和初めから第二次大戦にかけ、日本陸軍の毒ガス製造工場があった広島県竹原市の大久野島に「毒ガス資料館」が完成した。大久野島では、旧陸軍が秘密でイペリットなど毒ガスの製造を始め、最盛期には約五千人が従事していたといわれている。当時の作業員の中には、いまも後遺症に悩む人がいる。「毒ガス製造の実態を後世に伝える」ために建てられた資料館の総工費三千五百万円は関係者らが出し合った。

(由良サダコ)

〈徳島〉前髪カット——新女生徒の7割が受難!! (徳島 4/29)

徳島商業高校では、四月十三日、一年生の身分証明書に使う写真を撮る直前、校則違反の

女生徒の前髪をハサミで切った。十一クラスの女生徒三百六十人のうち二百六十人が対象になった。「嫌がる子は少なかった」と学校側は言うが、生徒は「泣き出した子が多い」という。おりしも四月二十五日、文部省は全国都道府県教委の中等教育担当課長会で校則見直しを求める目前のできごとだった。(棚上節子)

〈鳥取〉180号迎えた「県婦人新聞」 (日本海 4/17)

一九五〇年に創刊されて以来、毎週一回、休むことなく発行されている「鳥取県婦人新聞」が、四月十七日付で千八百号を迎えた。これほど長期間、週刊で出された婦人会機関紙は全国でも珍しく、「戦後の女性史」としても貴重な存在、現在はタブロイド判四ページの体裁で、消費問題や環境汚染、食品添加物、同和問題、いじめ、原発問題などに取り組み、編集長の山内葉子さんら三人が、毎週火曜日に県社会教育福祉会館で作業にあたっている。

(前田享子)

〈宮崎〉大宮第二高校訴訟で全面敗訴 (宮日、朝日 4/29)

一九六九年四月、県立大宮高校夜間部が、

大宮第二高校として独立した直後に、生徒が「一方的な強制転校」と反発、現場教師も校長室でのハンストなどをして、一年間に及ぶ学園紛争に発展した。県教委は、70年三月、教師ら十八人を授業拒否、校長排斥など職務命令違反で、停職などの処分にした。この処分を受けて原正義教諭ら十七人が「処分は違法である」と、処分取り消しを求めていたが、

四月二十八日、宮崎地裁で判決があった。川畑耕平裁判長は、「地方公務員法に違反し、処分は校長裁量の範囲を超えていない」と、原告の請求を棄却した。このあと、原告団と県高教組の教諭ら約七十人が集会を開き、「宮崎地裁の不当判決に断固抗議し、教育行政として民主教育の実現にまい進する」という声明文を採択した。

(永田 育)

〈沖縄〉なんでもお引き受けします (沖縄タイムス 4/10)

那覇市婦人連合会が中心となって「那覇ファミリーサービスクラブ」が発足した。同クラブは援助を必要とする人と、労力を提供したい人の相互扶助組織。サービスの内容は、掃除、買い物、洗たく、料理、子守、老人・病人の世話など。 ☎0988・33・1817 (大嶺麗子)



★教えるべき人物に東郷元帥

——小学校社会科指導要領文部省案に★

文部省は小学校の学習指導要領を11年ぶりに見直し、今年中に新しい内容を告示するが、同省案によると、社会科の6年生では、人物をより重視した日本史学習を導入することが明らかになった。時代ごとに必ず教える人物を具体的に示しており、計10人の「歴史上の人物」の中に、戦後の小学校教科書からは消えていた東郷平八郎元帥の名前が挙げられているのが目立っている。指導要領は法的拘束力があるとされ、これが正式に決まるとすべての教科書に確実に登場することになる（5・16付朝日）。

★中・高校、校則の簡素化を

——文部省、「生徒の参加」も促す★

校則をめぐるトラブルが相次いでいる中、文部省は、内容が細かすぎたり管理主義に陥りすぎている中・高校の校則の見直しを求める方針を決め、4月25日と5月19日の2回、各都道府県教委を指導することとなった（4・24付毎日）。これをうけて、5月19日、東京都道府県会館で、文部省の「都道府県教委生徒指導担当指導主事連絡会議」が開かれた。同省はそこで「校則の内容は絶対守るべきもの、努力目標というべきもの、児童生徒の自主性に任せてよいもの、がミックスされている」と指摘、学校・地域の実情や保護者の考え、児童生徒の実態を踏まえて校則作りを進めるよう求めた（5・19付毎日夕）。

★海外子女教育、見直し★

企業の海外赴任者の急増に伴い、子どもの教育問題がクローズアップされているが、文部省は近く、海外子女・帰国子女の教育のあり方を検討する協議会を発足させる。海外子女教育全般について見直すのは76年以来12年ぶり、海外での高校教育、日本人学校における現地の子どもの受け入れ、帰国子女の受け入れ策などを主なテーマにする（5・3付毎日）。

★大学公開講座、7年で倍に

——「生涯学習」着実に★

大学が一般の人を対象に実施する公開講座の講座数が、86年度までの7年間で倍増し、受講者も3倍に増えていることが5月3日、文部省のまとめでわかった。88年度も「ゴルパチョフのペレストロイカ」（北大）、「親子パソコン教室」（上越教育大）、「高齢者健康づくり教室」（広島大）、「水産におけるハイテク・バイテク」（東京水産大）、「島おこしと人づくり」（島根大）など、時代にマッチした新講座が開設されており、〈象牙の塔〉の門戸が着実に開かれているが、文部省は「生涯学習の拠点。もっと増やして欲しい」と大学側に注文をつけている（5・4付毎日）。

★初任者研修、85%が肯定

——

文部省アンケート、新任教師は「負担」★

文部省は87年度に試行した初任者研修に関するアンケート調査結果を、4月27日の衆院文教委員会で公表した。新任教員の他、対象学校の校長、指導員も含めたアンケートで、初任者研修自体については全体の85%が肯定的な意見を寄せたが、一方で新任教師の半数は「子どもとの触れ合いに影響がある」と悩みを訴えた（4・28付毎日）。

★こども人口、20%を割る

——15歳未満、前年比72万人減★

年々減少してきたわが国の総人口に占める15歳未満の子どもの割合が、今年については19.9%と、初めて20%台を割ったことが5月4日付けで総務庁が発表した「こども人口調査」（4月1日現在）でわかった。

一方、65歳以上の老年人口は年々増え続け、今年は11.1%になった。同庁は、子どもの数の割合は今後も低下を続け、95年ごろには17.6%程度になり、その後は第二次ベビーブームの子どもが母親の年齢になるため緩やかに上昇するとみている（5・5付各紙）。

★校則、体罰に不満いっぱい—— 弁護士らがシンポ、子どもたちが「人権宣言」★

校則や体罰で踏みにじられている子どもたちの人権を回復しようというシンポジウム「ぶっとばせ！ 体罰・校則・退学処分」が5月8日午後、東京・西神田の労工会館で開かれ、子どもたちによる「子どもたちの人権宣言」が出された。シンポジウムは息苦しい学校生活にあえぐ子どもたちに手をさしのべようと弁護士が集まって結成した「子どもの人権弁護団」の発足を記念して開いた。細かい校則で縛られ窮屈な思いをしたり、いじめや体罰の被害にあったり、登校拒否の子どもや子どもの教育に悩みを持つ母親、弁護士ら約500人が参加した（5・9付各紙）。

★日教組、「子供の人権保障」を最大課題に——校則、体罰など取り組み★

日教組の福田忠義委員長は5月14日、岡山県庁で記者会見し、7月に開催予定の定期大会に提案する本年度運動方針案の再重要課題に「子供の人権保障」を掲げ、いじめや教師による体罰、厳しすぎる校則、登校拒否などの問題に組織をあげて取り組む考えを明らかにした。福田委員長は「教師に人権意識、子どもが主人公という考えが薄く、上から子どもを教えてやる意識が強かったので体罰などの問題が起きた」との反省を示し、「日教組の再生は教育運動を通して果たすしかなく、その柱は教師みずからの人権意識を問い直し、子どもの人権をどう保障するかということだ」と述べた（5・15付毎日）。

★都立高校生の集団献血、都教育庁奨励通達——「健康上心配」養護教諭ら反発★

国公立高校の集団献血は、100%の県もある中で、東京都は1%以下（86年）となっている。都立高校の養護教諭で組織する学校保健研究会（永野由紀子会長）の要請などから、都教育庁が献血に消極的だったため。ところが、同庁は態度を一転させ、このほど、校長に集団献血を奨励する通達を出した。同研究会は「強制力が伴う集団献血に道を開くのは、納得できない」と反発。学校現場で混乱も予想され、校長の間からは「関係者が、もっと話し合うべき」

の声も出ている（5・8付毎日）。

★ニューヨークの原発、一度も運転せずに解体へ——反対運動の成果があがる★

ニューヨーク市郊外に53億ドル（約6625億円）かけて建設した原子力発電所を一度も運転しないまま解体することに5月12日、電力会社とニューヨーク州当局が合意した。ずさんな管理、避難場所の欠如から操業反対運動が盛り上がった結果である（5・13付朝日）。

★原発PR政府と業界「2人3脚」

——広がる反対運動に危機感つのらせ★

原子力発電を推進している通産省、電力業界が、このところ盛り上がりを見せている反原発運動に対して「従来の運動に比べ広範囲で手ごわい」と「危機感」をつのらせている。同省はすでに、省内に「原子力広報本部」をスタートさせているが、5月11日には、田村通産相が電力業界首脳と「原発PR強化」で懇談するなど、初めて政府・業界ぐるみで本格的な取り組みを開始した（5・12付毎日）。

★「反原発集会をするな」——匿名電話で学習会中止、校長決定に住民反発★

北海道江別市文京台の住民が同市立文京台小学校（藤島敬次校長）で予定していた「広瀬隆のビデオを観る会」が匿名の「反原発集会をするな」という嫌がらせ電話に学校側が屈した形で、中止になっていたことが明らかになった。藤島校長は「学校運営に混乱をきたす恐れがあった」と説明しているが、住民側は「きちんと名前を名乗り行動しようとする私たちと学校との約束が、匿名の圧力でのみ消された。何か空恐ろしい感じがする」と言っている（5・18付朝日）。

★政府広報の担当官が汚職★

5月11日、政府広報の発注を取り仕切る立場を利用し、業者から多額の賄賂をとっていた総理府の前管理室長橋本哲曙を東京地検特捜部は収賄の疑いで逮捕した。あらためて、意見広告まがいのものとなっている今の政府広報のあり方が問われることにもなった（5・12付各紙）。

★Weバックナンバーのご案内★

(vol.1) (vol.2) (vol.3) (品切れ)

(vol.4)

5月号 結婚の風景

6月号 家族、その人間関係

7月号 離婚と子どもたち

85年夏増 働き続けるために

11月号 みのりの秋に

12月号 人間と土を生かす

1月号 くらしの文化を探る

2・3月号 水はいのちの泉

(vol.5)

4月号 幼い日ー大人は忘れてしまった

5月号 子どもー大人の勝手な思い込み

6月号 “いじめ”その根っこには何が?

7月号 性小・中・高校生は何を思う?

86年夏増 子どもたちへ大人になる旅

8・9月号 親ーいま、学校に何ができる?

10月号 家庭科ーいま新しい地平に立つ

11月号 家庭科ーどう変える、どう変わる

12月号 平和ー今年を顧みる

86年冬増 自分らしさをこそⅢ

1月号 女性ー世界を変え得るか

2・3月号 明日ー人はみな成熟に向かつて

(vol.6)

4月号 先生は悩んでいる

5月号 情報化社会の光と影

6月号 学校給食で論争しよう

7月号 “制服”着る・着せられる

89年夏増 女たちの教育改革提言

10月号 “原発”知らなくていいのか

11月号 機会均等法、何が変わった?

12月号 “家族”どう変わる、どう変える?

「国際居住年」って何だった?

87年冬増 ゆたかきを防ぐ

1月号 Weのルネッサンス

2・3月号 新教育課程をどう考えるか

(vol.7)

4月号 なぜ、行くのか 学校へ

5月号 学校ー絶望ー希望

6月号 学校ー今、親にできること

WE EDITOR'S NOTE

◆夏季フォーラムー大阪開催に向けて、関西の方々の着々たる準備、進行に圧されています。遅ればせながら、東京地区のWeの会の世話人の方々と、五月下旬話し合いを持ちました。そこで、西の文化、東の文化がひとしきり話題になり、そんな切り方、方も持つて参加できる今年の夏、ワクワクしています。(青木)

◆反原発運動が全国的になつております。四月二四日の「原発とめよう! 一万人行動」も二万人が参加しました。昨年と比べると本当に大きな力を感じます。しかし、圧力もまた大きくなっているようです。◆購読料送金に銀行振込をご利用の際には、お手数ですが、ご一報を。銀行の略記ではわかり難いのです。(中野)

◆毎月十五日は発送の日。助っ人に来て下さる方とおしゃべりが、編集部の方々の楽しみなのですが、最近はお顔を覚えて下さるのは、いつもハツラツと歯切れのよいお話が魅力の河内さんおひとりだけ。淋しいので是非いらして下さい。尚、月により発送日の変更があるので、お出かけの前に電話下さい。(稲邑)

♥「コンピュターと教育」について、ここ数か月考え続けていました。その中で一番感じたことは、理想と現実とのギャップです。そこを埋めていくものは、日々の授業であり、大きくとらえれば教育という営みそのものだという気がします。♥今月号への、読者のみなさまの反響を切望しています。(西内)

〈表紙の言葉ー加藤由美子〉

栽培がきくのと、ハウス栽培等一年中ある人参。どれも新物が多量に出るから。あんのりの甘さ。ほのり季節ガンバッテみて、私は大好きなんです。

★家庭科にコンピュター、閃くのは30年前の技術。家庭の誕生。'57年ソ連がスプートニクの打ち上げに成功。中教審・日経連などから科学技術教育振興策が出て、'58年の小・中学習指導要領告示で、職業・家庭が技術・家庭に転じました。今回は、国際経済上ハイテク産業に移行の必要から、臨教審が答申、教課審が教育現場に持ち込みました。次は「コンピュター何をどう変える」です。(半田)

新しい家庭科ー

Vol. 7 No. 4 1988年6月20日発行
(年間購読料・増刊号含¥6900)
編集兼発行人／半田たつ子

発行所／(有)ウイ書房

〒182 東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14
☎03(326)1380 振替 東京6-59867
印刷所／(有)岩佐印刷所 〒112文京区春日1-6-7

☆プログラム ★は子ども活動 (☆)は子ども・おとないっしょの活動

8 / 6 (土) 午 後		よ る		8 / 7 (日) 午 前		午 後		8 / 8 (月) 午 前		
1 : 00	受 付	7 : 30	<分科会>	8 : 00	早朝ミニハイク(希望者)(☆)	1 : 30	<分散会>	8 : 00	朝 食	
2 : 00	開 会 〈オリエンテーション〉 みんなうちとけあって(☆)		1. 女と男のいい関係 2. 性と向きあう 3. 家庭科—わたしを変える、くらし を 変える 4. 教育と人権と 5. わたしの言いたいこと—在日朝鮮 人として、女として 黄貞順さんと語ろう 6. 女と男の働き方—今、これから 7. 反原発とわたしたちのくらし 8. 女と政治、飯田しづえさんと語ろう ★子どもたちは「ひよどり」で楽しい プログラムが待ってるよ		9 : 00	朝 食 受 付 9 : 30	<全体会> 「今、教育は」 提案者 田中英雄さん (ラミ、中学校ほしいねん! 設立準備委員長) 中島絢子さん (神戸子供の人権と健康を 考える会) 半田たつ子さん (女性民教審) ★子どもたちは それ! フォーラム夏 祭りの準備	1. 感性を織る—わたし革命 城みさをさんと共に(作品は各自持ち 帰りいただけます) 2. 野外コース 能勢のくらし15年のオリバーさんを訪 ねる(車3台に分乗できる15人で締切 ります) 3. 午前の話し合いに引き続き、「教育」 を語る 4. 「家庭科」など、前夜の分科会を続け る方はどうぞ	9 : 00	<全体会> 「フォーラムを顧みる」(☆) 分科会・分散会・子ども活動 フォーラムで得たもの、得 られなかったもの 来年はぜひこんなことを… 閉 会 (☆)
2 : 30	<全体会> 「家族」であることと個 であること —私の家族改造論— 宮迫千鶴さんと共に ★子どもたちは くなくよくなろう 能勢の自然の中で、思 い切りのびのびと		★子どもたちは「ひよどり」で楽しい プログラムが待ってるよ		12 : 30	昼 食	4 : 30	<フォーラム夏祭り> 木立ちの中の広場で、子どもたちが企画 し、子ども係と一緒に準備した屋台で、 食事をしながら、歌ったり話したり、星 を見たり、昔なつかしい緑日気分を味わ いましょう(野菜と肉は、能勢有機農場 ・牧場から調達)(☆)	12 : 00	午 後 実行委員と有志による反省 会
5 : 30	夕 食 各地の読者会報告		9 : 00		子どもたちはおやすみタイム おとなは分科会のつづき、または「こ の指とまれ式交流会」			9 : 00	子どもたちはおやすみタイム おとなは、原発関係の映画など……	
6 : 00										

'88We夏季フォーラム申込書 (必要事項をご記入、または該当するところを○で囲んで下さい)

お名前	(男・女)	お子さんづれの場合 お子さんの名前	(男・女) (歳)
お仕事 学校名 など			
自宅住所 (会員証 送り先)	〒		
参加日	8/6(土)	8/7(日)前	8/7後
分科会の希望	1 2 3 4 5 6 7 8 その他()	分散会の希望	1 2 3 4 その他()
関心のある こと、語 りたいこと			
昼食	8/7 要・不要 8/8 要・不要		
参加費	大人	子供	
宿泊費	大人	子供	
昼食費 (+or-)		子供	
計		計	

現金書留・郵便振替で右記の通り送金します

1988年 月 日 円

☆参加のための費用 (前納)

●参加費 (全員行事災害保険に加入・含保険料)

	全日程	1日通し
大人(大学生以上)	7,200円	5,000円
子供(3歳~高校生)	1,800円	1,300円

●宿泊費

	1泊3食	2泊6食
大人(中学生以上)	5,000円	9,700円
子供(小学生)	4,000円	7,700円
幼児(食事を注文する場合)	2,300円	4,500円

- 1日通しとは、午前・午後、または午後・翌日の午前を意味します。
- 宿泊せず、昼食希望の方は、参加費に1食700円を加えて下さい。 } 申込書に明記のこと。
- 3日目の昼食不要の方は、宿泊費から700円引いて下さい。 } 大人・子供同額です。

☆申し込み方法

- 左の申込書にご記入の上、代金を現金書留か郵便振替でお送り下さい。振替の場合、局の領収書を申込書に添え、封書でお送り下さい。
- 申込〆切 7月25日(当日消印有効)。変更の場合、7月29日までに。それ以後は、参加費、宿泊費等をお返できません。
- 申込先 〒182 東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14 ウイ書房フォーラム係
(振替番号: 東京6-59867) ☎ 03(326) 1380
- 会費を受け取り次第、会員証をお送りします。

交通のごあんない

●新幹線

新大阪 $\xrightarrow{\text{JR 4分}}$ 大阪 $\xrightarrow{\text{徒歩 10分}}$ 阪急梅田 $\xrightarrow{\text{阪急 急行 23分}}$ 川西能勢口 $\xrightarrow{\text{能勢電 17分}}$ 山下 $\xrightarrow{\text{山下 30分}}$ 宿野 $\xrightarrow{\text{デマンドバス 14分}}$ ルーテル能勢研修センター

各停28分

山下 $\xrightarrow{\text{タクシー 20分}}$

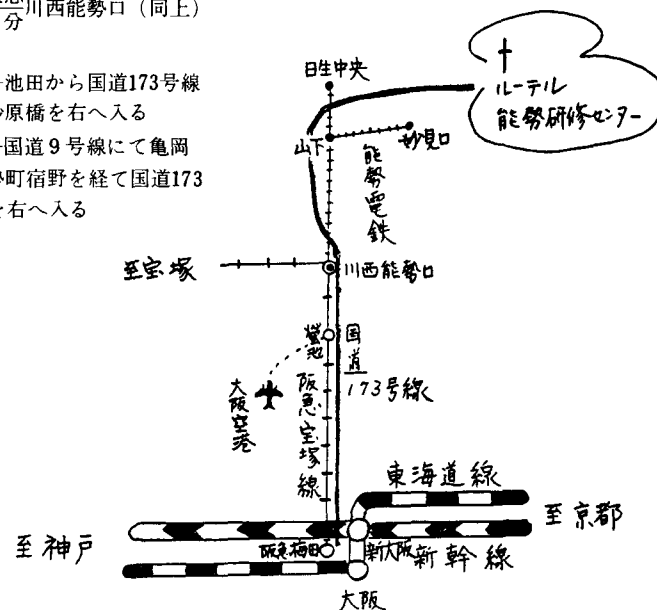
●飛行機

大阪空港 $\xrightarrow{\text{バス 7分}}$ 阪急蛍池 $\xrightarrow{\text{阪急 7分}}$ 川西能勢口 (同上)

●自動車

大阪・神戸方面からは一池田から国道173号線に入り、森上を経て砂原橋を右へ入る

京都方面からは——国道9号線にて亀岡から湯の花温泉、能勢町宿野を経て国道173号線に入り、砂原橋を右へ入る



●阪急バス時刻

山下	宿野	能勢の郷口
(略)		
○9:32	10:01	10:15
10:07	10:36	1日目の全体会の開始に間に合うのはこの範囲、そのためには、梅田に12時頃お着き下さい。
10:47	11:16	
11:27	11:56	
12:07	12:36	
13:07	13:36	
13:55	14:42	
14:07	14:36	
14:47	15:16	
15:27	15:56	
○16:08	16:37	16:51
○16:38	17:07	17:22
(略)		

注意 山下駅から能勢の郷口に直行するのは、一日のうち、○印の3本だけです。他は「宿野」からデマンドバスにて「能勢の郷」へ。

デマンドバス

定期バスを補うため、不定期に要請があれば走る

方法 ①山下駅からバスに乗車前に、運転手に要請を頼む。

②0727-34-0040へ直接telして要請する。

★30人乗り、小型バス1台しかありません。バス乗車前に必ず要請のこと！

'88年 *We* 夏季フォーラムへのおさそい

「ゆたかさを紡ぐ II

—一人が人と向きあうところで—

今年は、フォーラムが関西にやってきました。大阪から1時間半、能勢の里は開発がもうそこまでやってきているというのに、不思議なほど自然が豊かです。空の青さ、緑蔭をくぐり抜ける風の涼しさもまた格別です。

昨夏は山形のくらしに学び、ゆたかさを、地域の生活文化をどう紡ぐかを語り合いました。今年は都市におけるゆたかさを人と人とのつながりの中から追求したいと願っています。ややもすればお互いに傷つくことをおそれて、「むき合う」ことをさけてきた私たち、本音で語り合いませんか。

講師は宮迫千鶴さん。「個」の確立の視点からさわやかな家族論を展開する中で、女と男のいい関係を語ります。春のゼミナールからもちつづけている「教育」の問題を、田中さん、中島さん、半田さんが各々の立場で提案します。子どもの人権を守るために今、私たちに何ができるか考えましょう。

分科会・分散会も、関西実行委員の一人一人が熱い思いをこめて準備しました。「さをりひろば」から織機5台をお借りします。自由に無心に織ってあなた自身を表現してみませんか。

2日目の夕方から、子どもと大人が共に楽しむ「フォーラム夏祭り」を企画しました。昔なつかしい縁日気分を、夕暮れと共に味わいましょう。オールナイトで語り合いたい人のために、木立の中のキャビン「かっこう」を予約しています。子どもたちには「ひよどり」が待ってますよ。

関西に住まう人達、これを機会に新しい出会いを求めてフォーラムに参加しませんか。Weはあなたが求めるもの期待するものを散りばめて、待っています。

☆と き 8月6日(土) 1:00受付 2:00開会～8月8日(月)12:00閉会

☆と ころ ルーテル能勢研修センター
〒563-03 大阪府豊能郡能勢町山辺409
TEL 0727-34-0157

☆規 模 200名収容宿泊室、キャビンも含めて全施設借り切りしました。

☆主 催 ウィ書房・Weの会

北海道

〈旭川〉京栄堂、樋口〈札幌〉
北東堂、維新堂〈島松〉グ
イヤ〈苫小牧〉熊谷〈伊達〉新
生堂〈函館〉神田、森文化堂
青森県
〈青森〉成田本店、遠藤〈八
戸〉伊吉書院〈弘前〉とよはら
〈三沢〉好文堂
岩手県
〈盛岡〉東山堂〈花巻〉誠山房
〈水沢〉松山
宮城県
〈仙台〉八重洲、萩書店、高山、
千忠、宝文堂〈古川〉高山
〈泉〉ホビット館
秋田県
〈秋田〉加賀屋、たかのずや、
中田、荒川〈大館〉石川〈湯
沢〉おびきゅう
山形県
〈酒田〉八文字屋、遠藤〈山形〉
高陽堂、ばんべい、教育用品
〈鶴岡〉阿部久
福島県
〈福島〉岩瀬、西沢〈郡山〉松
文堂、すばる〈会津若松〉ニ
シザワ〈いわき〉BSオオスカ
〈梁川〉第二大竹
群馬県
〈藤岡〉川島朝日堂〈前橋〉ア
ルプス社、遊書館〈中之条〉
島村〈渋川〉正林堂
栃木県
〈宇都宮〉杉山〈足利〉関口
〈栃木〉福田屋
茨城県
〈水戸〉ツルヤB.C.〈土浦〉白
石、マセゼン
埼玉県
〈浦和〉岩淵、須原屋〈川口〉
新井、ブックスサトウ、〈越谷〉日
野屋〈東松山〉比企文化社
〈和光〉山屋〈狭山〉楓書房〈蓮
田〉マズダ〈大宮〉阿里書房、
岩井〈飯能〉安藤芳文堂〈入
間〉ヤマトウ〈新座〉みやかわ
南口店〈熊谷〉神田弘文堂
〈鴻巣〉奥沢
千葉県
〈船橋〉前原かつば、西武B.C.
はつらつ書房〈松戸〉元山〈津
田〉大和館〈佐原〉多田屋
〈市川〉大杉、千里堂〈成田〉
中台書房〈四街道〉モンジェ堂
千代田店〈東葛飾郡〉ブッ
クスさかさい
東京都
〈千代田〉日成堂、書肆アク
セス、三省堂本店、書泉グラ
ンデ、東京堂、八重洲B.C.
芸能、笠原松文堂〈文京〉ピ
ッピー、文明堂〈豊島〉池袋、紀
文堂、四季書房〈杉並〉木

風舎、新愛、ブラサード、
たつみ書房、西萩、結、大
正堂、みどり書房、山口
〈新宿〉紀伊國屋、模索舎、
風書房、伊野屋〈渋谷〉す
べーす・えいがさい〈練馬〉い
ずみ〈葛飾〉宏精堂、中村、稲
田、大和〈世田谷〉やまべ、江
崎〈北〉愛京堂〈大田〉三州
堂、藤乃屋〈荒川〉昌栄堂〈江
東〉吉田書籍部〈品川〉雄文
堂〈目黒〉中川〈足立〉ブッ
クスアオギキ〈吉祥寺〉ウニ
タ書房〈三鷹〉第九書房、た
べもの村〈武蔵野〉いかりし
〈調布〉神代、小松〈小金井〉
かごや〈府中〉国府書店会、
一二三書房〈国分寺〉吉野〈国
立〉増田、増田富士見古店、リ
ーウル三樹〈立川〉オリオン書
房、オリオンウイルド、泰明堂、
石井〈小平〉和中、明文堂、大
島〈清瀬〉マルオカ、飯田〈町
田〉久美堂〈日野〉南友堂、
ブックス伊藤〈東久留米〉黒目
書房
神奈川県
〈横浜〉有隣堂、栄松堂、とも
だち、みどり書房、有文堂、博修
堂、水野〈川崎〉北野、早川、大
塚、大塚読売ランド店、ホー
エイ川崎〈相模原〉中村書房
〈鎌倉〉大船書房〈相模大
野〉相模書房〈藤沢〉東松堂
〈綾瀬〉藤美堂〈茅ヶ崎〉文
泉堂〈小田原〉伊勢治〈平塚〉
サクラ大和〈中央〉厚木〉内
田屋書房、相田〈大和〉いずみ
静岡県
〈静岡〉吉見、江崎外商部
〈磐田〉あつみ〈浜北〉谷島
屋〈浜松〉遠州堂、稲勝〈沼
津〉マルサン、ランケイ社〈清水〉
戸田〈下田〉村上〈焼津〉谷
島屋〈富士宮〉小長谷、戸田
〈榛原郡〉大石
愛知県
〈一宮〉文正堂、資然堂〈名古屋〉
ウニタ、谷口正文館、白樺
書房西店、白揚、竹中、中田書
房、きたやま、丸山、ちくさ正文
館、兼松、九倉、前田、ポラン
の広崎〈江南〉青雲堂〈豊橋〉
文教、耕文堂〈豊田〉鈴彦
〈岡崎〉カマクラ文庫〈尾張
旭〉活人堂〈瀬戸〉三浦〈西
尾〉黒部〈愛知郡〉日進書房
〈刈谷〉酒井日進堂
岐阜県
〈岐阜〉文光堂〈恵那〉松林堂
新潟県
〈新潟〉栗山、万松堂、文信
堂〈上越〉玉川、春陽館
〈新潟〉英進堂〈長岡〉覚張

〈栃尾〉稲豊
富山県
〈富山〉清明堂〈高岡〉清文堂、
イソップ屋〈水見〉布瀬善〈新
湊〉川辺
長野県
〈岡谷〉笠原〈松本〉新光堂、
りょうん堂〈長野〉平安堂〈上
田〉英文堂〈飯田〉平安堂
〈伊那〉矢島〈須坂〉山下〈上
水内郡〉靴屋
石川県
〈金沢〉うつのみやセールスセ
ンター、北国書林〈鹿島郡〉
千間
福井県
〈福井〉ひまわり、品川
奈良県
〈天理〉海老山〈奈良〉広谷屋
南都書林、たけだ
三重県
〈松阪〉中村〈伊勢〉古川〈桑
名〉潮
大阪府
〈大阪〉紀伊國屋、ユーゴー、
樋口書籍、米原十六堂、藤川、
学の友、西坂、呼文堂、もり、
富士原文信堂、飯田集英館、
川口文堂堂、坂口、篠田、丸
山、青泉社〈東大阪〉ヒバ
リヤ、〈和泉〉かつらぎ〈豊
中〉昌文堂、豊文堂、センリ
〈高槻〉コーベブックス西武
ダイハチ書房〈池田〉春江〈岸
和田〉斉藤〈堺〉ワールド、西
村、清城堂、三教堂、登美屋、
みいけ、カツヤ書房〈茨木〉サ
ノヤ〈寝屋川〉中村興文堂、
寝屋川団地
京都府
〈京都〉松香堂、オデッサ書房、
中島書院、洛陽〈宇治〉大久保
京都書院、井田〈長岡京〉恵
文社神足店〈亀岡〉亀岡書房
〈舞鶴〉舞鶴堂、北浦愛文堂
和歌山県
〈和歌山〉宇治、有馬〈新宮〉
荒尾成文堂
兵庫県
〈神戸〉流泉書房、ヒカリ、日
進堂、文進堂、幾久、明文館、
漢口堂〈宮西〉イカロス書房
〈尼崎〉宣文堂、塚新西武B.C.
〈姫路〉姫路丸善、浅野八代
〈明石〉学友書房、本・豊園
ひさや〈三木〉三木ブックス
〈龍野〉伏見屋〈多紀郡〉小山
岡山県
〈笠岡〉池田成章堂〈井原〉金
森〈岡山〉福島かねつき堂、
丸善岡山〈倉敷〉吉川隆泉堂、
ニヒスヤ
鳥取県
〈米子〉今井MC本店〈鳥取〉

富士
島根県
〈出雲〉武田〈鹿足郡〉金山
文具店〈松江〉ブックス文化
の友〈浜田〉吉田屋〈邑智郡〉
森脇
広島県
〈広島〉やまびこ、いづみ、紀
伊國屋、ニシヤ、黙乎堂〈尾
道〉花本、啓文社〈福山〉岡田
山口県
〈山口〉文栄堂〈厚狭郡〉佐々木
香川県
〈高松〉みやたけ
愛媛県
〈川之江〉トウヤおおくぼ〈松
山〉丸三
徳島県
〈徳島〉雄徳堂徳野、森住九
善
高知県
〈土佐市田〉依光〈高知〉金
高堂
福岡県
〈北九州〉北九州、白石、黒崎
ひとりおB.C.〈福岡〉金文堂、
積文館、金進堂、尾崎堂、高
崎、丸山〈筑紫野〉丸山スコ
ーレ店〈直方〉みやはらく田川
石川〈久留米〉菊竹金文堂
江頭〈筑後〉吉田大川山口
〈粕屋郡〉尾崎堂
佐賀県
〈唐津〉まつら〈佐賀〉金華堂
長崎県
〈長崎〉好文堂、童話館〈浦溝〉
丸屋〈佐世保〉金明堂
熊本県
〈熊本〉教育文化用品KK、三
章文庫〈本渡〉鶴田玉文堂
宮崎県
〈延岡〉池田〈宮崎〉大山成文
館、若印
大分県
〈大分〉開書堂、今村、高校用
品販売、福田〈日田〉文化書
房
鹿児島県
〈鹿児島〉スズキ〈鹿児島〉加
世田
沖縄県
〈那覇〉朝野書房
大学生協
帯広畜産、東北、岩手、山
形、福島、新潟、宇都宮、
茨城、埼玉、芝浦工、日
本女子、東京、東京家政、
成蹊、東京工、お茶の水女
子、桜美林、横浜国立、山
梨、静岡、大妻女子、愛知
教育、金沢、富山、和歌山、
大阪市立、立命館、神
戸、宮崎、高知、香川、鳴門
教育、愛媛、琉球